

# ひょうごの景観ビューポイント BEST 150選

大手前通りと姫路城



【VIEW POINT】  
キャスルビュー

柳並木と太鼓橋



【VIEW POINT】  
城崎温泉街

丹波の山々と雲海



【VIEW POINT】  
黒井城本丸跡

明石海峡大橋



【VIEW POINT】  
道の駅あわじ

ポートタワーと神戸海洋博物館



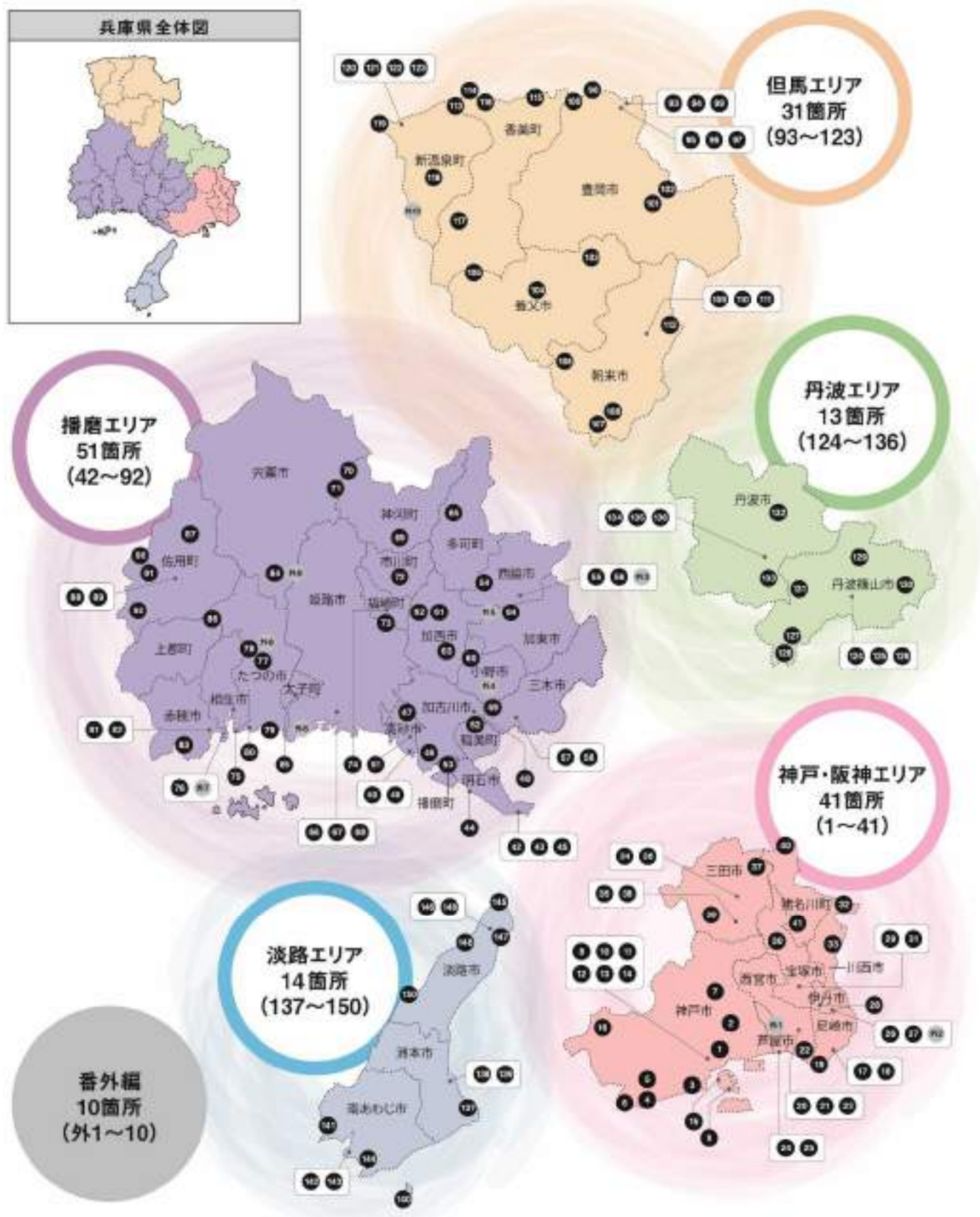
【VIEW POINT】  
メリケンパーク



美しい  
“ひょうご”と  
出逢う場所。



## 位置図



### 【地図の見方】

- ・ 図中の「No.」はビューポイントのおおまかな位置を示しています。
- ・ ビューポイントが密集している場所は、引き出し線で      (枠囲み) で示しています。
- ・ 「外」から始まる「No.」は「番外編」です。

地域の魅力再発見 ～ビューポイント 150 選～ 兵庫県知事 井戸敏三	.....	2
「ひょうごの景観ビューポイント 150 選」の特徴とその役割 兵庫県景観審議会会長 鳴海邦碩	.....	3
取組の経緯	.....	4
ビューポイント 150 選		
第 1 章 神戸・阪神エリア No. 1～41	.....	7
第 2 章 播磨エリア No. 42～92	.....	31
第 3 章 但馬エリア No. 93～123	.....	63
第 4 章 丹波エリア No. 124～136	.....	81
第 5 章 淡路エリア No. 137～150	.....	91
第 6 章 番外編 No. 外 1～10	.....	101
テーマ・目的別索引	.....	109
参考文献	.....	115

## 地域の魅力再発見 ～ビューポイント 150 選～

1868(慶応 4) 年、明治の幕開けとともに誕生した兵庫県は、その後、摂津、播磨、但馬、丹波、淡路の個性豊かな五国が一つとなり、総合力を発揮しながら今日の雄県兵庫をつくりあげてきました。

私たちは、県政 150 周年を迎えるにあたって、県民の皆様とともにその兵庫の歩みをふり返るとともに、兵庫のこれからの思いを寄せる機会にしよう多彩な記念事業を展開しました。

「ひょうごの景観ビューポイント 150 選」もそのひとつです。150 年にあわせて、素晴らしい景観を眺められるポイントを 150 箇所選定しました。

この目的の第一は、「地域の魅力の再発見」です。

そのため、多くの県民の皆様に参加いただく企画とし、ビューポイント候補は公募によるものとししました。また、県民が選定に参加できるようインターネットによる投票を行い、その結果を踏まえて、景観審議会にビューポイントを選定していただきました。

目的の第二は、「地域の魅力の情報発信」です。

兵庫の素晴らしい景観を県内外の多くの方々にお伝えし、実際に現地を訪れていただきたいとの願いを込めました。この冊子は、その情報発信の一端を担うだけでなく、兵庫が誇る景観を後世に伝えるものでもあります。

誰もが皆、思い出の場所、お気に入りの場所を持っているのではないのでしょうか。この 150 選にも、ご応募いただいた多くの皆様の様々な思いが込められているはずです。私は、そうした思いを大切にすることが、ふるさと意識の醸成につながると信じています。

ふるさとは、単に生まれ育った場所ではありません。都市であれ多自然地域であれ、暮らしの中で家族や友人、身近な方々と様々な体験や交流を重ねることで、“ふるさと”になるのです。

これからの兵庫をつくるのは、ふるさとを愛し、地域とともに歩いていく県民の皆様一人ひとりです。ともに手を携え、人と地域の未来に夢や希望が広がる「すこやか兵庫」の実現に向かって歩いていきましょう。



兵庫県知事

井ノ口 敏三

## 「ひょうごの景観ビューポイント 150 選」の特徴とその役割

景観は「人間の営みと自然とがあいまって造り出された見える環境」のことで、「風景」と呼んでもいいし、「眺め」と呼んでもいい。そのような景観は眺める対象（“視対象”ともいう）として大事だが、眺める場所、つまりビューポイント（“視点場”ともいう）とセットになっていることに気付く必要がある。このビューポイントを地域に活かすことによって、まちづくりの可能性が広がる。

今回、兵庫県のビューポイントを募集したところ 900 箇所を超える応募があった。インターネット投票の結果を踏まえ、眺める対象の魅力と眺める場所の快適さなどから評価して、代表的なビューポイント 150 箇所と番外編 10 箇所を選定した。選定されたものはもちろん、応募のあったすべてのビューポイントがそれぞれの地域の宝だと思う。

ビュー（眺め）を類型別にみると、まちなみ 47%、自然 31%、田園 8%、史跡 5%、その他 9%となっている。ビューポイント（視点場）としては、路上が 44%、橋の上を合わせると 51%となり、人が通る道が景観上も大事な場所になっている。また視点場が高所にある見下ろし景観が 22%ある。

スマートフォンが普及し、市民・県民の参加による地域景観の発見と景観画像の発信が可能になり、それをネット上に蓄積して掲載することができるようになった。景観画像の一元的な貯蔵庫、レポジトリ（データベース）ができたのである。ぜひこの景観レポジトリを、行ってみたい場所やまちづくり資源の探索に活用していただければと思う。

兵庫県景観審議会  
会長 鳴海邦碩

### ■参考

#### ○ビューポイントの類型別件数

類型	道(路上)	展望施設		公園	橋	その他
		高所	低所			
事例	旧街道・農道	山頂の城跡に設けられた展望台など	JR 姫路駅の展望台、棚田脇の展望広場など	神子畑ステーション、大中遺跡公園など	河川上の橋など	管理棟の一室、駅のホームなど
件数 ( )は 150 件に対する割合	66 (44%)	33 (22%)	13 (9%)	14 (9%)	10 (7%)	14 (9%)

#### ○ビューの類型別件数 ※主たる「見えるもの」で分類

類型	まちなみ	自然	田園	史跡	その他
事例	近景、中景、遠景	海、山、川など	棚田、農地	城跡、古墳など	施設など
件数 ( )は 150 件に対する割合	70 (47%)	47 (31%)	12 (8%)	7 (5%)	14 (9%)

# 取組の経緯

## 趣旨・目的

兵庫県では、全国に先駆けて、昭和 60 年 3 月に「都市景観の形成等に関する条例」（現「景観の形成等に関する条例」）を制定し、魅力ある景観を守り、創り、育み、そして将来に伝えるための様々な取組を進めています。今後は、景観づくりに対する意識の普及啓発や観光振興施策等との連携がより重要となることから、平成 28 年 3 月に「景観行政における今後の施策展開の方向性」について、景観審議会に諮問した結果、これまで保全・創造してきた景観が効果的に見える場所の発見や整備のため、景観形成に「視点場」の概念を導入すること、また、景観まちづくり活動の成果や地域の魅力について、地域内外に向けての情報発信や広報を強化すること、などの提言を受けました。

このたびの「ひょうごの景観ビューポイント 150 選」は、ひょうごの魅力ある景観とその視点場を県民の皆さんと一緒に発掘・発見し、その情報を県内外に広く発信することを目的に“県政 150 周年記念事業”として取り組みました。

## (1) 選定概要

これまで県民やまちづくり団体等により守り育まれてきた、美しいまちなみや豊かな自然など、人を引きつける魅力的な景観を見ることができる場所を「ビューポイント」として選定しました。

「県民参画」をキーワードに、ビューポイントは、募集チラシを行政・観光団体等の窓口で配布するとともに、テレビ、ラジオ、新聞、行政の広報誌・HP でも広報を行い、インターネット等で公募(約 45 日間)しました。応募のあったものは、景観審議会(選考小委員会)において 1 次選考し、県民の意見を聞くためのインターネット投票も実施しました。SNS(インスタグラム、ツイッター)で投票を呼びかけたことで、多くの県民に参加いただきました。その後、投票結果を参考に同審議会の 2 次選考で最終選考し、150 選を選定しました。なお、公募以外で景観審議会から推奨された 10 箇所を“番外編”として選定しています。

## (2) 選定フロー

選定のフローは下記のとおりです。

### (1) 公募

募集期間：平成 30 年 5 月 15 日～6 月 29 日  
応募総数：931 件

### (2) 1 次選考

選考小委員会開催：平成 30 年 7 月 31 日  
選考数：241 件(インターネット投票対象)

### (3) インターネット投票

投票期間：平成 30 年 9 月 18 日～10 月 26 日  
総投票数：23,699 票  
最多得票：298 票

### (4) 2 次選考

選考小委員会開催：平成 30 年 11 月 27 日  
選考小委員会にて 150 選(案)を選定

### (5) 150 選の選定

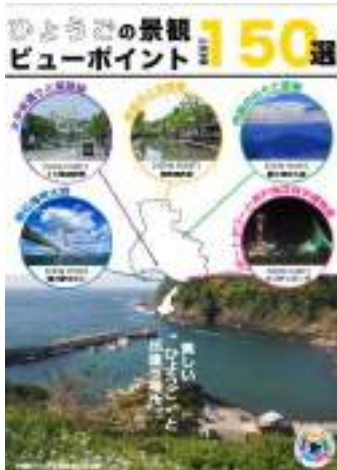
景観審議会開催：平成 30 年 12 月 18 日  
審議を経て 150 選を答申



### (3) ビューポイントの活用

150選の公表は、平成31年2月に知事による記者発表、リーフレットの配布、SNS等への投稿により行い、県ホームページには、応募写真、選定経緯、投票結果(上位のみ)なども掲載しました。

その後、150選の活用として、スマートフォンによる現在地から「ビューポイント」までのルート案内アプリの製作や、「ビューポイント」のあらたな魅力を紹介するための四季折々の写真募集などを実施し、特にSNSを活用した情報発信では、多くのフォロワーの注目を集めました。



【リーフレット】



【県ホームページ】



【ルート案内アプリ画面(イメージ)】 (地図：国土地理院地図サービスのデータを加工)

#### 【参考情報】

「ひょうごの景観ビューポイント150選」の情報発信について

- ・インスタグラム #hyogoview150
- ・ツイッター #Hyogoview150
- ・兵庫県ホームページ(QRコード読込、または、“ビューポイント150”で検索)



ビューポイント 150

検索





# ビューポイント 150 選

## 第 1 章 神戸・阪神エリア

---

No.1 ~ 41

# 神戸・阪神エリア ビューポイント一覽

No.	市町名	<ビューポイント> から見る <見える景観>	頁
1	神戸市	摩耶山・掬星台 から見る 阪神間・大阪方面の夜景	9
2		六甲ガーデンテラス から見る 見晴らしのテラスと神戸・大阪方面の夜景	
3		キャナルプロムナード から見る 新川運河(兵庫運河)の夜景	10
4		須磨浦山上遊園の回転展望閣 から見る 須磨から大阪までの湾岸地帯	
5		須磨アルプス から見る 六甲山系の岩稜(馬の背)地帯	11
6		五色塚古墳の後円部墳頂 から見る 淡路島と明石海峡	
7		有馬温泉街 から見る 温泉街のまちなみ	12
8		メリケンパーク から見る ポートタワーと神戸海洋博物館の夜景	
9		ポートアイランド西緑地 から見る 明石海峡に沈む夕日	13
10		大丸神戸店 から見る 居留地の雰囲気漂う回廊	
11		北野天満神社 から見る 異人館街風見鶏の館とみなとまち神戸	14
12		ヴィーナステラス から見る 六甲アイランドから須磨にいたる市街地	
13		布引ハーブ園の風の丘 から見る 神戸の市街地と神戸港	15
14		南京町の西安門付近 から見る 中華街のまちなみ	
15		ポーアイしおさい公園 から見る 山並みを背景とした都心部や港の風景	16
16		雌岡山神出神社の展望台 から見る 田園風景と明石海峡大橋	
17	尼崎市	長遠寺の山門前 から見る 寺町のまちなみ	17
18		庄下川に架かる開明橋 から見る 尼崎城を彷彿させる石垣風の塀や中央図書館	
19		尼崎の森中央緑地パークセンター付近 から見る 臨海部に出現した大芝生広場	
20	西宮市	夙川公園の阪急苦楽園口駅付近 から見る 夙川と桜並木	18
21		夙川公園のこほろぎ橋付近 から見る こほろぎ橋と川の水面	
22		香櫨園浜の砂浜 から見る 対岸に見える高層団地群	19
23		廣田神社参道一の鳥居付近 から見る 石畳参道の松並木と周辺のまちなみ	
24	芦屋市	芦屋川に架かる公光橋 から見る 芦屋川と六甲山	20
25		芦屋市立潮芦屋交流センター裏 から見る 芦屋マリーナと芦屋ベイコート倶楽部	
26	伊丹市	景観重要建造物「長寿蔵」前 から見る 酒蔵通りのまちなみ	21
27		金剛院の山門前 から見る 猪名野神社参道のまちなみ	
28		昆陽池公園の草生地広場 から見る 山並みを背景に野鳥が飛び交う水辺	
29	宝塚市	宝塚大橋南詰 から見る 宝塚大劇場と阪急電車	23
30		JR 福知山線廃線跡の展望広場 から見る 新緑の武庫川沿いの風景	
31	川西市	阪急逆瀬川駅西の逆瀬川に架かる橋 から見る 逆瀬川と甲山	24
32		妙見山上杉尾根ハイキングコース から見る 日本一と称される里山「黒川」	
33	光遍寺北側の道路わき から見る 東多田夢勝庵と田んぼ	25	
34	有馬富士公園の福島大池付近 から見る 有馬富士と福島大池		
35	三田市	三田本町センター街 から見る 城下町の古いまちなみ	26
36		花山院菩提寺の展望所 から見る 有馬富士、播磨平野や明石海峡	
37		観福の森「とりで広場」 から見る 里山林に囲まれた田園風景	27
38		三輪神社参道 から見る 三輪神社と参道沿いのまちなみ	
39	あかしあ台公園南側入口付近 から見る センチュリー大橋と背後の山並み	28	
40	大野山山頂 から見る 猪名川天文台「アストロピア」		
41	猪名川町	多田銀銅山悠久の館付近 から見る 多田銀銅山のまちなみ	29

1	ま や さ ん き く せ い だ い <b>摩耶山・掬星台</b>	所在地	神戸市灘区摩耶山町
		位置情報	北緯 34度44分03.0秒 東経 135度12分23.3秒
見える景観	阪神間・大阪方面の夜景		

### ビューポイント <VIEW POINT>

摩耶山・掬星台は、摩耶山山頂付近(標高700m)にある展望広場で、まやビューライン(ケーブル・ロープウェイ)星の駅すぐのところにあります。広場突端にある展望施設がビューポイントです。まるで手で星を掬(すく)うかのように、眼下の光粒を掬えそうなほどの美しい夜景がその名の由来といわれており、日本三大夜景や日本夜景遺産に選定された日本を代表する夜景スポットの一つです。

市民からの公募により、平成20年(2008)に神戸市が「神戸らしい眺望景観50選、10選」に選定しています。また、平成23年(2011)に公募により決定したデザインのビューポイントサインも設置されています。

### 見える景観 <VIEW>

神戸、阪神間から大阪湾、紀伊半島、対岸の淡路島、四国に至る広大な眺望が楽しめます。その視界の広さは、十国を望むとまでいわれたほどで、大阪湾の輪郭、大阪・神戸市街地の明かりが迫るダイナミックな景観が楽しめます。

夜景のビューポイントとして人気があり、毎年元日には御来光を一目見ようと大勢の人が集まります。

### 関連情報 <INFORMATION>

まやビューラインは火曜日が定休となっています。(一部期間を除く。)

掬星台に隣接する摩耶自然観察園は、摩耶山山頂エリアにある自然観察園で、掬星台も含めて、遊園地跡地の一部です。園内では、アジサイ、ミズバショウ、カキツバタなどの季節の植物を、散策路で巡りながら楽しむことができます。

その他にも、付近にはオーベルジュスタイルの国民宿舎であるオテル・ド・摩耶や、摩耶山の名称の元となった、「仏母摩耶夫人(ぶつもまやぶにん)像」が奉安されている切利天上寺(とうりてんじょうじ)があります。



2	<b>六甲ガーデンテラス</b>	所在地	神戸市灘区六甲山町
		位置情報	北緯 34度45分47.8秒 東経 135度14度47.8秒
見える景観	見晴らしのテラスと神戸・大阪方面の夜景		

### ビューポイント <VIEW POINT>

六甲ガーデンテラスは、六甲ケーブル六甲山上駅からバスで約10分の「六甲ガーデンテラス」バス停付近にあり、六甲山(標高890m)からの眺望を生かした欧風のレジャースポットとなっています。

市民からの公募により、平成20年(2008)に神戸市が「神戸らしい眺望景観50選、10選」に選定しています。

以前は「凌雲荘(りょううんそう)」というホテルがあった場所で、雲を凌ぐほどの高地であることから、この名前と呼ばれていました。

### 見える景観 <VIEW>

見晴らしのテラスでは、六甲の山並みの向こうに、神戸・阪神間の市街地、大阪湾を一望することができます。

夜景スポットとしても有名で、六甲山の異国情緒漂うエリアには、異なる表情が楽しめる夜景のビューポイントが充実しています。大阪方面がメインの見晴らしのデッキ、明石海峡から大阪方面まで、ワイドビューが広がる「見晴らしの塔」という展望施設からの景観は、一見の価値があります。

### 関連情報 <INFORMATION>

六甲ガーデンテラスには、見晴らしのテラスや見晴らしの塔以外にも、飲食店・土産物店があり、複合的に施設が集積しています。

周辺には「自然体感展望台六甲杖垂れ」、「見晴らしのデッキ」があり、こちらも展望施設となっています。

眺望を楽しむだけでなく、登山者の立ち寄り施設となっているほか、平成22年(2010)から開催されている、「六甲・ミーツ・アート芸術散歩」の開催場所の一つにもなっています。



撮影：中島 久宜

3	チャンネルプロムナード	所在地	神戸市兵庫区切戸町
		位置情報	北緯 34度39分53.9秒 東経 135度10分20.8秒
見える景観	新川運河(兵庫運河)の夜景		
<p><b>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</b></p> <p>新川運河の遊歩道「チャンネルプロムナード」は地下鉄中央市場前駅から徒歩1分ほど、また、JR兵庫駅からもバスで訪れることができます。</p> <p>平成5年(1993)、約300mにわたる遊歩道として新川運河の水際に整備された「チャンネルプロムナード」は、潤いある水辺空間として市民に親しまれています。</p> <p><b>見える景観 &lt;VIEW&gt;</b></p> <p>新川運河が流れる港は、遙か昔は「大輪田泊(おおわだのとまり)」と呼ばれていました。奈良時代の高僧・行基(ぎょうき)が築いた摂播五泊(せっぽんごはく)の一つとされ、それを改修したのが平清盛でした。清盛は、中国・宋との貿易の拠点として大輪田泊の開発を進め、近くの福原に一時、都を置いたこともあります。</p> <p>鎌倉時代以降は「兵庫津」とよばれ、海上交通の拠点となりました。室町時代には中国・明との貿易、江戸時代には瀬戸内海有数の港町として発展しました。しかし、西から兵庫の港に入る船は、波や風の強い和田岬を回らなければならず、多くの船が海難事故に遭遇していました。</p> <p>明治7年(1874)、船が安全に避難できるよう新川の開削工事が始まり、2年後に新川運河が完成しました。その後、新川運河と東尻池の海岸を結ぶ「兵庫運河」が明治29年(1896)に完成しました。さらに昭和6年(1931)に苅藻島運河、新湊川運河が完成し、現在ではこれら4つの運河を総称して「兵庫運河」と呼んでいます。</p> <p><b>関連情報 &lt;INFORMATION&gt;</b></p> <p>チャンネルプロムナードの対岸にある大規模集客施設の一帯は昔の兵庫城跡で、最初の兵庫県庁が置かれた兵庫県発祥の地でもあります。</p> <p>令和2年(2020)現在、同集客施設の近接地において、県による初代県庁舎復元施設整備計画が進められています。</p>			
		<p>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</p>  <p>見える景観 &lt;VIEW&gt;</p> 	

4	須磨浦山上遊園の回転展望閣	所在地	神戸市須磨区西須磨
		位置情報	北緯 34度38分27.5秒 東経 135度05分44.7秒
見える景観	須磨から大阪までの湾岸地帯		
<p><b>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</b></p> <p>須磨浦山上遊園は、山陽電鉄須磨浦公園駅すぐのところにあります。回転展望閣へは、ロープウェイやカーレーターでの移動が必要です。</p> <p>回転展望閣は、3階建ての施設で、3階はターンテーブルにより、約45分かけて360度ゆっくりと回転する喫茶店、屋上は展望台となっています。</p> <p>市民からの公募により、平成20年(2008)に神戸市が「神戸らしい眺望景観50選、10選」に選定しています。また、平成23年(2011)に公募により決定したデザインのビューポイントサインも設置されています。</p> <p><b>見える景観 &lt;VIEW&gt;</b></p> <p>鉢伏山にある回転展望閣からは、北側の山頂部を除いて東・南・西の三方を見渡すことができます。東方向は、須磨海浜公園から大阪方面までの湾岸地帯を、また、南、西方向は市街地や明石海峡大橋などを眺望できます。</p> <p><b>関連情報 &lt;INFORMATION&gt;</b></p> <p>須磨浦山上遊園内にある「カーレーター」は、ロープウェイ山上駅と回転展望閣を結んで、昭和41年(1966)に開通しました。その姿は当時のままで、「乗り心地の悪さ」で有名です。同園内の観光リフトは、鉢伏山の回転展望閣と旗振山を結んで、昭和34年(1959)に開通しました。この全長268mのリフトの乗り場名である「せつつ」と「はりま」は旧国名からとられており、両乗り場を渡る橋(両国橋)の間で、旧摂津の国(現神戸市須磨区)と旧播磨の国(現神戸市垂水区)の国境となっています。この橋以外にも、園内には旧摂津の国と旧播磨の国の国境を示す道標があります。</p> <p>園内には、六甲山縦走路が走っており、ハイキングのための周遊路や登山道が整備されています。園内の旗振山山頂付近にある旗振茶屋は、休日の登山客をはじめ、遊園地を楽しむ人々で賑わっています。</p>			
		<p>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</p>  <p>見える景観 &lt;VIEW&gt;</p> 	

<b>5</b>	<b>須磨アルプス</b>	<b>所在地</b>	神戸市須磨区横尾
		<b>位置情報</b>	北緯 34度 39分 56.7秒 東経 135度 06分 43.1秒

<b>見える景観</b>	六甲山系の岩稜(馬の背)地帯
--------------	----------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

須磨アルプスは、山陽電鉄須磨浦公園駅から始まる鉢伏山、旗振山、鉄拐山、柵尾山、横尾山、東山の6つの山のうち、特に横尾山と東山との間にある馬の背を含む地域です。山陽電鉄板宿駅から登山道で徒歩約40分のところにあります。ビューポイントは六甲山系の西端にあり、名勝「馬の背」の標柱が立っています。

**見える景観 <VIEW>**

岩稜とは岩の尾根のことを指し、馬の背は、荒々しい岩肌の崖道で、砂地のため滑りやすく、登山の際には岩肌をつかみながら慎重に登る必要があります。北側には神戸市内の住宅団地、南側には瀬戸内海を望むことができます。

**関連情報 <INFORMATION>**

須磨アルプスが西端に位置している六甲山系は、市街地に近く、アクセスも良いため、登山でも非常に人気があります。登山ルートは多くありますが、その中でも毎年神戸市主催で開催される「六甲全山縦走」は、西は須磨から東は宝塚までの約56kmのコースを、尾根をたどりながら踏破するものです。

六甲山は、元来、老廃期の花崗岩(かこうがん)地で、明治中頃までは、風化が激しく、崩れやすい荒地でした。それをレジャーの場として開拓したのは神戸居留地の外国人です。明治28年(1895)、イギリスの貿易商であったA.H.グループは、西六甲の山頂部に別荘を建て、多くの友人と山道の改修、植林、砂防に努め、明治36年(1903)には日本初の公式ゴルフ場を創設し、周辺開発の核としました。こうした中で在留外国人は、六甲山を盛んに山歩きするとともに日本各地へ活動を広げ、日本近代登山の先駆的役割を果たしました。彼らの登山活動に触発された神戸市民により、明治43年(1910)に関西初の登山団体「神戸草鞋会(後に「神戸徒歩会」に改称)」が発足した後、多くの登山会が創設され、登山やハイキングが市民の中に定着していきました。



<b>6</b>	<b>五色塚古墳の後円部墳頂</b>	<b>所在地</b>	神戸市垂水区五色山
		<b>位置情報</b>	北緯 34度 37分 47.5秒 東経 135度 02分 46.1秒

<b>見える景観</b>	淡路島と明石海峡
--------------	----------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

五色塚古墳は千壺(せんつぼ)古墳とも呼ばれ、JR垂水駅から徒歩約10分のところにある、4世紀後半に築造された県下最大の前方後円墳です。

墳丘の大きさは、全長194m、前方部が幅82.4m、高さ13m、後円部が直径125.5m、高さ18.8mで、周囲に周濠(しゅうごう)を巡らしています。

3段に築かれた墳丘のうち、下段は地山を前方後円形に掘り残し、中段及び上段は盛土を行っています。下段の斜面には小さな石を葺き、中段及び上段の斜面には大きな石を葺いています。使用された石の総数は、223万個・総重量2,784tと推定されます。墳頂と2段のテラスには、鯨付円筒(ひれつきえんとう)埴輪・鯨付朝顔形(ひれつきあさがおがた)埴輪などを巡らしていました。その総数は、2,200本と推定されます。

この古墳は神戸市が、国指定史跡整備の第1号として、昭和40年(1965)から10年の歳月をかけて整備したものです。現在でも優美な姿を留め、全国から見学者が訪れます。

明石海峡とそこを行き交う船を見下ろすような場所に立地し、海上交通の要衝を古墳が占めています。このことから明石海峡とその周辺を支配した豪族が葬られていると考えられています。

**見える景観 <VIEW>**

明石海峡は本州と淡路島の間にあり、大阪湾と播磨灘をつなぐ海峡です。明石海峡には、淡路市と神戸市垂水区とを結ぶ、世界最長の吊り橋である明石海峡大橋が架かっています。淡路島は、面積約595km<sup>2</sup>、周囲約215kmの南北に細長い島です。大阪湾、紀伊水道、播磨灘に囲まれ、北部には津名丘陵、南部には諭鶴羽(ゆづるは)山地、中央部には三原平野が広がっています。

明石海峡大橋は、全長3,911m、主塔間は1,991mとなっており、平成10年(1998)に完成しました。



<b>7</b>	<b>有馬温泉街</b>	<b>所在地</b>	神戸市北区有馬町
		<b>位置情報</b>	北緯 34度47分47.8秒 東経 135度14分54.4秒

<b>見える景観</b>	<b>温泉街のまちなみ</b>
--------------	-----------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

有馬温泉は、神戸電鉄有馬温泉駅すぐの場所に位置しています。温泉街の小道はブロックできれいにデザイン舗装されており、商店街が続いています。

有馬温泉は、白浜、道後と並ぶ日本三古泉の一つです。日本書紀には舒明(じょめい)3年(631)に舒明天皇が、はるばる都の飛鳥から有馬へ湯治に来たことや、大化3年(647)に孝徳天皇が群臣とともに有馬を訪れたことが記されています。

**見える景観 <VIEW>**

奈良時代になると、社会事業を通して民間布教に尽くした僧である行基(ぎょうき)が、この地を来訪し、さびれていた飲泉を復興し、温泉寺や菩提寺などを建立したといわれています。

行基、大和国の僧である仁西(にんさい)ら高僧の尽力もあって、有馬温泉は一躍有名になりますが、今日の繁栄の基礎を築いたのは豊臣秀吉でした。

その後、安政元年(1854)の火災により有馬は衰退しますが、明治7年(1874)、神戸・大阪間に鉄道が敷かれ、大正2年(1913)に神戸電鉄が開通すると、全国各地から観光客が訪れるようになり、本格的な隆盛を迎えることになります。その一方で、時代が進むにつれて由緒ある建物が減少するなど、歴史性が失われつつあります。

有馬地区のまちなみ景観を守り、育て、温泉街としての魅力アップを図ることを目的に、地元住民等で構成する「有馬まちなみ景観委員会」が、平成15年(2003)に「有馬地区景観形成市民協定」を締結し、市の認定を受けています。

**関連情報 <INFORMATION>**

鎌倉時代に仁西が、薬師如来を守護する十二神将に因んで、12坊を建てて温泉を再興しました。この「坊」は、本来、「僧の宿舎」を意味する言葉です。温泉街を歩くと「〇〇坊」と書かれた旅館名が目につきますが、これは室町時代中期に仁西の12坊に因んで一般の温泉宿に坊名が採用されたことに由来しています。

ビューポイント・見える景観 <VIEW POINT・VIEW>



有馬川親水公園



<b>8</b>	<b>メリケンパーク</b>	<b>所在地</b>	神戸市中央区波止場町
		<b>位置情報</b>	北緯 34度40分56.1秒 東経 135度11分19.2秒

<b>見える景観</b>	<b>ポートタワーと神戸海洋博物館の夜景</b>
--------------	--------------------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

メリケンパークは、神戸の繁華街である元町商店街のすぐ南側に位置し、地下鉄みなと元町駅から南東方向に徒歩4分、JR・阪神電鉄元町駅から徒歩8分、阪急電鉄花隈駅からは徒歩7分程度の場所に位置しています。

メリケン波止場の名称は、慶応4年(1868)に第3波止場として港が建設された当時、米領事館がこの波止場のすぐ北にあったことに由来します。船の近代化が進み、利用度が低下した昭和62年(1987)に、メリケン波止場と中突堤の間の海を埋め立てて公園、「メリケンパーク」としました。面積5万㎡と広大で、よく整備され、神戸が港とともに発展していることを実感させてくれる場所でもあります。

**見える景観 <VIEW>**

真っ赤な「ポートタワー」と帆船をイメージさせる「神戸海洋博物館」は、港町神戸を象徴する景観となっています。

ポートタワーは、昭和38年(1963)のオープン以来、港町神戸のシンボルとして親しまれてきました。鼓の形をしたユニークなデザインで、高さ108m、展望タワーは5層構造、パイプ鋼材で組み立てられたタワーとしては世界初のものでした。

平成22年(2010)に全面改修を行い、様々な色を表現できる約7,000個のLED電球を設置することで、より高度な照明演出が可能となり、カラフルな色彩演出のほか、模様や文字、アニメーションを描いて見る人を楽しませています。

一方、神戸海洋博物館は、昭和62年(1987)、神戸港120年の記念事業としてメリケンパークに開館し、「海・船・港」をテーマに神戸港の歴史などを紹介する施設となっています。ほかにも、館内には平成18年(2006)にオープンした企業ミュージアム「カワサキワールド」があり、オートバイや新幹線、ヘリコプターなどの製品を見学・体験することができます。

ビューポイント <VIEW POINT>



見える景観 <VIEW>



<b>9</b>	<b>ポートアイランド西緑地</b>	<b>所在地</b>	神戸市中央区港島南町
		<b>位置情報</b>	北緯 34度39分2.6秒 東経 135度13分1.3秒
<b>見える景観</b>	<b>明石海峡に沈む夕日</b>		
<p><b>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</b></p> <p>ポートアイランド西緑地は、ポートライナー京コンピュータ前(神戸どうぶつ王国)駅から徒歩約10分の場所に位置しています。</p> <p>ポートアイランドは、港として機能的であるだけでなく、港で働く人が働きやすく、潤いがあり、市民に親しまれる港となるよう各所に公園が配されています。ポートアイランド西緑地はそのうちの一つで、沖合を航行する船舶からの「港の景観を創出」と同時に、陸側から海を展望できる「親水空間の創出」を目的として、ポートアイランド第二期南側の護岸後背地に整備されたものです。</p> <p><b>見える景観 &lt;VIEW&gt;</b></p> <p>明石海峡は、淡路島と明石市との間にある海峡です。明石海峡には、淡路市と神戸市垂水区とを結ぶ、「明石海峡大橋」が架かっています。明石海峡大橋は、全長3,911m、主塔間は1,991mとなっており、「世界一の吊り橋」として平成10年(1998)に完成しました。</p> <p>季節によっては、ポートアイランド西緑地から、写真のように明石海峡大橋に沈む夕日を臨むことができます。また、晩秋から冬にかけて、気候等の諸条件が揃えば、蜃気楼の一種であり、大気と海面付近の温度差によって光が屈折して起こる現象である「だるま夕日」を見ることもできます。</p> <p><b>関連情報 &lt;INFORMATION&gt;</b></p> <p>ポートアイランド内に整備された公園は、この西緑地のほか、北公園、中公園、南公園、CATパーク、ポーアイしおさい公園の5箇所があります。そのうちの1つの「ポーアイしおさい公園」は、ビューポイントNo.15に選定されています。</p>			
		<b>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</b>	
		<b>見える景観 &lt;VIEW&gt;</b>	 撮影：正中 亮

<b>10</b>	<b>大丸神戸店</b>	<b>所在地</b>	神戸市中央区明石町
		<b>位置情報</b>	北緯 34度41分20.2秒 東経 135度11分27.5秒
<b>見える景観</b>	<b>居留地の雰囲気漂う回廊</b>		
<p><b>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</b></p> <p>明治元年(1868)に神戸港の開港とともに、外国人が住み、働くための居留地が建設されました。明治32年(1899)に居留地返還が行われ、以降はビジネスの中心地として発展しました。大丸神戸店は、JR元町駅の東口から鯉川筋を約200m南下したところに位置する地上10階地下3階建ての百貨店です。阪神・淡路大震災で被災した北東部分を建て直し、平成9年(1997)に元町の顔として再オープンしました。</p> <p><b>見える景観 &lt;VIEW&gt;</b></p> <p>建て直した店舗は日建設計・双星設計が設計し、近代洋風建築の意匠を取り入れた旧居留地に相応しいデザインで、1階玄関外周部には、アーチ状の天井が連続する「ポルティコ」(有蓋歩廊)を配しています。「ポルティコ」とはイタリア語で柱廊・回廊を指し、建物の1階の街路や広場に面する部分が奥まったり屋根が付いて通路となっている形式のものです。因みに、積雪の多い地域で見られる商店街の雁木(雪除け屋根)や東北地方の町家の小見世(屋根付き歩道)も公共性の高い有蓋歩廊の一種です。</p> <p><b>関連情報 &lt;INFORMATION&gt;</b></p> <p>第二次世界大戦中、旧居留地ビルオーナーが空襲に備えて組織した自衛団は、戦後「国際地区共助会」に発展しました。大丸神戸店を含む旧居留地一帯が昭和58年(1983)、市都市景観条例に基づく「都市景観形成地域」に指定されたことを契機に、同共助会は「旧居留地連絡協議会」に改組します。同協議会は昭和60年(1985)に景観形成市民団体として認定を受けて以降、様々なまちづくり活動を実践し、2年後に建設大臣からまちづくり功労賞を受賞しました。まちの将来を自らが築いていくために平成元年(1989)にはまちづくり推進委員会を設立し、平成6年(1994)には「歴史の流れを未来に引き継ぐ／神戸旧居留地・景観形成計画」が策定されました。</p>			
		<b>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</b>	
		<b>見える景観 &lt;VIEW&gt;</b>	

<b>11</b>	<b>北野天満神社</b>	<b>所在地</b>	神戸市中央区北野町
		<b>位置情報</b>	北緯 34度42分06.0秒 東経 135度11分23.1秒

<b>見える景観</b>	異人館街風見鶏の館とみなとまち神戸
--------------	-------------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

北野天満神社は JR 三ノ宮駅から北へ徒歩 15 分、北野坂を上り切ったところにあります。学問の神様で親しまれている菅原道真公を祀る由緒ある神社で、展望台があります。

**見える景観 <VIEW>**

北野町から三宮の地域は、明治の開港までは「神戸村」という砂地と田畑と山野が広がる一寒村でした。神戸開港に伴い、現在の神戸市役所西側一帯に外国人居留地が設けられましたが、その整備が遅れ、外国人の増加に対応するだけの住宅がありませんでした。そのため、港が見渡せる山の手で、外国人居住が許可されたものの雑居地となっていた北野町山本通地区が目ざされ、いわゆる「異人館」が集積しはじめます。大正末期には、関東大震災を契機に移り住む外国人や日本の文化人も増加し、第二次世界大戦までに 200 棟以上の異人館が建てられ、洋館と和風住宅が入り混じった異人館街のまちなみを形成していきました。

北野天満神社からは、異人館風見鶏の館や神戸港を見ることができます。異人館風見鶏の館はドイツ人貿易商ゴットフリート・トーマスの自邸で、旧トーマス住宅とも呼ばれ、昭和 53 年(1978)に国指定文化財になっています。

**関連情報 <INFORMATION>**

1960 年代、開発の波が押し寄せ、多くの異人館が失われていきました。今でこそ「北野坂」の名前が浸透していますが、当時の坂道はラブホテル名の俗称で呼ばれるなど、街路もまちなみ荒れていました。そこで 1970 年代に入り、住人や商業者が協議し、界隈の道の愛称を公募し、北野坂、ハンター坂、不動坂、北野通りなどの名前が付けられ、それを契機に街路整備や異人館の保全活動が進みました。

また、「北野坂界隈を守る会」が結成されるなどまちなみ保存活動も盛り上がりを見せ、昭和 55 年(1980)に国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されました。



<b>12</b>	<b>ヴィーナステラス</b>	<b>所在地</b>	神戸市中央区神戸港地方
		<b>位置情報</b>	北緯 34度41分50.7秒 東経 135度10分49.9秒

<b>見える景観</b>	六甲アイランドから須磨にいたる市街地
--------------	--------------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

ヴィーナステラスは、JR 三ノ宮駅よりバスで約 15 分の、「諏訪山公園下」バス停から徒歩約 20 分北へ上ったところにあります。少し下ったところには、明治 7 年(1874)にフランスの観測隊が金星を観測したことから「金星台」と命名された展望台があり、そこから伸びるヴィーナスブリッジ(昭和 46 年(1971)に完成した 8 の字の螺旋が美しい全長約 90m のループ橋)を経由して行くこともできます。

ヴィーナステラスには、渡部高弘によってデザインされた「愛の鍵モニュメント」があります。愛と美の女神「ヴィーナス」に因んで永遠の愛を誓うカップルが、愛のメッセージを記した鍵を取り付ける、恋人たちの聖地でもあり、平成 16 年(2004)に完成しました。このモニュメントに取り付けられた鍵は、いっぱいになると定期的に取り外しが行われ、その鍵を溶かして作られた「愛のプレート」がモニュメント足元にはめ込まれており、現在もプレートは増え続けています。

ヴィーナステラスからの眺望景観は、市民からの公募により、平成 20 年(2008)に神戸市が「神戸らしい眺望景観 50 選、10 選」に選定しており、平成 23 年(2011)に公募により決定したデザインのビューポイントサインも設置されています。

**見える景観 <VIEW>**

六甲アイランドから須磨にいたる市内のまちなみ、港、大阪湾などの景色を一望できるヴィーナステラスは、夜景の名所でもあり、オフィスビルや高層マンションに灯る明かり、メリケンパークや神戸ハーバーランドなどの照明が眼前に迫ってくる大パノラマを楽しめます。

**関連情報 <INFORMATION>**

ヴィーナステラスのある諏訪山公園は、市街地に隣接し、春は桜の美しい公園となっています。ヴィーナステラスやヴィーナスブリッジのほか、金星台、動物園跡に整備された遊具広場「子供の園」など、幅広い世代が利用できる歴史ある公園です。





<b>13</b>	ぬのびき <b>布引ハーブ園の風の丘</b>	所在地	神戸市中央区葺合町
		位置情報	北緯 34度42分47.6秒 東経 135度11分30.7秒
<b>見える景観</b>	神戸の市街地と神戸港		
<p><b>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</b></p> <p>布引ハーブ園の風の丘は、地下鉄新神戸駅から徒歩5分で乗車できる、神戸布引ロープウェイ風の丘中間駅に隣接する有料施設です。</p> <p>風の丘には、フラワー園、果実園、芝生広場があります。季節の花々やハーブが一面に広がるフラワー園は、神戸の風景を望める絶好の場所となっています。柑橘類やキウイ、リンゴなどのよく知られた果実から、フェイジョアなどの珍しいものまで、様々に実る果実園は、木々に囲まれ、ゆっくりと寛げる空間となっています。</p> <p>12のテーマガーデンからなる日本最大級のハーブガーデンでは、約200種75,000株のハーブや花が咲き集います。</p> <p>同園は、夜景も楽しめる人気スポットになっています。</p>		<p><b>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</b></p> 	
<p><b>見える景観 &lt;VIEW&gt;</b></p> <p>神戸布引ハーブ園は、ガーデンを彩るハーブや花だけではなく、眼下に広がる神戸の眺望が楽しめることが魅力です。この「風の丘」からは、一つのアングルに花、人、まちなみ、海、空港が入る、神戸らしい景観を見ることができます。なお、秋の季節には、山側に視線を移すと、園内約500本の紅葉、約100本の山桜、ケヤキ、ハゼ、コナラ、ウルシなどが色づき、六甲山を彩るグラデーションを楽しむことができます。</p>		<p><b>見える景観 &lt;VIEW&gt;</b></p> 	
<p><b>関連情報 &lt;INFORMATION&gt;</b></p> <p>神戸布引ロープウェイは、全ゴンドラがバリアフリー仕様となっており、広い窓からは神戸の景色とともに、「布引の滝」、国指定文化財の「五本松堰堤(えんてい)」（布引五本松ダム）などの名所も眺めることができます。</p>			

<b>14</b>	なんきんまち <b>南京町の西安門付近</b>	所在地	神戸市中央区元町通
		位置情報	北緯 34度41分16.4秒 東経 135度11分14.7秒
<b>見える景観</b>	中華街のまちなみ		
<p><b>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</b></p> <p>JR・阪神電鉄元町駅から南へ徒歩約5分のところに、異国情緒あふれる中華街があります。</p> <p>元町の大丸神戸店の西側から始まる元町商店街に並行した通りが南京町のメイン通りであり、ビューポイントは南京町の西側入口、西安門寄りのところにあります。</p>		<p><b>ビューポイント・見える景観 &lt;VIEW POINT・VIEW&gt;</b></p> 	
<p><b>見える景観 &lt;VIEW&gt;</b></p> <p>南京町は、横浜中華街、長崎新地中華街とともに、日本三大中華街の一つに数えられています。神戸港開港当時は、居留地に住めるのは、米、英、蘭、露、仏の通商条約締結国の人々だけでした。中国人は、隣接する地域に居住し、団結力と相互扶助の精神で今日の南京町へと発展させてきました。</p> <p>戦後、一時、南京町は衰退し、それに替わる「外人バー」が建ち並び、中華料理店は1軒といった時代もありました。</p> <p>昭和56年(1981)になると「南京町復興環境整備事業実施計画」が策定され、東西160m、南北110mのメイン通りを中心に再整備に着手、楼門や中国風東屋も設置されました。</p> <p>現在は南京町広場を中心に、東西南北の通りと細い路地に中国料理店だけでなく、中国雑貨、中国食材の専門店、洋菓子店など多くの店が連なる街となっています。</p>		<p><b>南京町広場</b></p> 	
<p><b>関連情報 &lt;INFORMATION&gt;</b></p> <p>平成2年(1990)、南京町は市都市景観条例に基づく「沿道景観形成地区」に指定されたことをきっかけとして、翌年に南京町の商店街店主などが、「南京町景観形成協議会」を設立、市からも景観形成市民団体に認定されています。当地区の個性をさらに伸ばし、国際港都神戸のシンボルにふさわしい景観形成を図るため、建築物等や屋外広告物の基準を設け、南京町らしい異国情緒あふれるまちなみを演出しています。</p>			

15	ポーアイしおさい公園	所在地	神戸市中央区港島
		位置情報	北緯 34度40分11.9秒 東経 135度12分07.2秒
見える景観	山並みを背景とした都心部や港の風景		
<p><b>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</b></p> <p>ポーアイしおさい公園は、神戸開港140年の平成19年(2007)にオープンしたポートアイランド西沿岸の公園です。ポートライナー中公園駅で下車し、西へ徒歩7分程度の場所にあります。</p> <p>正式名称は「ポートアイランド西公園」で、「ポーアイしおさい公園」の愛称は、一般公募により決められました。南北に800m以上の長さがあり、西側に海、東側に神戸学院大学などのキャンパスがあります。</p> <p>市民からの公募により、平成20年(2008)に神戸市が「神戸らしい眺望景観50選、10選」に選定しています。</p>		 <p>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</p>	
<p><b>見える景観 &lt;VIEW&gt;</b></p> <p>神戸市は、六甲山系の山並みや海や港を背景として展開する市街地の眺望、西北神地域の豊かな自然と一体となった田園集落の眺望など、変化に富んだ素晴らしい眺望景観を保全・育成していくための施策に取り組んでいます。</p> <p>ここからは、山並みを背景とした都心部の高層ビル群、ポートタワーや市章山・錨(いかり)山など神戸を代表するシンボル、また、ドック・ガントリークレーンなど港の風景が一望できます。港町神戸を感じることができる素晴らしい眺望です。</p>		 <p>見える景観 &lt;VIEW&gt;</p>	
<p><b>関連情報 &lt;INFORMATION&gt;</b></p> <p>海側は神戸市街地のハーバーランドから六甲連山の眺望が素晴らしく、夜に見える景観は神戸都心夜景10選にも選ばれ、同公園は、新名所として徐々に人気が上がっています。また、大学のキャンパス内にあるレストランも一般に開放されており、昼食時は行列のできる人気のレストランもあります。毎年8月に開催される「みなとこうべ海上花火大会」の観覧スポットとしても知られています。</p>			

16	めっこさんかんで 雌岡山神出神社の展望台	所在地	神戸市西区神出町
		位置情報	北緯 34度45分30.1秒 東経 135度00分00.7秒
見える景観	田園風景と明石海峡大橋		
<p><b>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</b></p> <p>雌岡山の山頂にある神出神社は、地下鉄西神中央駅から神姫バスに乗り、「老ノ口」で下車し、北東に徒歩約16分、神戸電鉄緑が丘駅からは南西に約3kmの位置にあります。</p> <p>雌岡山は牛頭(ごず)天王を祀るので、「天王山」とも呼ばれています。</p> <p>神出神社の祭神は、スサノオノミコトとその妻クシナダヒメ、その二柱の子であるオオナムチノミコトです。また、スサノオノミコトとクシナダヒメの孫にあたるオオクニヌシノミコトから八百余りの神々が生まれ、各地へ散ったことから「神出」の名が付いたともいわれています。</p> <p>能楽堂跡が展望台となっており、ベンチが整備されています。ため池が点在する田園風景や西神ニュータウン、明石海峡大橋等を望むことができ、隠れた夜景スポットでもあります。</p> <p>市民からの公募により、平成20年(2008)に神戸市が「神戸らしい眺望景観50選、10選」に選定しています。また、平成23年(2011)に公募により決定したデザインのビューポイントサインも設置されています。</p>		 <p>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</p>	
<p><b>見える景観 &lt;VIEW&gt;</b></p> <p>昔は小豆島(しょうどしま)まで見えたといわれていますが、真偽のほどは不明です。現在は明石海峡大橋まで望むことができます。また、眼下には田園風景が広がり、夏には緑地、秋には黄金色のパノラマを眺めることができます。</p>		 <p>見える景観 &lt;VIEW&gt;</p> <p>撮影：北野 勝彦</p>	
<p><b>関連情報 &lt;INFORMATION&gt;</b></p> <p>雌岡山の近くには大きさも形もそっくりな「雄岡山(おっこさん)」があります。遠くから眺めると子牛の角のように見えたため、「男牛(おご)女牛(めご)」、そこから「雄子尾、雌子尾」となり、やがて「雄岡、雌岡」になったとされています。</p>			

17	ちょうおんじ <b>長遠寺の山門前</b>	所在地	尼崎市寺町
		位置情報	北緯 34度43分04.2秒 東経 135度24分43.1秒

見える景観	寺町のまちなみ
-------	---------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

阪神電鉄尼崎駅から南西へ約3分ほど歩くと、寺や三重の塔が見えてきます。その一体の地区が「寺町」で、平成元年(1989)に市都市美形成条例に基づく「都市美形成地域」に指定されています。東から全昌寺、本興寺、広徳寺、甘露寺、法園寺、大覚寺と並び、広徳寺の裏筋(北側)に東から常楽寺、善通寺が並んでいます。さらに大覚寺の表筋(西側)には、長遠寺、如来院、専念寺と計11もの寺院が軒を連ね、また、善通寺の周囲には赤レンガ塀が続き、異国情緒を漂わせています。

長遠寺の「大堯山縁起(だいぎょうざんえんぎ)」によれば、観応元年(1350)、日恩上人の開基と伝えられています。尼崎城築城に際して市場翼(現在の東本町)から現在地へ移転しました。本堂と市内で唯一の多宝塔は、桃山時代の特徴がよく表れた建物(国指定文化財)で、客殿・庫裏・鐘楼の三棟は県指定文化財になっています。

阪神・淡路大震災により大きな被害を受けたため3年をかけて修復工事が行われました。山門は、本堂の南側に配置され、石畳の道に面しています。



**見える景観 <VIEW>**

寺町は元和3年(1617)に、戸田氏鉄(とだうじかね)が現在の北城内・南城内に尼崎城築城を命ぜられ、それとともに城下町形成の一環として、寺院ばかりを集めて形成された町です。城地に当たるために移転した本興寺には同年12月付の棟札が残されています。

寺町には城地に当たる寺院のほか、中世以来、町場にあった寺院、周辺にあった寺院や藩主ゆかりの寺院などが集められました。寺町は城下町の北西隅、武家屋敷の北側に当たり、町場から分離して寺院の力を弱めるとともに、巨大な建物群である寺院を配置して城に対する防備の役割をもたせる目的があったと考えられています。

江戸時代初期の城下絵図には20の寺院が確認できますが、今日に至るまで藩主の交替に伴う移転や廃寺などがありました。主要駅のすぐ近くにありながらも、市街地再開発をまぬがれ、江戸時代城下町の雰囲気をも今に伝えています。

18	しょうげがわ <b>庄下川に架かる開明橋</b>	所在地	尼崎市北城内
		位置情報	北緯 34度42分58.4秒 東経 135度25分03.2秒

見える景観	尼崎城を彷彿させる石垣風の塀や中央図書館
-------	----------------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

庄下川は市の中心地を貫流し、尼崎城跡を始め、社寺仏閣、史跡、近松公園など歴史文化資源を川沿いに有し、市民に親しまれています。平成12年(2000)に、国土交通省(当時の建設省)から、下水道整備により水環境が回復したとして、「甞(よみがえ)る水100選」に選ばれました。

庄下川に架かる開明橋は、阪神電鉄尼崎駅から徒歩3分のところにあり、欄干には尼崎城の縄張りがデザインされています。

**見える景観 <VIEW>**

尼崎城址公園の白い城壁と石垣のある辺りが、ちょうど西三の丸があった場所になります。戸田氏鉄(とだうじかね)が築いたとされる尼崎城は、慶長20年(1615)、江戸幕府が一国一城令を發布した後に特別に築城されることになった城です。尼崎駅から南西300mほどのところに位置する尼信会館では、城主ゆかりの品々や尼崎城の構造を詳細に描いた絵図、城の立体模型などを展示しており、在りし日の尼崎城を知ることができます。甲子園球場の約3.5倍の縄張りに四重の天守を持った尼崎城は、明治6年(1873)の廃城令により取り壊されました。

**関連情報 <INFORMATION>**

開明橋から見ると中央図書館のすぐ裏側の場所に、平成31年(2019)に約140年ぶりに尼崎城が再建されました。大規模家電量販店の創業者が「創業の地に恩返しを」と私財10億円以上を投じて再建し、市に寄贈したものです。RC造5階建て、高さ約24mの天守閣が再現されています。内部は、歴史を伝えるパネル展示、着物を試着できるフロア、剣術体験ゲームなどが楽しめる施設となっています。



<b>19</b>	<b>尼崎の森中央緑地パークセンター付近</b>	<b>所在地</b>	尼崎市扇町
		<b>位置情報</b>	北緯 34度41分45.2秒 東経 135度22分57.9秒

<b>見える景観</b>	臨海部に出現した大芝生広場
--------------	---------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

尼崎の森中央緑地は、昔は製鉄会社の工場があった埋立地です。阪神電鉄出屋敷駅から阪神バスに乗り、「尼崎スポーツの森」にて下車し徒歩5分のところにあります。県民の参画により、「地域が育てる森」とすることを基本理念とし、16万本の苗木を植え、多様な生物が暮らす生物多様性の森を100年かけて作っています。これは、「生物多様性」が人類の生存に必要な恵みをもたらす持続基盤であり、地域独自の多様な文化を支えるという考え方に基づいています。植えた苗が大きく育って、いろいろな生き物たちがやってきて、にぎやかな森になってきています。

パークセンターは中央緑地全体の総合案内や森づくりの情報発信を行う拠点です。環境学習や県民活動の場としても利用されています。県産材を活用した木造平屋建てで、屋上には太陽光発電や風力発電施設、緑化スペースを設けるなど、省エネルギーにも配慮しています。

会議室、作業室、多目的トイレ、授乳・救護室が備えられ、ホールには植物や昆虫の図鑑があります。また、森づくりなどに関連した「遊べるコーナー」が設置されており、月毎に内容が変わる「いつでも体験プログラム(無料)」が実施されています。



ビューポイント・見える景観 <VIEW POINT・VIEW>



パークセンター

**見える景観 <VIEW>**

大芝生広場は、平成27年(2015)秋にオープンした県立都市公園最大級の芝生公園です。広さは約2.4haあり、「森の文化祭」、「森のマルシェ」など様々なイベントで利用されています。

**関連情報 <INFORMATION>**

平成28年(2016)に茅葺(かやぶき)民家が同敷地に移築復原されました。この建物は、芦屋市三条町にあった茅葺民家(市指定文化財)が、阪神・淡路大震災で全壊した後、長い間、解体保存されていたものです。六甲山南麓で現存する江戸時代の茅葺民家はこの建物だけであり、平成30年(2018)に県指定文化財になっています。

<b>20</b>	しゅくがわ <b>夙川公園の阪急苦楽園口駅付近</b>	<b>所在地</b>	西宮市南越木岩町
		<b>位置情報</b>	北緯 34度44分57.4秒 東経 135度19分45.8秒

<b>見える景観</b>	夙川と桜並木
--------------	--------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

阪急電鉄苦楽園口駅東側の夙川を下ってすぐにビューポイントがあります。桜は西宮の市花であり、市内に桜の名所が多いことから決定されました。その名所の代表格が夙川公園です。正式には「夙川河川敷緑地」と呼ばれる都市公園で、南北約2.8kmの間に約1,660本の桜が植えられています。平成2年(1990)に公益財団法人日本さくら会の会による「日本さくら名所100選」に選定され、平成18年(2006)に「日本の歴史公園100選」、「美しい日本の歴史的風土準100選」にも選ばれました。一部では、両側の護岸を歩くことができ、写真スポットになっています。

**見える景観 <VIEW>**

夙川の堤には古くから松が生育し、美しい景観を呈していました。昭和12年(1937)には、街路事業として河畔松林の保全が図られ、昭和26年(1951)に戦災復興事業の一環として河川敷が公園化されました。それに先立つ昭和24年(1949)には、1,000本の若木が植栽され、それらの桜の成長とともに、現在のように桜と松林の並木が川の中ほどまで枝を広げ、アーチ状に連なる見事な景観が生まれました。西宮のシンボルである甲山(かぶとやま)が望遠でき、お椀を伏せたような山容と調和した景観も素晴らしいです。

**関連情報 <INFORMATION>**

平成21年(2009)から、夏至と冬至の時期に合わせて年2回、夙川公園とその周辺において「苦楽園・夙川キャンドルナイト」が開催されています。電気を消してエコや省エネについて考えるとともに地域の活性化を目的として始まったイベントで、キャンドルの灯りが夜を彩ります。苦楽園口駅すぐのメイン会場では「こどもコンサート」などが催され、周辺の店舗でも特別な食事のメニューや企画が展開されます。



ビューポイント <VIEW POINT>



見える景観 <VIEW>

撮影：奥 麻奈美

21	しゅくがわ 夙川公園のこほろぎ橋付近	所在地	西宮市相生町
		位置情報	北緯 34度44分35.6秒 東経 135度19分43.3秒

見える景観	こほろぎ橋と川の水面
-------	------------

### ビューポイント <VIEW POINT>

こほろぎ橋は、阪急電鉄夙川駅から徒歩約3分のところにあり、夙川公園内にあるビューポイントです。なお、阪急電鉄夙川駅のプラットホームからも桜並木やこほろぎ橋を見渡すことができます。

### 見える景観 <VIEW>

夙川は、東六甲山の観音山・ゴロゴロ岳あたりを水源としています。昔は「暴れ川」といわれ、西宮の町もたびたび水害に悩まされたといえます。鎌倉時代に、西宮神社の西側に河川の付け替えが行われ、今の夙川となっています。

こほろぎ橋は、昭和33年(1958)に供用された市管理のアーチ型の石橋であり、小説家の谷崎潤一郎の「細雪(ささめゆき)」を原作にした映画「細雪」でロケ地となった橋梁です。

### 関連情報 <INFORMATION>

桜の数や種類が多いところでは、新種の桜が生まれる可能性が高いといわれています。その説のとおり、ここ夙川でも、この地で生まれた美しい桜があります。それは夙川からほど近い雲井町の公園に自生していたヤマザクラで、平成11年(1999)に発見されました。この桜を守り育てようと、西宮市植物生産研究センターがバイオテクノロジーによる増殖に取り組み、平成17年(2005)の春に初めて開花に成功。市民から名前を公募し、「夙川舞桜(しゅくがわまいざくら)」と命名されました。

夙川舞桜は花弁がおよそ10枚までの半八重の桜で、最初は薄いピンクで徐々に白くなり、最後は赤く染まって散るのが特徴です。その名前のように花びらが舞っているように見える可憐な桜で、花と同時に葉が開くヤマザクラ系ですが、ソメイヨシノとほぼ同じ時期に開花します。

夙川舞桜は、阪急電鉄夙川駅前の羽衣橋の南東の角などで見ることができます。

ビューポイント・見える景観 <VIEW POINT・VIEW>



夙川舞桜



撮影：西宮市植物生産研究センター

22	こうろえんはま 香櫨園浜の砂浜	所在地	西宮市西波止町
		位置情報	北緯 34度43分23.5秒 東経 135度19分59.0秒

見える景観	対岸に見える高層団地群
-------	-------------

### ビューポイント <VIEW POINT>

高度成長期まで、阪神間の海は海水浴を楽しむ人で埋めつくされていました。なかでも香櫨園浜は阪神電鉄香櫨園駅から夙川沿いを歩いて約20分のところにあり、施設も整い、また景勝地として人気の高い場所でした。毎年大勢の客で賑わっていた海水浴場ですが、戦争の影響で昭和18年(1943)に閉鎖されます。

戦後、海水浴場が復活するのは昭和22年(1947)。昭和30年代後半に入ると、海水汚染が目立つようになり、昭和40年(1965)、香櫨園海水浴場は甲子園海水浴場とともに閉鎖されました。その後、昭和50年代には海の水をきれいにする取組が功を奏し、ウィンドサーフィンを楽しむ人が集い、野鳥が飛来する楽園に姿を変えました。

浜には、駐車場、駐輪場(サイクルスタンド)、トイレ、遊歩道などが整備されています。夙川沿いを散策しながら香櫨園浜に立ち寄ることで、都会でありながらも緑、川、海、風など自然を感じ、楽しむことができる場所です。

### 見える景観 <VIEW>

対岸に見える高層団地群は、六甲山を流れ落ちる芦屋川と宮川の河口を埋め立てて開発された総面積約125haのニュータウンです。阪神間の住宅需要に応えるために、昭和44年(1969)に埋め立てを開始しました。昭和47年(1972)に策定された「芦屋浜埋立地高層・計画」に基づいて工事が進み、昭和54年(1979)に高層地区から入居が始まりました。超高層工業住宅のモデルを試したASTM(アステム)、分譲タウンハウス、コモンをもった戸建て住宅など、多様な試みがなされています。

### 関連情報 <INFORMATION>

香櫨園浜には、江戸末期に江戸幕府が築いた「西宮砲台」があります。砲台の位置は勝海舟が計画しました。大正11年(1922)、国指定史跡になっています。

ビューポイント・見える景観 <VIEW POINT・VIEW>



西宮砲台



23	廣田神社参道一の鳥居付近	所在地	西宮市柳本町
		位置情報	北緯 34度44分54.8秒 東経 135度20分32.1秒

見える景観	石畳参道の松並木と周辺のまちなみ
-------	------------------

### ビューポイント <VIEW POINT>

阪急・阪神バス「廣田神社前」から南へ約500mのところの一の鳥居があります。廣田神社は、生田神社、長田神社(以上、神戸市)、住吉大社(大阪市)とともに神功皇后が創建した摂津四柱大神の一つで、当時の官社である全国の神社一覧に掲載した「延喜式(えんぎしき)神名帳」で名神大社に列した名社です。平安時代には和歌に靈験のある神として、中世以降は武將に崇敬され、源頼朝が社領を寄進しました。慶長9年(1604)には豊臣秀頼が、寛文3年(1663)には徳川家綱が社殿を修理しています。平安時代の「伊呂波字類抄(いろはじるいしょう)」をはじめ、本居宣長の「古事記伝」などには廣田神社を「西宮」と称したことが記されています。後に「西宮」は、廣田神社の荘園「廣田神郷」(神戸市東部～尼崎西部、有馬、猪名川間)全体の地名として使われ、近世には末社の南宮や、現在の西宮戎神社のある浜南宮を中心とした地域(旧西宮町)の地名となり、現在は西宮市の名称になっています。



### 見える景観 <VIEW>

石畳を挟んで、松と石籠が並ぶ約500mの参道は、それまで荒廃していたものを平成26年(2014)に整備したものです。その後、毎月第1・第3日曜日に、午前8時からの1時間程度、「廣田参道を美しくする会」による清掃が行われるようになりました。同会には会員登録や会費の徴収はなく、清掃は自ら軍手を持参して参加する地元住民等の協力により実施されています。また、西宮市は、文教都市宣言50周年を機に道路名称を公募し、「広田神社筋」と命名しています。



### 関連情報 <INFORMATION>

廣田神社は、阪神タイガースの必勝祈願でも知られ、その歴史は古く、球団結成時の昭和11年(1936)から続いています。神社背後の約2万㎡の丘陵一帯には、県指定天然記念物のコバノミツバツツジが十数ヶ所の群落をつくっており、高さは3m以上の木が多く、総数約2万株が花咲く4月の開花時期には多くの観光客が訪れます。

24	芦屋川に架かる公光橋 <small>きんみつばし</small>	所在地	芦屋市公光町
		位置情報	北緯 34度43分42.4秒 東経 135度18分11.6秒

見える景観	芦屋川と六甲山
-------	---------

### ビューポイント <VIEW POINT>

公光橋は、阪神電鉄芦屋駅から北へ約70mのところ、市道鳴尾御影線と芦屋川の交差点に位置しています。昭和42年(1967)、最大時間降雨量69.4mmを記録した台風7号豪雨で倒壊したため、現在の橋は、昭和43年(1968)に橋長27.76m、幅員15mの3径間連続PCポストテンション中空床版橋に架け替えられたものです。幅員9mの車道と幅員3mの歩道で構成され、歩道舗装は市道と統一したベンガラ色が採用されており、景観への配慮が見られます。



### 見える景観 <VIEW>

芦屋川は、平成24年(2012)に「芦屋川の文化的景観」という名称で、市指定文化財になりました。川は芦屋市域を南北に縦断するように流れており、流域は豊かな自然に恵まれ、住宅地のオアシスとなって市民に親しまれています。沿岸には、芦屋警察署や税務署、国指定文化財である「旧山邑家住宅(ヨドコウ迎賓館)」、景観法に基づく景観重要建造物に市が指定した「芦屋仏教会館」や「カトリック芦屋教会」などの歴史的文化遺産が芦屋川の文化的景観を創り出しています。「芦屋川の文化的景観」は、六甲山を背にする芦屋川がもたらす水の恩恵と前述の水害の脅威が交錯して育まれてきたものです。



### 関連情報 <INFORMATION>

芦屋市は市域全域が景観法に基づく「景観地区」に指定されています。市域全域を対象とした地区指定を行っているのは、全国でも例がありません。芦屋川の沿岸は「芦屋川特別景観地区」に、それ以外の市全域は「芦屋景観地区」に指定されています。芦屋川特別景観地区では、芦屋市の最も重要な景観を有する地域である芦屋川沿岸地域の個性と風格のある美しい景観を守るため、より厳しい基準を設け、建築物等の審査がされています。

<b>25</b>	<b>芦屋市立潮芦屋交流センター裏</b>	所在地	芦屋市海洋町
		位置情報	北緯 34度42分36.8秒 東経 135度18分60.0秒

<b>見える景観</b>	<b>芦屋マリナーと芦屋ベイコート倶楽部</b>
--------------	--------------------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

芦屋市立潮芦屋交流センターの裏にあるビューポイントは、阪急バス「潮芦屋中央」から徒歩約6分のところにあります。同センターは、潮芦屋集会所(1階)、国際交流センター(2階)、屋外交流センター(テニスコート)の3つの施設で構成される複合施設で、国際交流・地域のコミュニケーションの拠点として、語学・文化教室、コンサートなどが開かれています。

臨海部の「南芦屋浜(=潮芦屋)地区」は、芦屋の洗練されたイメージを継承しながら、六甲山系の山並み、輝く蒼い海、芦屋川の優しい流れ等、恵まれた自然環境を生かし、戸建て住宅を中心とした豊かな自然と優れた住居環境のまちとして整備が進められています。「南芦屋浜地区」は都市計画法の地区計画の区域で、景観法の景観計画において重点地区に位置づけられ、市都市景観条例による「景観形成地区」に指定されています。

**見える景観 <VIEW>**

大型のヨットやクルーザーが係留されている「芦屋マリナー」と大型客船が海に浮かんでいるかのような「芦屋ベイコート倶楽部」は、大阪湾を背景に、地区のランドマーク的な存在で、親水性豊かなウォーターフロント景観を見ることができます。

**関連情報 <INFORMATION>**

南芦屋浜地区は、民間マリナーを核に、住宅・商業・文化・海洋性レクリエーション等の複合機能をもった地区です。埋め立てにより整備されたキャナルパークがあり、芦屋市観光協会により「あしや八景」として紹介されています。

キャナルパークは人と自然がふれあう絶好の水辺空間で、マリンスポーツや散策、憩いの場として市民に親しまれているほか、最南端の海岸沿いに潮芦屋ビーチもあります。休日には多くの市民が憩い、天気によければ沖ゆく船や淡路島が望めます。



<b>26</b>	<b>景観重要建造物「長寿蔵」前</b>	所在地	伊丹市中央
		位置情報	北緯 34度46分51.3秒 東経 135度25分01.2秒

<b>見える景観</b>	<b>酒蔵通りのまちなみ</b>
--------------	------------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

「長寿蔵」は、JRと阪急電鉄の伊丹駅から徒歩5分のところにあります。19世紀中期に建てられた酒蔵で、切妻造、本瓦葺の三棟接続を特徴としています。現在は、伊丹の酒を楽しむレストラン、江戸時代の酒造りで使われた道具や醸造プロセスを紹介するブルワリーミュージアムとして改装され、往時をしのばせる建造物として市民に親しまれています。正式名称は「白雪ブルワリービレッジ長寿蔵」で、平成19年(2007)には景観法に基づく「景観重要建造物」に市が指定し、通りのランドマークとなっています。

**見える景観 <VIEW>**

伊丹市は清酒発祥の地と知られ、酒造りは室町時代から始まりました。伊丹から江戸へと出荷された酒は「丹醸(たんじょう)」と呼ばれ、高級酒としてもはやされました。最盛期には、85軒もの造り酒屋が建ち並ぶほど繁栄しました。

JR伊丹駅と阪急電鉄伊丹駅とを結ぶ歩行者優先道路界限は、「伊丹酒蔵通り」として親しまれています。平成20年(2008)には、市都市景観条例に基づく「都市景観形成道路地区」に指定され、同年、国土交通省主催の「美しいまちなみ優秀賞」を受賞しました。町家風の商業施設「郷町長屋(ごうちょうながや)」をはじめ、レトロモダンな佇まいのレストランやショップが軒を連ねており、夕暮れ時に歩くと、つい立ち寄りたくなるような楽しい通りです。秋とクリスマス時期には幻想的な行灯が並ぶ「まち灯り」も開催されています。

**関連情報 <INFORMATION>**

長寿蔵からほど近い三軒寺前広場は、伊丹の地酒や日本酒カクテルが楽しめるイベント「伊丹まちなかバル」や「酒樽夜市」、「伊丹郷町屋台村」などの魅力的なお酒のイベントが開催される中心エリアとなっています。



27	金剛院の山門前	所在地	伊丹市宮ノ前
		位置情報	北緯 34度46分59.6秒 東経 135度24分56.7秒

見える景観	猪名野神社参道のまちなみ
-------	--------------

### ビューポイント <VIEW POINT>

阪急電鉄伊丹駅を下車し、北東へ約600m進むと金剛院があります。  
 金剛院は、猪名野神社の参道沿いにある真言宗御室派(おむろは)の寺院で、延喜4年(904)に宇多天皇の勅願所(ちよくがんしょ)として理源大師(りげんだいし)により開基され、またの名を「野宮(ののみや)寺」といいます。江戸時代には伊丹七郷の氏寺となり、「野ノ宮」(現猪名野神社)の別当寺を勤めていました。  
 参道の先にある猪名野神社には、戦国時代、「有岡城」の惣構(そうがまえ)北端を防御する「岸の砦」が置かれました。今も土塁跡が残り、境内全域が国指定史跡になっています。また、本殿、拝殿、幣殿が県指定文化財になっています。  
 この参道は、市民に「宮前通り」と呼ばれ親しまれています。

ビューポイント・見える景観 <VIEW POINT・VIEW>



### 見える景観 <VIEW>

猪名野神社の参道境界は、平成2年(1990)に、市都市景観条例に基づく「都市景観形成道路地区」として重点的に景観形成を図る地域となり、風情の残る落ち着いたまちなみが保全されています。  
 北少路村は、元禄期の伊丹郷町(いたみごうちょう)を構成する15ヶ村の1つで、商家を中心に発達した長い歴史を持ちます。現在も歴史的なまちなみを再現する建物が多く見られ、酒蔵をモチーフとした市立図書館本館「ことば蔵」や伝統的な建材を取り入れ、伊丹市都市景観賞を受賞した「宮ノ前アトリエショップ」があります。車止めや街灯なども、歴史的要素を感じるデザインで統一されています。

宮前まつり



### 関連情報 <INFORMATION>

宮前通りでは、毎年春と秋に「宮前まつり」が開催されています。秋は猪名野神社のお神輿と迫力あふれる「ふとん太鼓」の巡行、地元商店会や周辺自治会などの模擬店やフリーマーケットで賑わい、約1万5,000人の来場者とともに伊丹の風物詩となっています。

28	こやいけ そうせいち 昆陽池公園の草生地広場	所在地	伊丹市昆陽池
		位置情報	北緯 34度47分14.5秒 東経 135度23分40.2秒

見える景観	山並みを背景に野鳥が飛び交う水辺
-------	------------------

### ビューポイント <VIEW POINT>

市バス「昆陽池公園前」すぐの昆陽池は、僧行基(ぎょうき)によって古く奈良時代に築造されたと伝えられており、伊丹市が昭和43年(1968)に一部公園化し、さらに昭和47年(1972)・48年(1973)に現在の姿に整備しました。  
 草生地広場は、晴れた日はお弁当を食べるのに最適な芝生広場で、目の前に野鳥観察橋があります。  
 広場内の水路では、6月から7月にかけてヘイケボタルが観察できるときもあります。公園内には桜やツツジなどが植栽され、花見も楽しめます。

ビューポイント・見える景観 <VIEW POINT・VIEW>



### 見える景観 <VIEW>

昆陽池は、都市部では珍しい野鳥のオアシスで、山並みを背景とする風景を見ることができます。池の中央には、日本列島の形をした島があります。  
 関西屈指の渡り鳥の飛来地で、秋から冬にかけては、オナガガモ・コガモ・ヒドリガモ・マガモ・キンクロハジロ・ハシビロガモ・ホシハジロ・ユリカモメ・ミコアイサ・カンムリカイツブリなど多くの野鳥を見ることができます。また、年中白鳥が泳ぐ姿も見られます。  
 平成11年(1999)から平成18年(2006)にかけて、浄化対策により水質が改善され、野鳥観察橋も新たに整備されました。平成22年(2010)には農林水産省から「ため池百選」に選ばれています。

見える景観 <VIEW>



### 関連情報 <INFORMATION>

昆陽池公園内には、伊丹市昆虫館があります。一年中チョウが舞うチョウ温室など、親子で楽しめる自然学習施設です。4階にある展望台からは、昆陽池公園が一望できます。



<b>29</b>	<small>みなみづめ</small> <b>宝塚大橋南詰</b>	<b>所在地</b>	宝塚市南口
		<b>位置情報</b>	北緯 34度 48分 18.5秒 東経 135度 20分 48.7秒

<b>見える景観</b>	<b>宝塚大劇場と阪急電車</b>
--------------	-------------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

阪急電鉄宝塚南口駅から徒歩約3分にある宝塚大橋は、武庫川に架かり、駅から宝塚大劇場前の花の道を結ぶルート上にあります。市民のオープンスペースとして「橋の公園」を目指したもので、車道との境界にプランターボックスを設置し、植栽を施しています。南詰には、腰掛けできる植栽帯があり、中央部には半円形のバルコニーを設け、彫刻、シェルターなどを配置しています。



**見える景観 <VIEW>**

平成26年(2014)、宝塚大劇場は初演から100年を迎えました。「宝塚」の名前を全国区にしたのは、この宝塚大劇場と言っても過言ではありません。専用の劇場・出演者(宝塚では「生徒」と呼ばれます)・オーケストラ・演出家によるプロダクションシステムを持ち、出演者を養成する教育機関まで備える女性だけの劇団は、世界でも類を見ません。劇場の創設者は、阪急電鉄の専務であった小林一三(いちぞう)です。明治43年(1910)に開業した宝塚本線と箕面支線の沿線開発の一環として、同44年(1911)に武庫川左岸に宝塚新温泉の営業を開始しました。その翌年には室内プールを備えた「パラダイス」を開館し、温泉娯楽場づくりを進めます。その一方で、温泉地のアトラクションの充実を目的に、12~15歳の少女を集めて、宝塚唱歌隊を結成しました。音楽やダンスの練習を重ね、約半年後に少女歌劇を上演し、これが宝塚歌劇の初公演となりました。小林一三という日本屈指の実業家により生まれた「宝塚大劇場と阪急電車」は、宝塚を象徴する景観となっています。

**関連情報 <INFORMATION>**

昭和20年(1945)から27年(1952)まで、歌劇団に男子部が特設されました。一般公募により選ばれた男子研究生は、オペラ歌手やダンサー、俳優を目指し、レッスンに励みましたが、女性だけの宝塚歌劇にこだわるファンは多く、劇場での男女共演のチャンスはついに訪れることなく解散となりました。

<b>30</b>	<b>JR 福知山線廃線跡の展望広場</b>	<b>所在地</b>	宝塚市切畑長尾山
		<b>位置情報</b>	北緯 34度 51分 08.6秒 東経 135度 18分 58.8秒

<b>見える景観</b>	<b>新緑の武庫川沿いの風景</b>
--------------	--------------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

JR 武田尾駅から約30分歩くと、ベンチが設置された展望広場があります。国鉄の福知山線の廃線敷で、武庫川渓谷の四季折々の自然景観を楽しめるハイキングコースとして多くの人が訪れます。コース沿いの樹木には、その名称と特性、「なぞなぞ」を書いた樹名板が地元のボランティア活動の一環として取り付けられており、自然を学習しながら歩くことができるような工夫がされています。また、「私の好きな兵庫の風景100選」及び「兵庫県観光百選」に選定されています。



**見える景観 <VIEW>**

残されたトンネルや橋、枕木を踏みしめながら見る風景は、鉄道が走っていた時代の風景を連想させます。展望広場には、季節毎の写真が掲載されたプレートが設置されており、そこには「山々の間をゆったりと流れる武庫川。気づかぬうちに日々姿をかえゆく周囲の山々。ここ展望広場は廃線跡ハイキングコースの中でも美しい景観を楽しめるビューポイントの一つです。ベンチに腰を下ろし、武田尾の四季をゆっくりとお楽しみください。」と記されています。

**関連情報 <INFORMATION>**

県は平成3年度から平成12年度にかけて、瀬戸内海から日本海を結ぶ延長約170kmの河川沿い(武庫川~篠山川~加古川上流~円山川(まるやまがわ))を約5万本の桜でつなぐ「ふるさと桜づつみ回廊」を整備しました。廃線跡の桜並木は、この事業で植えられたもので、桜ふれあい広場の小高い場所の廃線跡側に4本、川側に14本の桜がほぼ等間隔で植えられています。そこには、川を身近な自然として愛し、安全で美しい県土を創出するとともに、地域交流を深めてもらいたいという願いが込められています。最寄りのJR 武田尾駅周辺には温泉地もあり、阪神エリアから身近に親しめる自然豊かな渓谷です。

31	さかせがわ <b>阪急逆瀬川駅西の逆瀬川に架かる橋</b>	所在地	宝塚市野上
		位置情報	北緯 34度 47分 26.0秒 東経 135度 20分 34.0秒
見える景観	かぶとやま <b>逆瀬川と甲山</b>		
<p><b>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</b></p> <p>阪急逆瀬川駅から逆瀬川を約500m上った西山小学校前交差点付近に、ビューポイントである「なかよし橋」があります。なかよし橋のすぐ近くには内畑緑地公園があり、公園内には「ホテルの里ピカピカランド」というホテルの飼育施設が設置され、夏にはホテル観賞が楽しめます。市街地を流れる河川でありながら、自然の潤いを感じることができます。</p> <p><b>見える景観 &lt;VIEW&gt;</b></p> <p>なかよし橋から上流側に逆瀬川を望むと、逆瀬川の砂防堰堤(えんてい)が見えます。逆瀬川は、かつては大雨のたびに氾濫し、流域に水害をもたらす暴れ川でした。明治～昭和初期、逆瀬川の中・下流部は川幅が150～200mもあり、大雨のたびに堆積した土砂で「逆瀬川砂漠」と呼ばれるほどでした。明治25年(1892)の大水害で深刻な被害が出たことをきっかけに、上流部では六甲山系で初めての砂防工事が行われ、さらに昭和3年(1928)から6年かけて、「砂防の父」と呼ばれた赤木正雄の指導のもとで、日本で初めての大規模な玉石積流路工が施工されました。川幅18m、延長5.4kmにわたり、巨大石積堰堤や鎧(よろい)積堰堤など、日本の近代砂防史を物語る屈指の構造物106基が設置されています。</p> <p>逆瀬川の後方に見えているのが標高309mの甲山です。西宮市史によると、古い時代の小火山が風雨の浸食で削られて崩れ、噴出当時の火山体の内部があらわれたものだそうです。甲山の名は、「神の山(コウノヤマ)」が「甲山」に変わったものであると田岡香逸が「西宮地名考」に書いています。</p> <p><b>関連情報 &lt;INFORMATION&gt;</b></p> <p>逆瀬川上流に位置する「ゆずり葉緑地公園」には、県の砂防事業100年を記念して、砂防のモニュメントが整備されています。砂防事業の発祥地であることから逆瀬川に建設されたもので、砂防の歴史や砂防の働きを学ぶことができます。</p>		<p>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</p>  <p>見える景観 &lt;VIEW&gt;</p> 	

32	<b>妙見山上杉尾根ハイキングコース</b>	所在地	川西市黒川口滝谷
		位置情報	北緯 34度 55分 05.7秒 東経 135度 27分 28.0秒
見える景観	日本一と称される里山「黒川」		
<p><b>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</b></p> <p>関西の霊場として名高い能勢妙見宮のある登山道で、川西市と大阪府豊能郡能勢町の府県境に位置しています。大阪湾や黒川地区が一望でき、豊かな自然、四季折々の木々が美しいハイキングコースは、「上杉尾根コース」、「妙見稜線コース」とも呼ばれています。ビューポイントには、ハイキングコースに設置されている「緊急通報ポイント6」の表示サインを目指して歩いて行くと辿り着きます。</p> <p>周辺には、妙見山上までケーブルとリフトが運行しており、登山又は下山の際に利用できます。</p> <p><b>見える景観 &lt;VIEW&gt;</b></p> <p>黒川地区では、今でも菊炭(きくずみ)(一庫炭(ひとくらずみ))と呼ばれる炭を生産するために、クヌギ林を利用しています。菊炭は、茶道に使われる高級炭として知られています。山を10ヶ所に分けし、8～12年の周期で順番に伐採する「輪伐」を行うことにより、里山独自のパッチワーク状の里山景観が形成されます。</p> <p>また、人が山を手入れし、日光が入ることによって、オオクワガタ等の昆虫の生息場所となり、生物多様性が保たれています。なお、黒川の里山は「にほんの里100選」に選ばれており、「日本一の里山」ともいわれています。</p> <p><b>関連情報 &lt;INFORMATION&gt;</b></p> <p>里山とは、燃料や肥料に使う木や枝葉を取るため、人が立ち入る山のことで、木を切り、再生し、成長したらまた切るというサイクルにより里山の環境は保たれます。この黒川の里山を「日本一」と呼び始めたのは県立大学の服部保名誉教授であるといわれています。平安時代や江戸時代の多くの書物などに、黒川地区の炭焼きやクヌギ林のことが記されていることから、長い間、人の手が入り続けた継続性があったことがその理由です。</p>		<p>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</p>  <p>見える景観 &lt;VIEW&gt;</p> 	

33	こうへんじ 光遍寺北側の道路わき	所在地	川西市東多田
		位置情報	北緯 34度51分33.0秒 東経 135度25分20.1秒

見える景観	東多田 <sup>むしやうあん</sup> 夢勝庵と田んぼ
-------	-------------------------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

光遍寺は、能勢電鉄多田駅から東へ約500mの、猪名川東側の集落にあります。東多田地域には、昔ながらに手入れされ、農作物を育ててきた田畑と集落が一体となった景観が広がっています。「多田」の地名は、平安時代には既にあり、「住吉大社神代記」には「豊島郡(現在の大阪府池田市・箕面市・吹田市付近)と能勢郡の中間に丹波に通じる道や広い原があり、百姓が開発し田田邑(たたむら)と号した」と記されています。また、現在の平野(ひらの)に延喜式(えんぎしき)内社である多太(ただ)神社があることから、この一帯が早くから開けており、地名が「多田」といわれていたことが分かります。多太神社は、現在、多田神社と区別するため「多太(たぶと)神社」と称しています。



**見える景観 <VIEW>**

東多田夢勝庵は、江戸時代後期から明治時代初期に建築されたと推定される庄屋屋敷です。

主屋は、入母屋造り平屋建てで、屋根はいぶし瓦の棧瓦葺きです。「むくり」(独特の屋根の丸み)が大きく、瓦のサイズも現代のものより大きく、大壁の白漆喰が塗り込められ、豪華で堂々とした意匠となっています。また、敷地南東隅に平屋建ての長屋門がし字型に建ち、門扉を構えた堂々たる表構えをつくっています。田んぼ越しに見える長屋門と白漆喰の土壁、庭に高く伸びる二本杉やカイヅカイブキなどの大木が、地域のシンボリックな景観となっています。

東多田夢勝庵は、平成29年(2017)に市景観条例による「景観建造物」として初めて指定され、平成30年(2018)に、「国登録文化財」になり、令和2年(2020)には、県景観条例に基づく「景観形成重要建造物」に指定されました。



34	有馬富士公園の福島大池付近	所在地	三田市福島
		位置情報	北緯 34度54分57.5秒 東経 135度13分23.9秒

見える景観	有馬富士と福島大池
-------	-----------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

有馬富士公園は、神姫バス「有馬富士公園前」を下車してすぐのところにあります。阪神間において広域・多様化するレクリエーション需要に応えるため、平成13年(2001)に開園しました。園内には、林・水辺・草地の各生態園や棚田など自然体験や生き物の観察に最適な施設や、日本の伝統的な住まいや暮らしを伝承する茅葺(かやぶき)民家があります。平成17年(2005)には、三田の民話をテーマにした遊具のある施設「あそびの王国」、平成19年(2007)には「休養ゾーン」がオープンしました。「休養ゾーン」には、三田市在住の彫刻家の新宮晋(しんぐうすすむ)が県に寄贈した風で動く12点の彫刻が展示されている「風のミュージアム」があります。豊かな自然を活かした「自然休養型の文化公園」を基本テーマとした県内最大の都市公園です。



**見える景観 <VIEW>**

有馬富士公園にある福島大池は、奈良時代に僧行基(ぎょうき)が築いたといわれています。その水は、大原と東野上の谷間約2.5kmを「大池川」となって、灌漑用水として流れています。福島大池越しに望む標高374mの「有馬富士」は、かつては角山(つのやま)とも呼ばれていましたが、裾野が長く、山容が富士山に似て美しいことから、その名で呼ばれています。なだらかな緑の山容が水面に優しい影を映しており、「ひょうご風景100選」に選定されています。



**関連情報 <INFORMATION>**

有馬富士は四季折々の楽しみがあります。花と新緑の季節である春は、桜やつつじ、里山のタムシバ等、毎週のように様々な花が咲き誇ります。夏はこども連れでの昆虫採集がおすすめです。早朝の林内は野鳥の歌声で溢れます。紅葉と渡り鳥の季節である秋は、カモ類を筆頭に多くの渡り鳥が福島大池や千丈寺湖に訪れます。冬はハイキングがおすすめです。雪を踏む音、風の音、凜とした空気と景色を楽しむ季節です。

<b>35</b>	<b>三田本町センター街</b>	所在地	三田市三田町
		位置情報	北緯 34度53分04.5秒 東経 135度13分34.4秒
<b>見える景観</b>	城下町の古いまちなみ		
<p><b>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</b> JR 三田駅から徒歩 8 分、神戸電鉄三田本町駅から徒歩 7 分、三田本町センター街の本町通りにビューポイントがあります。 三田は江戸時代以前から交通の要衝にあり、有馬郡はもとより、丹波、播磨地方を後背地とする北摂の物産集散地であり、商業の中心として栄えました。 三田城下には「三田三筋」といわれる鍛冶屋町、本町、裏町の 3 つの通りがあり、うち中央の本町通りが江戸時代の幹線道路でした。</p> <p><b>見える景観 &lt;VIEW&gt;</b> 現在の本町通りは、南北にまっすぐに通り抜けられるようになっていますが、これは昭和初期頃の道路整備によるものです。江戸時代の本町通りは、南に進むと現在の三田本町郵便局の所で湯山町の方へ直角に曲がり、城方向の北に進むと、突き当りを直角に曲がり、川側に迂回するようになっているなど、城下町特有の折れ曲がりを用いた鍵状の街路でした。 三田本町は、明治以降も商業の中心として賑わいましたが、戦後になると商業の中心は次第に武庫川左岸(三輪地区)の鉄道駅付近に移っていきました。</p> <p><b>関連情報 &lt;INFORMATION&gt;</b> 三田本町のまちなみは、三田城下の豪商が軒を並べていた面影を残しています。かつての繁栄をしのばせる本町通りに面する 1 軒の古い商家、「中西度量衡(どりょうこう)店」が改装されて、「三田ほんまち交流館 縁(えん)」という文化活動拠点施設として使われています。平成 19 年(2007)に県の「人間サイズのまちづくり賞(建築部門)」を受賞し、平成 23 年(2011)には、県景観条例に基づく「景観形成重要建造物」に指定されています。 また、同じく本町通り沿いにある旧家の「朝野金物店」には多くの古文書が残されており、三田近世史解明の貴重な資料となっています。</p>			
		<p>ビューポイント・見える景観 &lt;VIEW POINT・VIEW&gt;</p>  <p>三田ほんまち交流館 縁</p> 	

<b>36</b>	かざんいん <b>花山院菩提寺の展望所</b>	所在地	三田市尼寺
		位置情報	北緯 34度56分25.0秒 東経 135度14分25.1秒
<b>見える景観</b>	有馬富士、播磨平野や明石海峡		
<p><b>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</b> 神姫バス「花山院」から参道を登り徒歩約 25 分のところにある花山院菩提寺は、花山法皇が剃髪された元慶寺(がんけいじ)(京都)、巡拝創始者徳道上人(とくどうしょうにん)の法起院(ほうきいん)(奈良)とならぶ西国三十三所観音霊場の番外札所の一つです。 花山院は、花山天皇が 19 歳の若き身で退位されて仏門に入り、法皇として隠棲(いんせい)されたところとして有名で、境内の法皇殿前の一段高い玉垣の中に法皇の御廟所(ごびょうじょ)があり、今でも巡礼者の列が途切れることはありません。</p> <p><b>見える景観 &lt;VIEW&gt;</b> 「有馬富士 麓の霧は海に似て 波かと聞けば 小野の松風」、これは花山院のご詠歌です。展望所にある案内板には、「秋には、当山(421m)と有馬富士の間に霧がでます。その景色は美しく、その昔当山で隠棲されていた花山法皇(第 65 代天皇)が和歌に詠まれました。」と記されています。 展望台からは、有馬富士や三田市街、遠くは播磨平野や明石海峡、瀬戸内海まで望めます。秋の紅葉の時季のほか、若葉が茂る夏も一見の価値があります。</p> <p><b>関連情報 &lt;INFORMATION&gt;</b> 隠棲した法皇を慕い、11 人の女官がこの地に移り住みましたが、かつて女人禁制の寺に入山することを許されず、山腹に琴を持ち運び、法皇を慰めたと伝えられています。剃髪して庵を結んだところを「尼寺(にんじ)」、琴を弾いたところを「琴弾坂(ことひきざか)」と呼びます。「尼寺」は現在の地名になっており、花山院参道の 4 丁石には「琴弾坂」の石碑があります。</p>			
		<p>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</p>  <p>見える景観 &lt;VIEW&gt;</p>  <p>撮影：船城 信也</p>	

<b>37</b>	<small>かんぶく</small> <b>観福の森「とりで広場」</b>	<b>所在地</b>	三田市川原
		<b>位置情報</b>	北緯 34度58分35.8秒 東経 135度16分35.6秒

<b>見える景観</b>	里山林に囲まれた田園風景
--------------	--------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

「とりで広場」がある観福の森のふもとまでは、神姫バス「高平ふるさと交流センター」で下車して行くことができます。

観福の森は、薪や炭などの燃料を得たり、落ち葉を集めて農業用肥料として使うなど、昔から人々と深く関わってきた里山林です。この里山には、尾根周辺にアカマツ林、山裾にコナラの林が広がり、ヒノキやスギの造林も行われています。森を水源とする小さな谷川やため池が多く、昔から里山に見られた多くの生き物に出会うことができます。観福の森には「三十三所詣」の33体の石仏や薬師堂、稲荷、金比羅があり、信仰の山でもあります。「とりで広場」からは田園風景が一望できます。

**見える景観 <VIEW>**

左手に見える大船山(おおふなやま・標高 653 m)は、市内で羽東山(はつかやま・標高 524m)と並ぶ名山の一つといわれ、「ふるさと兵庫 50 山」に選定されています。太古には、この辺りは海で、大船山は島になっており「船を繋いだ松があったから大船山と呼ばれるようになった」との言い伝えがあります。

山頂では古代から中世の土器のかけらが見つかり、「大船山山頂遺跡」と命名されています。写真中央後方に見えるのが羽東山です。

**関連情報 <INFORMATION>**

「高平観福の森ガイドブック」が三田市里山のまちづくり課から発行されており、おすすめの散策コースとして、「高平ふるさと交流センター → さら池 → とりで広場 → 観福寺」の延長 2.5 km、所要時間約 80 分のコースが紹介されています。



ビューポイント <VIEW POINT>



見える景観 <VIEW>

<b>38</b>	<b>三輪神社参道</b>	<b>所在地</b>	三田市三輪
		<b>位置情報</b>	北緯 34度53分28.5秒 東経 135度13分40.8秒

<b>見える景観</b>	三輪神社と参道沿いのまちなみ
--------------	----------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

三輪神社参道は、JR・神戸電鉄の三田駅から徒歩5分ほどで着くことができます。昔ながらの商家が残る参道は、デザイン舗装され、参道わきが石畳風に施されています。

**見える景観 <VIEW>**

三輪神社は、わが国最古といわれる大和の国一之宮・大神社から分祀された社です。三輪神社参道は、三田城下の本町通りから車瀬橋(くるませばし)を渡り三輪神社へ直進する道で、丹波へ通じる街道(現国道 176 号)でもありました。かつては三輪村役場もこの沿道にありました。

明治以降、三輪神社参道の交通量は増大し、参道沿いは神社に至るまで市街化してきます。その後、参道は拡張されましたが、交通量に対応しきれず、昭和 34 年(1959)に市役所前に新道(古城線)ができ、さらに国道 176 号のバイパスが高次経路で建設されました。

道路改良工事の結果、神社の鳥居は少し移動しており、鳥居の脇には「三輪村道路元標」が立っています。

**関連情報 <INFORMATION>**

三輪神社の秋祭りは、三田天満神社の秋祭りと並んで、北摂三田の二大秋祭りとして有名です。江戸時代からのしきたりで、祭日当日の本宮の巡行には、だんじり、ふとん太鼓、子供神輿、供奉行列、猿田彦、稚児、祭主、総代が神輿に先立って歩きます。巡行の途中の休憩所となる「お旅所(たびしょ)」が、参道である JR の踏切の三輪神社側にありますが、そこに置かれた大石は神事の祭壇や神輿の置き場などの重要な舞台装置となります。また、この踏切は、神社の参道を神様から分けてもらったということで「神分(かみわけ)道踏切」と呼ばれています。



ビューポイント・見える景観 <VIEW POINT・VIEW>



三輪神社

39	あかしあ台公園南側入口付近	所在地	三田市あかしあ台
		位置情報	北緯 34度 54分 09.6秒 東経 135度 10分 56.3秒

見える景観	センチュリー大橋と背後の山並み
-------	-----------------

### ビューポイント <VIEW POINT>

ビューポイントは、神戸電鉄南ウッディタウン駅またはウッディタウン中央駅から徒歩約12分のところで、植栽、ベンチ、オープンスペースなど一体となった歩車共存道路「ボンエルフ通り」にあります。近くには、あかしあ台公園やザクロ公園があり、住民の憩いの場となっています。

### 見える景観 <VIEW>

センチュリー大橋は、三田幹線を跨ぐ北摂三田ウッディタウンのシンボルです。憩い、集い、語られる公共空間として住宅都市整備公団(現UR都市機構)が新住宅市街地開発事業により整備し、現在は三田市が管理しています。京都大学白石成人教授の指導を受けて設計、施工して完成しました。

橋の基本的な形式は、吊り橋ですが、多段ケーブル吊り橋という従来の吊り橋になかった構造を採用しており、我が国をはじめ世界的にも類例のない斬新なものとなっています。平成5年度に、橋梁・鋼構造工学での優れた業績に対して贈られる土木学会田中賞を受賞しています。

また、背後には山並みがそびえたち、自然と人工物が融合した景観を見ることができます。

### 関連情報 <INFORMATION>

北摂三田ウッディタウン(587ha)は、三田市にあるニュータウンの一つで、県が整備したフラワータウン(337ha)に続き、2番目に開発されました。住宅都市整備公団により、昭和45年(1970)に計画決定され、昭和62年(1987)にまち開きしています。「すずかけ台」、「あかしあ台」、「けやき台」、「ゆりのき台」の4地区からなり、計画人口は48,000人です。街路樹による緑豊かな広い道路、大きな公園が整備されており、三田市のニュータウンの中では最大の開発面積となっています。

ビューポイント・見える景観 <VIEW POINT・VIEW>



横から見た「センチュリー大橋」



40	おお や さ ん 大野山山頂	所在地	猪名川町柏原
		位置情報	北緯 35度 00分 36.9秒 東経 135度 18分 46.0秒

見える景観	猪名川天文台「アストロピア」
-------	----------------

### ビューポイント <VIEW POINT>

阪急バス「柏原(かしはら)」より徒歩で約1時間30分、猪名川町北部に位置する大野山(標高753m)は、丹波高地に属し、猪名川が流れ出す阪神地域最高峰です。

山頂一帯は、「大野アルプスランド」として整備されており、天文台や岩めぐりコースなど大自然を満喫することができます。

縄文土器が発見されたこの山には、平安時代、源満仲(みなもとのみつなか)が多田荘の北限をここに定めた時、馬の足跡がついたといわれる「馬蹄七つ石」が今も残ります。また、その昔には「ひえの山」とも呼ばれており、「日吉の山」、「比叡山」との共通性や、古文書に山岳寺院「日光寺」が戦国時代まであったと書かれていることから、霊地多紀連山を背景にした山岳信仰の場であったとも考えられます。江戸時代には摂津・丹波の国境として、境界争いも度々おこり、馬蹄七つ石や氷柱石などが境界線と決められました。

### 見える景観 <VIEW>

多紀連山、大阪市内、瀬戸内海まで見渡すことができる360度のパノラマは絶景です。山頂付近は、平野部より約3度気温が低く、6月下旬から7月初旬に見頃を迎える約16,000株の色鮮やかなアジサイが咲き誇り、空とアジサイの2つの「青」が溶け合う光景は、訪れる人を魅了します。また、周囲に光源がなく、澄みきった空気と豊かな自然に囲まれており、夜には満天の星空を楽しむことができます。朝方には、気温・天候等の条件が合うときに雲海を見ることができ、天文台の1階ではプラネタリウムでの星の学習、2階では反射望遠鏡で星空観察や太陽の黒点観察ができます。平成29年(2017)に、「いながわ名所八景」に選ばれています。

### 関連情報 <INFORMATION>

大野アルプスランドは、『観光地域の広域連携』を目的に「恋人の聖地プロジェクト」を展開するNPO法人から、プロポーズにふさわしいロマンティックなスポット「恋人の聖地」に選定されています。

ビューポイント・見える景観 <VIEW POINT・VIEW>



見える景観 <VIEW>



撮影：上田 保行

<b>41</b>	<b>多田銀銅山悠久の館付近</b>	<b>所在地</b>	猪名川町銀山本町
		<b>位置情報</b>	北緯 34度53分50.3秒 東経 135度20分58.2秒

<b>見える景観</b>	<b>多田銀銅山のまちなみ</b>
--------------	-------------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

阪急バス「銀山口」または「白金2丁目」から徒歩約20分のところに多田銀銅山悠久の館があります。多田銀銅山の歴史を紹介する施設で、絵図や古文書、鉱石、鉱山道具などの資料が展示されています。周辺の四季折々の風景と交わって、憩いのひとときを過ごすことができます。また、「多田銀銅山」は、猪名川町、川西市、宝塚市と大阪府域にまたがる鉱床群の総称で、生産体制、鉱山などの管理を含めた江戸時代の支配体制の中で生まれた地域の総称でもあります。「多田」という地名は源満仲が開いた「多田荘」に因んでいると考えられており、豊臣秀吉の「伏見蔵納(くらおさめ)目録」には「多田荘銀山」と記されています。江戸時代には、「多田銀山」「多田銅山」「多田銀銅山」などと呼ばれるようになりました。



**見える景観 <VIEW>**

多田銀銅山の歴史は古く、奈良時代の東大寺大仏建立の際に、ここで採掘された銅が使用されたと伝えられています。鉱山関連の遺跡が広がる銀山地区は、豊臣秀吉が鉱山開発に着手し、江戸幕府が鉱山の管理を行う代官所(役所)を設置するなど多田銀銅山の中心となったところです。銀山橋から北へ視線を向けると、そこはタイムスリップをしたかのような世界が広がっています。銀や銅を生産した吹屋の建物や多く人が暮らしていたことを思わせる石垣など、鉱山町の様子がしのばれる、かつての繁栄のさまを形容した「銀山三千軒」の風景が広がっています。また、「多田銀銅山遺跡」は平成27年(2015)に国指定史跡になっています。



**関連情報 <INFORMATION>**

多田銀銅山悠久の館すぐ近くにある「悠久広場」は、島根の鉱山家である掘藤十郎が明治30年(1897)から10年程度経営した製錬所の跡地です。平成23年(2011)の発掘調査により、当時のレンガ敷遺構が出土しました。現在は大切な近代産業遺跡として埋め戻して保存するとともに、広場として一般に公開されています。





# ビューポイント 150 選

## 第 2 章 播磨エリア

---

No.42 ~ 92

# 播磨エリア ビューポイント一覧

No.	市町名	<ビューポイント> から見る <見える景観>	頁
42	明石市	JR 明石駅のホーム から見る 明石城	34
43		大蔵海岸の遊歩道 から見る 大蔵海岸と明石海峡大橋	35
44		江井島 海岸の遊歩道 から見る ヤシの木と明石海峡	36
45		明石城「櫓の間」にある展望台 から見る 櫓と明石駅南の再開発ビル群	
46	加古川市	鶴林寺仁王門前 から見る 鶴林寺仁王門と三重塔	37
47		高御位山山頂 から見る 加古川・高砂の両市に跨がる市街地	
48		国包の鉄橋わきの加古川左岸 から見る 国包の鉄橋と加古川	
49	高砂市	工楽松右衛門旧宅前 から見る 海運で栄えた港町のまちなみ	39
50		梅ヶ枝湯前 から見る 昭和を感じるレトロなまちなみ	
51		宝殿山山頂 から見る 伊保港沖に浮かぶ「ほうらく島」	
52	稲美町	加古大池の遊歩道 から見る 加古大池	40
53	播磨町	大中遺跡公園 から見る 緑の中に建つ古代建造物群	
54	西脇市	矢筈山山頂 から見る 六甲・西脇・丹波の山並みと雲海	41
55		播州織工房館前 から見る のこぎり屋根が特徴的なまちなみ	
56		比延山の三角点・大岩壁 から見る 野村・西脇城跡を含む市街地	
57	三木市	芝町公民館付近 から見る 旧湯の山街道の古いまちなみ	43
58		旧湯の山街道の大塚薬師堂前 から見る 歴史街道芝町・平山地区のまちなみ	
59		正法寺山展望広場 から見る 厄神鉄橋の夕焼けの景色	
60	小野市	八柱神社付近の農道 から見る 水田と鎮守の森がつくる「ジブリの森」	44
61	国登録文化財「水田家住宅」付近 から見る 旧丹波街道の古いまちなみ		
62	加西市	西岸寺前 から見る 寺町通りのまちなみ	45
63		鶉野町のため池 から見る ため池越しに望む善防山	
64	加東市	闘竜すくえあ(公園) から見る 迫力あふれる奇岩「闘竜灘」	46
65	多可町	岩座神公会堂付近 から見る 反りが美しい棚田の石積みと集落風景	47
66	姫路市	JR 姫路駅前の展望台キャッスルビュー から見る 大手前通りと姫路城	
67		姫路市立美術館前 から見る 美術館と姫路城	
68		国登録文化財「芥田家住宅」前 から見る 旧野里街道の古いまちなみ	
69	神河町	中村・粟賀町地区の旧生野街道 から見る 農村集落の佇まいが残るまちなみ	49
70		砥峰高原の池付近 から見る 秋空と高原のススキ	
71		峰山高原リゾートの第2リフト終点付近 から見る 暁晴山とゲレンデ	
72	市川町	浅野地区の尾根筋 から見る 清流市川と市川新橋周辺の集落風景	51
73	福崎町	春日山城跡 から見る 福崎の市街地	
74		もちむぎのやかた付近の道路わき から見る 「河童のガジロウ」で有名な辻川山公園	
75	相生市	万葉の岬つばき園 から見る 瀬戸内海	52
76		遠見山公園 から見る 相生湾と造船所	
77	たつの市	たつの市指定文化財「小林 實 家住宅土蔵」前 から見る 下川原商店街の古いまちなみ	53
78		龍野城しろ坂前 から見る 龍野城の隅櫓	
79		新舞子海水浴場付近 から見る 新舞子の干潟	
80	赤穂市	室津漁港付近の道路わき から見る 潮待ち・風待ちの港室津漁港	54
81		旧坂越浦会所付近 から見る 北前船寄港地・坂越のまちなみ	
82		茶臼山城跡 から見る 生島と坂越浦	55

No.	市町名	<ビューポイント> から見る <見える景観>	頁
83	赤穂市	JR 播州赤穂駅前のお城通り から見る 城下町を思わせるまちなみ	56
84	宍粟市	県景観形成重要建造物「本家門前屋」前 から見る 酒蔵通りのまちなみ	
85	太子町	<small>いかるがでら</small> 斑鳩寺東門付近 から見る 聖徳太子ゆかりの斑鳩寺と「富の小川」	57
86	上郡町	星の広場 から見る 播磨科学公園都市の建築群	
87	佐用町	平福の天神橋 から見る 宿場町平福の川端風景	58
88		西はりま天文台南館付近 から見る 満天の星空	
89		西はりま天文台北館付近 から見る 雲海に浮かぶ <small>りかん</small> 利神城跡	59
90		<small>おつおおきだに</small> 乙大木谷倶楽部(公民館)前の展望広場 から見る 乙大木谷の棚田	60
91		<small>たわ</small> 田和地区の農道 から見る 田和の棚田	
92		<small>めたか</small> 目高集落手前の道路わき から見る 急傾斜地に張り付く目高集落	

<b>42</b>	<b>JR 明石駅のホーム</b>	<b>所在地</b>	明石市大明石町
		<b>位置情報</b>	北緯 34度 38分 56.5秒 東経 134度 59分 33.8秒
<b>見える景観</b>	<b>明石城</b>		

**■ ビューポイント <VIEW POINT>**

ビューポイントは、JR 明石駅の3・4番ホームの西よりのところ。なお、ホームに入るには、入場料が必要です。

**■ 見える景観 <VIEW>**

明石城は元和5年(1619)に初代明石藩主小笠原忠政(後の忠真)によって築かれた城です。右側(東側)に見える三重櫓は巽櫓(たつみやぐら)、左側(西側)に見える三重櫓は坤櫓(ひつじさるやぐら)です。これら2つの櫓は、昭和32年(1957)に国指定文化財になっており、日本に12基しか現存していない貴重な三重櫓です。

巽櫓については、船上城(明石市)から移築されたと伝わっています。しかし、寛永5年(1628)または寛永8年(1631)のいずれかの年に焼失されたとされ、その後再建されました。巽櫓は、重さ240tもあり、各階の高さは3m弱となっています。

一方、坤櫓については、城内最大規模の三重櫓であり、伏見城から移築されたと伝わっています。明石城は天守が築かれなかったため、天守代用として使われました。坤櫓は、巽櫓よりひと回り大きく、重さ340t、各階の高さは3m強となっています。内部には、伏見城の部材と思われる木目のそろった松材が多く使われています。

明石城の石垣は、東西の幅が380m、三の丸から高さ約20mの規模を誇ります。幕府が当初築いた部分は主に花崗岩、明石藩が後に補強修復した部分は主に凝灰岩が使われており、石垣の時期差を見ることができます。櫓台の出角部分はノミで稜線を尖らせる「江戸切」という手法が多く用いられ、石垣全体の美しさが際立っています。調査によると、石垣には、1,445個・86種類の刻印が見つかっており、明石城の工事を請け負った町人が使った符号であると考えられています。

この石垣は阪神・淡路大震災によって全体の19%に被害を受けましたが、姫路城や大阪城の石垣を修復した経験のある職人の手により見事に修復されました。なお、櫓下の石垣修復には、国内の城郭建築では、初となる曳家(ひきや)工法が用いられました。



<b>43</b>	<b>大蔵海岸の遊歩道</b>	<b>所在地</b>	明石市大蔵海岸通
		<b>位置情報</b>	北緯 34度 38分 35.4秒 東経 135度 00分 18.6秒
<b>見える景観</b>	<b>大蔵海岸と明石海峡大橋</b>		

**ビューポイント <VIEW POINT>**

大蔵海岸の遊歩道は、山陽電鉄大蔵谷駅から南に徒歩約10分のところにある大蔵海岸の「海とのふれあいゾーン」に位置しています。

「海とのふれあいゾーン」は、潮の流れ、照り返る日差し、魚、水鳥など、四季折々にありのままの海と直接ふれあえる空間です。そして、磯遊びができる磯浜や海を眺めながら語らえる緩やかな傾斜を持つ護岸、気軽に散策ができる緑豊かな遊歩道とヨットの帆をイメージした休憩施設などがあります。

大蔵海岸は、平成4年(1992)から平成10年(1998)にかけて、災害から地域を守るための海岸保全機能の向上や地域環境の向上、活性化を目的としたCCZ(Coastal Community Zone)整備事業により整備したものです。海水浴場の他にもバーベキュー施設なども整備され、様々な用途で楽しむことができます。



**見える景観 <VIEW>**

大蔵海岸の遊歩道からは、大蔵海岸の磯浜と明石海峡大橋を見ることができます。磯浜は、大小の自然石や玉砂利を敷並べた、人工の干潟、磯場で、水生生物の自然観察などが楽しめます。

また、明石海峡大橋は、主塔と主塔間の距離が約2kmもあり、日本を代表する吊橋です。明石海峡大橋の景観設計テーマは、「信頼性」、「未来性」、「光と影」で、主塔は都市化した架橋地点周辺の景観に調和するようなグリーングレイ色、他は瀬戸内海の風光に調和するようなライトグレイ色にしています。夜間には、赤・緑・青の電球3個を1組として、各々の光の強弱によって様々な色を作ることができるランプを使用したライトアップも行っています。平日の4パターン、休日のパターン、毎正時、毎30分時では時報代わりに虹色に変えるなど、様々なパターンがあります。



44	えいがしま 江井島海岸の遊歩道	所在地	明石市大久保町江井島
		位置情報	北緯 34度40分31.7秒 東経 134度54分54.1秒

見える景観	ヤシの木と明石海峡
-------	-----------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

江井島海岸の遊歩道は、山陽電鉄江井ヶ島駅から南へ徒歩約10分のところ、県道380号沿いにあります。同海岸には、遊歩道の付近にパーゴラやトイレ、駐車場などがある江井島海岸休憩施設が整備されています。

**見える景観 <VIEW>**

ヤシの木が立ち並ぶトロピカルムード満点の江井島海岸や瀬戸内海の向こうには、明石海峡大橋や淡路島を一望することができます。

江井島海岸から東へ林崎海岸までの明石西部工区は、度重なる台風被害により、昭和30年(1955)頃に海岸線が著しく浸食されました。しかし、昭和37年度に護岸工事に着手し、護岸は昭和49年度に完成しました。昭和57年度以降は、養浜を行い、昭和61年(1986)には、林崎海岸付近の松江地区にウミガメが産卵するまでに回復しました。

現在の江井島海岸は、養浜により再生した砂浜と、波も穏やかな遠浅の海が特徴的であり、多くの人が夏に訪れます。また、写真撮影スポットとしても人気があります。

**関連情報 <INFORMATION>**

江井島海岸の西側には、江井ヶ島漁港があります。この漁港は、奈良時代に行基(ぎょうき)が築港した摂播五泊(せっぱんごはく)の1つである魚住の泊付近であると推定されており、そのモニュメントが建っています。古くから重要な港であり、平安時代に三善清行(みやしきよゆき)が醍醐天皇に提出した「意見封事十二箇条」にも、この漁港の重要性を訴え、修築を説く記述があります。

明石川西岸から江井島海岸まで、海岸に沿って「浜の散歩道」があります。車が通らないので、ジョギングやサイクリングにも最適で、明石海峡と淡路島を望みながら、漁港や観光スポットを巡ることができます。

ビューポイント・見える景観 <VIEW POINT・VIEW>



浜の散歩道



45	やぐら 明石城「櫓の間」にある展望台	所在地	明石市明石公園
		位置情報	北緯 34度39分08.0秒 東経 134度59分31.1秒

見える景観	櫓と明石駅南の再開発ビル群
-------	---------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

明石城の翼櫓(たつみやぐら)と坤櫓(ひつじさるやぐら)の間にある展望台は、JR・山陽電鉄明石駅から北側に徒歩約10分、本丸の上にあります。展望台へはスロープで上がることができ、バリアフリーとなっています。

**見える景観 <VIEW>**

展望台から南東側を望むと、翼櫓の向こう側に明石公園の緑豊かな木々や明石駅南側の中心市街地、さらに遠くに明石海峡大橋、天気良ければ小豆島(しょうじま)を見ることができます。

明石公園は、明石城跡を中心につくられた都市公園です。園内には城跡や武蔵の庭園だけでなく、野球場や芝生広場などスポーツをする場所もあります。平成元年(1989)には「日本の都市公園100選」に、平成2年(1990)には「全国さくら名所100選」に、平成18年(2006)には「歴史公園100選」に選ばれています。

明石駅南側は、市内外へのバス停や臨海部の東西方向の幹線道路(国道2号)があり、市内随一の交通の要衝であるとともに、市内最大の商業集積地です。平成23年度~28年度にかけて、明石駅前南地区市街地再開発組合により、市街地再開発事業が行われました。事業目的は、地区内の防災機能の向上や持続的な賑わいの創出、周辺地区への回遊性の向上です。再開発により、住民の来街頻度が増加し、まちなみがきれいになったことに対し高評価が得られました。

**関連情報 <INFORMATION>**

明石城は、武家屋敷地を外堀で取り囲み、町屋と明確に区分した「郭内専士型」と呼ばれる近世城下町の特徴をもっています。外堀の南に東西の街道を通し、街道に沿って町屋が設けられました。築城後もまもなく、南の海岸に港が築かれ、陸上交通と海上交通の接点としての物流を生み、東西に長い町屋として栄えました。

ビューポイント <VIEW POINT>



見える景観 <VIEW>



<b>46</b>	<small>かくりんじ</small> <b>鶴林寺仁王門前</b>	<b>所在地</b>	加古川市加古川町北在家
		<b>位置情報</b>	北緯 34度45分05.6秒 東経 134度49分56.9秒

<b>見える景観</b>	鶴林寺仁王門と三重塔
--------------	------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

鶴林寺仁王門は、山陽電鉄尾上の松駅から北東方向に徒歩約15分のところにあります。

鶴林寺は「刀田山(とたさん)」の山号を持つ天台宗の寺院で、市を代表する観光スポットの1つです。鶴林寺聖霊院縁起によれば、高句麗(こうくり)の僧 恵便(えべん)がこの地に隠遁していましたが、後に聖徳太子が恵便を訪ねて教えを受け、三間四面の精舎を建立し「四天王寺聖霊院」と名付けたのが鶴林寺の始まりとされています。

平安時代、鳥羽天皇から勅額(ちよくがく)をいただき、寺号を「刀田山鶴林寺」と改め、太子信仰の最盛期であった室町時代には、寺領2万5千石、寺坊3百坊、衛士百余人、数十人の楽人が常に舞楽を奏していたといわれています。

庶民に親しまれた鶴林寺は「播磨の法隆寺」と呼ばれ、平安時代の壁画が見つかった県下最古の木造建築物である国宝「太子堂」や、泥棒が盗み出し壊そうとしたら「アイタタ」という声が聞こえてきたため改心したと伝えられている「金銅聖観音立像(通称:あいたた観音さま)」など、多くの文化財とともに現在へ歴史を伝えています。



ビューポイント <VIEW POINT>

**見える景観 <VIEW>**

平安時代建立の国宝「太子堂」、室町時代建立の国宝「本堂」をはじめ、国指定文化財の「常行堂」、「鐘楼」、「護摩堂」、「行者堂」、そして県指定文化財の「仁王門」、「三重塔」などが建ち並んでいます。寺域の豊かな緑は都市公園として風致公園に指定されており、市を代表する歴史的空間を形成しています。



見える景観 <VIEW>

**関連情報 <INFORMATION>**

1月には旧年中の悪い行いを正し、その年の吉祥を祈る法要である鶴林寺修正会(鬼追い)が行われ、3月には3日間にわたって行われる鶴林寺最大の法会である聖徳太子会が行われます。また、7月には七夕まつり、10月頃には旧暦の「十三夜」に行われる月見の会である十三夜観月会があります。

<b>47</b>	<small>たかみくらやま</small> <b>高御位山山頂</b>	<b>所在地</b>	加古川市志方町成井
		<b>位置情報</b>	北緯 34度48分46.8秒 東経 134度47分35.6秒

<b>見える景観</b>	加古川・高砂の両市に跨がる市街地
--------------	------------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

高御位山山頂までは、加古川市成井登山口から徒歩約40分であり、その登山路は初心者向けのコースとなっています。

高御位山は、「兵庫県観光100選」の1つで、加古川市と高砂市の市境に位置しており、標高が304mもあることから、「播磨富士」と呼ばれています。さらに、竜山(たつやま)石が露出している山容と山頂からの眺めの良さから、「播磨アルプス」とも呼ばれています。

山頂には、高御位神社や飛翔の碑があります。飛翔の碑は大正10年(1921)、手造りのグライダーで関西初飛行を成し遂げた渡辺信二をたたえるモニュメントです。

高御位神社は、旧印南(いんなみ)郡では最古最高の神社といわれており、古くから山全体を御神体として崇めてきた山岳信仰の名残があります。神社には、「高御位山古代祭祀遺跡のご案内」の解説板が掲げられており、「高御位山は、古代より山岳崇拜の聖地として、播磨一円の厚い信仰を集め、山上の巨岩は神霊の宿る場所として、長い歴史の流れの中で、人々は、報恩反始の心もて、その山容を、仰ぎつつ、今日に至っている。」と書かれています。また、高御位大神御降臨之座址、古代祭祀遺跡址、みそぎ跡、盃穴址、御水址などの山岳信仰の名称について、説明がなされています。

4月と7月には、高御位神社で祭りが行われます。さらに、山の中腹にはキキョウやササユリなど季節の花が咲いており、山道も楽しむことができます。



ビューポイント <VIEW POINT>

**見える景観 <VIEW>**

頂上付近は岩場になっており、そこからの見晴らしは抜群で、書写山、家島諸島、四国、淡路島、明石海峡大橋に加え、眼下には加古川と高砂の風景が広がっています。



見える景観 <VIEW>

48	くにかね <b>国包の鉄橋わきの加古川左岸</b>	所在地	加古川市上荘町国包
		位置情報	北緯 34度47分51.9秒 東経 134度54分34.0秒

見える景観	国包の鉄橋と加古川
-------	-----------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

国包の鉄橋は、JR 厄神(やくじん)駅から北東方向に徒歩約5分のところ、加古川左岸(川の東側)を通る県道18号である加古川小野線沿いにあります。付近にある国包の地蔵尊が目印です。

**見える景観 <VIEW>**

国包の鉄橋は、JR 厄神駅から市場駅の区間にある加古川に架かる鉄道橋です。鉄橋の正式名称は「JR 西日本加古川線第2加古川橋梁」ですが、「厄神鉄橋」とも呼ばれています。中央のトラス部分は大正2年(1913)に竣工、桁部分は明治38年(1905)に製造され、播州鉄道が開通した時に架けられた歴史ある鉄橋です。中央部の橋梁は、昭和61年(1986)の豪雨被害後に架け替えられました。ガーター部には「S.K.T 山陽鉄道鷹取工場製造」の銘板が残っています。

加古川は、流路延長が96km、流域面積が1,730km<sup>2</sup>で、11市3町を潤して播磨灘に注ぎ込む一級河川です。加古川流域内には、「瀬戸内海国立公園」をはじめ6つの県立自然公園が指定され、豊かな自然環境に恵まれています。他にも、中流の加東市では「闘竜灘」と呼ばれる特異な河川景観に、上流の丹波篠山市では武家屋敷等の城下町の文化的風情に、下流の加古川市には聖徳太子ゆかりの国宝「鶴林寺本堂」など文化的・歴史的資源に恵まれています。

**関連情報 <INFORMATION>**

国包の鉄橋より下流側に、加古川大堰があります。大堰は長さ422.5mで、加古川の左岸八幡町から右岸上荘町に渡っています。治水と水需要に対処するため、9年の歳月を経て平成元年(1989)に完成しました。

大堰を挟んだ両岸には、階段状に水が流れる水路があります。これは魚が堰の上下を行き来できるように設置された「魚道」と呼ばれるもので、春から初夏にかけて、稚アユが遡上する姿を見ることができます。



49	くらくまつ えもん <b>工楽松右衛門旧宅前</b>	所在地	高砂市高砂町今津町
		位置情報	北緯 34度44分43.1秒 東経 134度48分11.3秒

見える景観	海運で栄えた港町のまちなみ
-------	---------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

工楽松右衛門旧宅は、江戸時代に海運業や港湾改修などを行った工楽松右衛門の住居で、山陽電鉄高砂駅から南に徒歩15分のところにあります。

主屋は本瓦葺き木造2階建ての江戸時代後期の建物です。旧宅が、土地・建物ともに工楽家から高砂市に寄贈された平成28年(2016)時は、200年近い経年により相当な傷みがありましたが、その後、当初の建築様式に復元されました。復元後の平成31年(2019)には県指定史跡になっています。

初代工楽松右衛門は寛保3年(1743)に高砂町東宮町に生まれ、若くして船乗りになり、御影屋を名乗って海運業で成功を収めました。その後、帆布(はんぷ：船の帆)に大改良を加えて船の性能を飛躍的に高めたため、「松右衛門帆(まつえもんぼ)」として全国に普及しました。2代目以降も、地元高砂の港を改修し新田を開発するなど、初代の遺志を継いでいます。また、工楽家は、近代に入って砂糖の間屋を営みながら、棟方志功や永田耕衣などの文化人とも交流し、居宅は文化サロンの場ともなっていました。

現在、工楽松右衛門旧宅は無料で公開されており、店舗や蔵のあった間取り、昔の生活の痕跡をそのまま見ることができます。また、昭和中期～後期の高砂市各所の懐かしい写真が展示されており、ノスタルジーに浸ることができます。

**見える景観 <VIEW>**

工楽松右衛門旧宅周辺の高砂地区は、海運で栄えた歴史的なまちなみが多く残ることから、県景観条例に基づく「景観形成地区」に指定されています。高砂地区は、慶長5年(1600)に姫路城主となった池田輝政が町割りを行い、本多忠政の時に基礎がつけられた由緒ある計画都市です。近代以降は臨海部に工場が立地する産業都市へと変化したものの、町割りの骨格は失われていません。まちなみの1つとして、工楽松右衛門旧宅とともに日本遺産に認定された南堀川船着き場の遺構があり、堀川護岸の石垣や舟から荷物を揚げ降ろしする石階段などがあります。





50	うめがえゆ 梅ヶ枝湯前	所在地	高砂市高砂町次郎助町
		位置情報	北緯 34度44分54.4秒 東経 134度48分03.6秒

**見える景観** 昭和を感じるレトロなまちなみ

**ビューポイント <VIEW POINT>**

梅ヶ枝湯は、山陽電鉄高砂駅から南に徒歩10分のところにある歴史的な銭湯で、現役の公衆浴場です。裏側(西側)から見ると木造の建物ですが、正面(東側)から見るとモルタル仕上げの建物となっていることが特徴です。

**見える景観 <VIEW>**

梅ヶ枝湯周辺では、歴史を感じるレトロなまちなみを見ることができます。周辺は、謡曲「高砂」のゆかりの地として、また「相生の松」(高砂神社内にある2本の松)をはじめ白砂青松(はくしゃせいしょう)の地として知られており、水運で栄えた港町として発展してきました。そして明治以降、近代化の波の中で周辺に工場が立地し、住宅地が形成されました。港町を感じさせるような歴史的建築物が残る中で、明治以降の近代化を象徴する建物も残っています。そのため、平成18年(2006)に景観条例に基づく「景観形成地区」に指定されています。

**関連情報 <INFORMATION>**

梅ヶ枝湯から南に進んでいくとレトロな高砂銀座商店街があります。入り口の木造2階建てのスクラッチタイル風の建物は、「高砂通運旧本社屋」で、平成29年(2017)に景観条例に基づく「景観形成重要建造物」に指定されています。時代の流れの影響を受けた、高砂町の近代化を象徴している重要な建物です。昭和14年(1939)に、神戸や大阪の商船三井築港ビルや加藤海運ビルなどの建物を参考に建築されました。高砂通運の本社として約30年にわたり利用され、その後、昭和46年(1971)の本社移転後からは、倉庫として使用されていました。平成26年度に地域活性化に向けた活用のため、復元などの改修工事が行われ、現在は1階が飲食店、2階が高砂町歴史資料館となっています。

ビューポイント・見える景観 <VIEW POINT・VIEW>



高砂通運旧本社屋



51	ほうでんやま 宝殿山山頂	所在地	高砂市阿弥陀町生石
		位置情報	北緯 34度46分58.2秒 東経 134度47分40.5秒

**見える景観** 伊保港沖に浮かぶ「ほうらく島」

**ビューポイント <VIEW POINT>**

ビューポイントは、JR宝殿駅から西に徒歩約25分、約2kmのところにある宝殿山の山頂です。宝殿山の中腹にある生石(おうしこ)神社の拝殿の中にある石段を登っていくと、山頂には、「大正天皇行幸(ぎょうこう)之跡」の石碑が建っており、目印となっています。

宝殿山は、標高65mで高砂市のほぼ中央に位置しており、山腹には、「石の宝殿」という一辺5mを超える巨大な石造物があります。石の宝殿は生石神社のご神体で、水に浮かんだように見えることから「浮き石」とも呼ばれています。高砂市初の国指定史跡となっています。

**見える景観 <VIEW>**

南側には、眼下に高砂市の市街地や臨海工業地帯、伊保港沖に浮かぶ上島(かみしま)が見えます。海岸沿いの臨海工業地帯は、大阪や神戸などの大都市に近いことや豊富な用水があること、埋め立てしやすい遠浅の海岸であることなど企業の立地条件が揃っているため、機械・製紙・化学・食品・電力などの大工場が進出しており、播磨臨海工業地帯の中核となっています。上島は、大小40余りの島々から構成される家島諸島の東端に位置し、「ほうらく島」と呼ばれています。また、北側には高御位山(ビューポイントNo.47)を見ることができ、360度のパノラマ景観を楽しむことができます。

**関連情報 <INFORMATION>**

石の宝殿周辺の山々は、「竜山(たつやま)石」の採石場として利用されていました。時代ごとに必要性や採石技術、運搬する交通手段などが変化し、利用状況は一様ではありませんが、古代から現代まで継続する採石場として全国的に珍しい場所となっています。



ビューポイント <VIEW POINT>



見える景観 <VIEW>



撮影：井上 晴喜

52	加古大池の遊歩道	所在地	稲美町加古
		位置情報	北緯 34度46分01.8秒 東経 134度55分21.3秒

見える景観	加古大池
-------	------

### ビューポイント <VIEW POINT>

加古大池の遊歩道は、JR 土山駅からバスで 25 分程度の神姫バス「上新田北口」から東に徒歩約 5 分のところにあります。この遊歩道は、加古大池の堤防を利活用し、整備されたものです。池の中には広場や水生植物園などの親水施設が設けられ、「加古大池公園」として利用されています。

水生植物園では、水生植物を保全しており、観察壁からは飛来する 88 種以上の野鳥を観察することができます。また、加古大池では、ウィンドサーフィンなどを楽しむことができます。

### 見える景観 <VIEW>

加古大池は、面積 49ha(甲子園球場 12 個分)、貯水量 130 万 m<sup>3</sup>もある県内最大の農業用ため池です。加古大池により灌漑される農地は、295ha となっています。加古大池の歴史は、新田開発とともに始まり、江戸時代初期の万治 3 年(1660)に造られたといわれています。昭和 24 年(1949)に池の改修が行われ、5 つのため池が統合され現在の形となりました。

加古大池の周辺は、「印南野(いなみの)大地」という東西 20 km、南北 15 km の広い段丘台地になっています。そのため、古くから利水の便が悪く、農業用水を確保する必要があり、ため池が多く造られました。東播磨地域には、県下で最大規模を誇る加古大池をはじめ、現在も多くのため池が残されており、これらのため池群は血管のように張りめぐらされた水路網によって結ばれています。

稲美のため池群は、「水(ため池や用水路)を中心とする生活空間」として文化的景観 180 か所の 1 つとなっています。ため池の恩恵を受けて開かれてきた農地や農村集落、地域の歴史や文化、それを伝える寺社や祭り、ため池周辺の豊かな自然環境などが特徴です。

また、毎年 8 月には「いなみ大池まつり」が行われ、花火が打ち上げられます。



53	おおなか 大中遺跡公園	所在地	播磨町大中
		位置情報	北緯 34度43分39.4秒 東経 134度52分36.7秒

見える景観	緑の中に建つ古代建造物群
-------	--------------

### ビューポイント <VIEW POINT>

大中遺跡公園は、JR 土山駅から「であいのみち」を通り、徒歩約 15 分のところにあります。

大中遺跡公園は、「播磨町古代の村」とも呼ばれており、歴史学習や県民の憩いの場として活用するために、昭和 49 年(1974)に一部開園し、10 数年の歳月をかけて史跡公園として整備されました。

公園内には「播磨町郷土資料館」や「県立考古博物館」があり、竪穴住居 11 棟をはじめ弥生時代の植生も復元されています。「播磨町郷土資料館」には、弥生語が唯一聞けるコーナーがあり、その他にも郷土の偉人「新聞の父 ジョセフ・ヒコ」、廃線となった別府鉄道の資料が展示されています。また、「県立考古博物館」では、大迫力のジオラマや実物大の復元品で古代人の暮らしを紹介しており、発掘体験や古代体験などを楽しむことができます。

### 見える景観 <VIEW>

大中遺跡は、長さ 500m、幅 180m、面積 70,000 m<sup>2</sup>、甲子園球場 5 個分の広さとなっています。昭和 37 年(1962)に播磨中学校の生徒によって発見され、約 10 年の年月をかけて発掘調査が行われました。この調査により、弥生時代後期を中心とした時代の集落遺跡であること、この遺跡が最も栄えた時代が卑弥呼が活躍した邪馬台国の時代にあたることが判りました。円形や方形、長方形、六角形など様々な形をした竪穴住居等の遺構や、中国から入手した青銅の鏡等が出土しており、重要な遺跡として昭和 42 年(1967)に国指定史跡になり、高く評価されています。

### 関連情報 <INFORMATION>

「であいのみち」は、別府鉄道の線路跡を緑道として整備したもので、歴史との「であい」をテーマにしたタイムトンネルゲートや説明板が設置されており、現在から弥生時代までの時間旅行を楽しむことができます。



<b>54</b>	<b>やはずやま 矢筈山山頂</b>	<b>所在地</b>	西脇市高田井町
		<b>位置情報</b>	北緯 34度59分26.8秒 東経 134度57分03.0秒

<b>見える景観</b>	六甲・西脇・丹波の山並みと雲海
--------------	-----------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

矢筈山の東側にある高田井町(こうだいちょう)登山口までは、神姫バス「西脇」から徒歩 20 分程度です。登山口の案内板を通り過ぎバリアフリー散策路を進むと、「ふれあいロード」に続きます。「ふれあいロード」から山頂までは、「どんぐりロード」と「登山ロード」に分かれており、どちらかの登山道を登っていきます。「どんぐりロード」は緩やかな遊歩道であり、体力に自信のない方におすすめです。一方、「登山ロード」は、傾斜が厳しい登山道となっています。これらの登山道は平成 19 年(2007)に整備されており、登山口から約 1 時間で山頂まで登ることができます。

矢筈山は、標高 363m のおにぎり山のような播州ならではの里山で、山頂には、古い山城の跡があります。「矢筈山の歴史」の解説板があり、「今は土に埋もれたり木や草が生い茂ってその形はあまりわかりませんが、3つの頂上にまたがって 250m もの長さに渡って築かれています。造り方の特徴から、南北朝時代に築かれたものを戦国時代により大きくしたと考えられ、山の両側を支配できるような人物に関係した城と考えられています。」と書かれています。

**見える景観 <VIEW>**

眼下には、西脇市街地の眺望が楽しめ、天気が良ければ、六甲・西脇・丹波の山並みや遠くに明石海峡大橋、淡路島まで見渡すことができます。また、秋から冬にかけて、雲海が広がる光景を見ることができ、元旦には、この景色を見るために、地域の多くの方が登山されています。



ビューポイント <VIEW POINT>



見える景観 <VIEW>

撮影：矢筈山の会

<b>55</b>	<b>播州織工房館前</b>	<b>所在地</b>	西脇市西脇
		<b>位置情報</b>	北緯 34度59分11.4秒 東経 134度58分24.7秒

<b>見える景観</b>	のこぎり屋根が特徴的なまちなみ
--------------	-----------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

播州織工房館は、JR 新西脇市駅から北に県道 54 号まで 15 分程度歩き、播州織工房館の看板がある細い路地を北に 10m 程進んだところにあります。

播州織は、約 200 年以上前から、西脇市を中心に周辺地域の基幹産業として栄えてきました。その黄金期は輸出産業として栄えた大正時代と、戦後の昭和 30 年代といわれています。近年、糸を先に染めた綿糸で柄を織る「先染織物」である点が特徴である播州織の生産場が減り、厳しい状況下にあるため、のこぎり屋根の織物工場の多くが廃業により除却され、倉庫や駐車場に転用されてしまいました。

そうした中、地元のみちづくり団体「西脇 TMO」が、播州織の PR と中心市街地活性化を目的として、築 90 年ほどの元織物工場を改修し、平成 19 年(2007)に播州織工房館をオープンしました。館内は 7 つのブースとステージ、中央展示エリアに分かれており、播州織の歴史を紹介しながら作品の展示や販売を行うほか、播州織を用いたファッションショーやコンサートなど多彩なイベントを展開しています。

**見える景観 <VIEW>**

西脇市内では、のこぎり屋根が特徴的な家屋を様々な場所で見ることができます。のこぎり屋根は、織物や染色関係の産地に多く見られ、織物の点検に必要な自然光を取り入れるために、このような設計となっています。他にも、加古川市に現存する日本毛織(通称：ニッケ)の加古川工場も同じのこぎり屋根の形状を有しています。

また、のこぎり屋根だけでなく、焼板を巡らせた外壁や木の格子窓も特徴的です。

**関連情報 <INFORMATION>**

播州織工房館付近には、年間 2 万人近くの観光客が訪れる旧来住家(きゅうきしけ)住宅があります。来住家は代々大地主を務めた旧家で、この建物は銀行を興すなど経済人でもあった来住梅吉が大正 7 年(1918)に建てたもので、市が平成 13 年(2001)に寄付を受け、翌年に国登録文化財となり、一般公開されています。



ビューポイント・見える景観 <VIEW POINT・VIEW>



旧来住家住宅

56	ひえやま 比延山の三角点・大岩壁	所在地	西脇市比延町
		位置情報	北緯 34度59分30.0秒 東経 135度00分44.6秒
見える景観	野村・西脇城跡を含む市街地		
<p><b>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</b></p> <p>JR 比延駅から25分程度歩くと登山口のある城山公園があります。その途中の荒神社境内には、大きなムクノキがあります。樹高26m、胸高周囲6.5mの大木で、県下第4位の大きさで、県指定天然記念物になっています。</p> <p>登山口から登っていくと、徐々に傾斜は急になり、最後の200mはロープ伝いの急な登り坂になります。山頂には、南北朝時代から室町時代に尾根筋の地形を利用して築かれた比延山城跡があります。頂上からさらに北に行くと、三角点があります。そこには休憩用のベンチが設置されており、その西側には大岩壁があります。</p> <p>比延山の名は、「播磨国風土記」によると応神天皇が狩りの際に鹿が「比々(ひひ)」と鳴いたことを哀れに思い、狩りを中止したことから「比也(ひや)山」と名付けられたことに由来します。</p>		<p>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</p> 	
<p><b>見える景観 &lt;VIEW&gt;</b></p> <p>三角点からの眺望は良く、眼下には、加古川が流れ、川沿いに田園風景が広がり、西脇市街地の雄大な眺望が楽しめます。秋から冬にかけては雲海が広がる素晴らしい光景を見ることが出来ます。</p> <p>西脇市の市街地の中に西脇城跡や野村城跡があります。西脇城は、古地図の復元から約100m四方を堀と土塁で囲った「方形居館(ほうけいきょかん)」と呼ばれる城で、「史蹟西脇城跡」と彫られた石柱がある廟所の西にありました。</p>		<p>見える景観 &lt;VIEW&gt;</p> 	
<p><b>関連情報 &lt;INFORMATION&gt;</b></p> <p>比延山を下山すると、北西方向には、日本列島の中心「日本へそ公園」があります。公園内には地球・宇宙をテーマにした「にしわか経緯度地球科学館(テラ・ドーム)」や「岡之山美術館」などがあり、豊かな自然に囲まれながらゆったりと過ごすことができます。</p>			

57	芝町公民館付近	所在地	三木市芝町
		位置情報	北緯 34度48分04.1秒 東経 134度59分28.3秒
見える景観	旧湯の山街道の古いまちなみ		
<p><b>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</b></p> <p>芝町公民館は、三木地区の歴史街道のひとつである旧湯の山街道と県道20号の交わる東側に位置しており、ビューポイントは、交差点の西側すぐのところにあります。旧湯の山街道を挟んで芝町公民館の向かい側には、稲見酒造があります。稲見酒造は、平成23年(2011)に県景観条例に基づく「景観形成重要建造物」に指定されました。明治22年(1889)に創業し、「葵鶴(あおいづる)」の銘柄で知られる酒造会社として現在も操業しています。毎年行われる「三木湯の山街道ウォーク」において、山田錦で作った地酒の試飲ができる場所として、イベントの拠点となっています。</p>		<p>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</p> 	
<p><b>見える景観 &lt;VIEW&gt;</b></p> <p>芝町公民館からは、旧湯の山街道の歴史的なまちなみ景観を見ることが出来ます。主に切妻平入りで下屋のついた町家がこの景観を構成し、町家の中でも、時代や業種により、2階の階高にばらつきがあります。外壁は漆喰壁や土壁が多く、一部に板張りがあるなど、伝統的な意匠と自然系の素材が、落ち着いた景観を生み出しています。また、金物のまちとして栄えた時代の町家は、伝統的な格子戸、うだつ、虫籠(むしこ)窓などが特徴です。</p> <p>旧湯の山街道沿いには、県の日本酒の銘柄である「福乃太(ふくのふとり)」と書かれたのれんのある建物があり、舟板塀が特徴的な歴史的建造物です。舟板塀とは、高瀬舟(運送用)の底板を塀の板にしたもので、江戸時代に川舟(高瀬舟)による諸物資の運搬が盛んであったという歴史があります。</p>		<p>見える景観 &lt;VIEW&gt;</p>  <p>撮影：山下 静香</p>	
<p><b>関連情報 &lt;INFORMATION&gt;</b></p> <p>旧湯の山街道は、戦国時代に羽柴秀吉が、三木の別所氏を攻めたときの作戦行動に利用し、戦傷者の治療に湯の山(有馬温泉)へ送るため整備した街道です。それ以来、「湯の山街道」と呼ばれていました。また、江戸時代には参勤交代に利用されるなど重要な街道でした。</p>			

<b>58</b>	<b>旧湯の山街道の大塚薬師堂前</b>	所在地	三木市大塚
		位置情報	北緯 34度48分02.7秒 東経 134度59分37.5秒

<b>見える景観</b>	歴史街道芝町・平山地区のまちなみ
--------------	------------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

大塚薬師堂は、三木地区の歴史街道のひとつである旧湯の山街道の中央付近に位置しており、神戸電鉄三木上の丸駅から徒歩10分程度のところにあります。薬師堂に祀られている薬師如来は、病を治してくれる仏さまとして昔から信仰を集めています。

**見える景観 <VIEW>**

芝町・平山地区のある三木地区は、中心市街地であるとともに、三木城跡を含む古くから栄えた地域です。羽柴秀吉が、三木城を攻め、別所長治を破った「三木合戦」でも知られています。また4つの街道が交わる、交通の要衝として繁栄しました。この地区の町家の奥には、作業場を有し、その奥に路地を挟んで田畑が広がるという都市構造となっています。この構造から、商店は、町家の奥に農作業スペースを持ち、農業を行っていたことが推測されます。また、金物製造販売業の場合には、この農業スペースが金物製造の鍛冶スペースとなっていたと推測されます。このような路地裏景観は、地域に住む人々の生活文化を表す文化的資源となっています。

芝町・平山地区を含む三木地区では、歴史的なまちなみを保全、育成するために平成20年(2008)に三木城下町まちづくり協議会により、「三木歴史街道まち並み景観ガイドライン」が作成され、平成27年(2015)に県が住民協定を認定しています。

**関連情報 <INFORMATION>**

芝町・平山地区のまちなみ景観の核の1つとして、県景観条例に基づく「景観形成重要建造物」である三宅徳松商店があります。

主屋は明治5年(1872)頃に建築された商家で、正面をモダンに改変していますが、離れや門、塀は当時のままの伝統的な外観を保持しています。現在も、左官鏝(ごて)や大工道具などを扱う金物問屋を営んでおり、当時のまちの繁栄の姿を現在に伝えています。



<b>59</b>	しょうぼうじやま <b>正法寺山展望広場</b>	所在地	三木市別所町正法寺
		位置情報	北緯 34度48分23.5秒 東経 134度56分07.9秒

<b>見える景観</b>	厄神鉄橋の夕焼けの景色
--------------	-------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

正法寺山展望広場は、三木市の南西側、標高315mの正法寺山山頂にあり、麓にある駐車場から延びる舗装された一本道を約20分程度歩いたところにあります。

この展望広場は、地元自治会の要望を受けた三木市が、平成29年(2017)に三木鉄道線跡地の「別所ゆめ街道」事業の一環として約3千万円を費やして整備したもので、高さ約4mの展望台やベンチなどが設置されています。眺望を確保するため、周囲の木を約2,500㎡にわたって伐採しています。

**見える景観 <VIEW>**

展望広場から西側を見ると、一級河川である加古川や加古川に架かる厄神鉄橋、高御位山(たかみくらやま)、家島などを一望できます。夕方には、加古川に映る夕日やきれいな夕焼けの景色を楽しむことができます。また、東側を見ると、三木市市街地や明石海峡大橋、淡路島を望むことができます。

西側に見える厄神鉄橋は、「国包(くにかね)の鉄橋」ともいわれ、ビューポイントNo.48「国包の鉄橋わきの加古川左岸」から間近で見えることもできます。

**関連情報 <INFORMATION>**

三木鉄道は、大正5年(1916)に開業し、翌年に厄神駅(加古川市)から三木駅(三木市)までの全線約6.6kmが開通しました。しかし、利用者の減少で平成20年(2008)に廃線となりました。

「別所ゆめ街道」事業は、廃線となった三木鉄道の沿線周辺のにぎわいを取り戻そうと、三木市により平成21年(2009)に始まりました。旧三木駅を交流施設「三木鉄道ふれあい館」に改装し、市内の線路跡約4.8kmを「別所ゆめ街道」遊歩道として整備するなど、様々な取組を行っています。



撮影：光枝 玄

60	やはしら 八柱神社付近の農道	所在地	小野市粟生町
		位置情報	北緯 34度51分18.9秒 東経 134度54分45.9秒

見える景観	水田と鎮守の森がつくる「ジブリの森」
-------	--------------------

### ビューポイント <VIEW POINT>

JR 粟生駅から東へ県道 349 号まで約 700m 歩き、さらに八柱神社付近の農道沿いに東へ 50m 進んだところがビューポイントです。

### 見える景観 <VIEW>

田園の向こうに、八柱神社を覆うように、まるでスタジオジブリ「となりのトトロ」に出てくるような鎮守の森を見ることができます。鎮守の森とは、その土地の守護神を祀った神社を取り囲む木立ち、または木立ちに囲まれた社(やしろ)域全体をいいます。「兵庫縣神社誌」によると、この鎮守の森の中心にある八柱神社は、天照大神(あまてらすおおみかみ)、太田命(おおたのみこと)、瓊瓊杵尊(ににぎのみこと)、猿田彦命(さるたひこのみこと)、住吉大神(すみよしのおおかみ)、龍神、諏訪龍神、素戔嗚尊(すさのおのみこと)の 8 つの祭神を祀るお社とのことです。

「鎮守の森」の著者である上田篤によると、鎮守の森は、昭和になってから使われた新しい言葉で、古くは「鎮守の杜(もり)」という漢字が充てられていました。「杜」と、とりわけ「樹木の茂った神社などの神聖な霊域」の意味に用います。「神社」というと、社殿のような建物を想像しがちですが、古い神社は「社(やしろ)=屋代(やしろ)」という言葉が示すように、「神の降臨の場」あるいは「そのときに建てられる社殿の敷地」を意味していたとのことです。

また、鎮守の森とトトロについて学術的な意見を述べている学識者もいます。東京大学こころの未来研究センターの鎌田東二教授はその評論「鎮守の森から見たトトロ論」の中で、「宮崎駿はトトロを、楠木の洞(鎮守の森)を住処とする単なる森の動物ではなく、神性を持った不思議な存在“カミ”として描いている。民俗学者の南方熊楠は、神社の森、すなわち「鎮守の森」には日本人の心を清らかにし誇りを持たせる「カミ」がいるとして、明治政府が進めた“神社合祀”(地域に散在する多くの神社を一町村一社に統合)に反対したが、それは宮崎駿の作品の思想性に深く通じている。」と書いています。



撮影：五百蔵 二郎

61	国登録文化財「水田家住宅」付近	所在地	加西市北条町横尾
		位置情報	北緯 34度55分59.6秒 東経 134度50分15.2秒

見える景観	旧丹波街道の古いまちなみ
-------	--------------

### ビューポイント <VIEW POINT>

国登録文化財「水田家住宅」は、北条鉄道北条町駅から北東方向に徒歩約 10 分のところにあります。

水田家は、明治 38 年(1905)より「かぎまん」の屋号で荒物の卸問屋を営み、ホウキやミノ、カサなどの地元の産物を姫路や淡路に出荷していました。

水田家住宅の主屋は、大正 11 年(1922)に建築され、平成 5 年(1993)まで荒物の卸問屋兼住宅として使われていました。現在は、「横尾歴史街道 町かど亭」の名称で、カフェや旅館として活用されており、北条地区に訪れる人々への観光案内や地域の人々の憩いの場として、まちづくり活動の拠点となっています。また、県景観条例に基づく「景観形成重要建造物」に指定されています。

### 見える景観 <VIEW>

北条地区は、1,300 年以上前に建設された住吉神社や酒見寺の門前町として形成されました。江戸時代には、京都と出雲を結ぶ東西の街道(旧丹波街道・旧但馬街道)に南北の街道(旧姫路街道・旧加古川高砂街道)が交わる交通の要衝として繁栄しました。江戸期の歴史的なまちなみ景観を形成しており、現在も、虫籠(むしこ)窓や格子、袖卯建(うだつ)などの伝統的意匠をもつ歴史的建造物が点在し、その面影を感じるまちなみが残っています。平成 24 年(2012)に県景観条例に基づく「景観形成地区」に指定されています。

### 関連情報 <INFORMATION>

周辺には、国指定文化財「酒見寺」や県指定文化財「住吉神社 本殿」などがあり、寺町と門前町の景観が形成されています。

また、住吉神社の節句祭りでは東西の神輿や絢爛豪華な化粧屋台が古いまちなみを巡行する様子が有名で、屋台を納める屋台蔵が点在しています。



撮影：尾瀬 耕司

62	さいがんじ 西岸寺前	所在地	加西市北条町北条
		位置情報	北緯 34度56分03.8秒 東経 134度49分52.9秒
見える景観	寺町通りのまちなみ		
<p><b>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</b></p> <p>西岸寺は、北条鉄道北条町駅から北西方向に、旧但馬街道から細い路地を通して、徒歩10分のところにあります。</p> <p>西岸寺は、後藤又兵衛の甥が住職となった寺です。又兵衛は安土桃山時代から江戸時代初期の武将であり、黒田氏、豊臣氏の家臣でした。黒田官兵衛や豊臣秀頼に仕え、数多くの軍功を挙げ、「黒田二十四騎」の一人に数えられました。</p> <p>また、西岸寺には妖怪研究のバイオニアの井上円了のふすま文字があります。</p>		<p>ビューポイント・見える景観 &lt;VIEW POINT・VIEW&gt;</p>  <p>撮影：水田 加代子</p>	
<p><b>見える景観 &lt;VIEW&gt;</b></p> <p>西岸寺がある北条地区寺町通りでは、寺町のまちなみを見ることができます。</p> <p>北条地区は、地区の北西に立地する住吉神社や酒見寺の門前町として栄えた町であり、県景観条例に基づく「景観形成地区」に指定されています。両社寺の東側には、大信寺や西岸寺、妙典寺の社寺が集積しています。地区の南部には大年(おとし)神社があり、境内は住民の憩いの場となっています。</p> <p>住吉神社から大年神社を結ぶ街道筋は、「御旅筋(おたびすじ)」と呼ばれています。その名は、住吉神社節句祭りの神輿が御旅所に出御する時に通る道であることに因んでいます。沿道には、伝統的な町家様式の建物が点在します。</p>		<p>住吉神社</p> 	
<p><b>関連情報 &lt;INFORMATION&gt;</b></p> <p>御旅筋以外にも、北条地区からは、放射状に4つの旧街道が延びています。旧街道沿いには、伝統的な町家が多く残されており、歴史的なまちなみとなっています。</p> <p>ビューポイント No.61「国登録文化財「水田家住宅」付近」は、北条地区の旧丹波街道沿いにあり、旧家の趣のある町家が多く残っており、門前町とは違った景観を楽しむことができます。</p>			

63	うずらの ちょう 鶉野町のため池	所在地	加西市鶉野町
		位置情報	北緯 34度54分05.3秒 東経 134度51分29.0秒
見える景観	ため池越しに望む善防山 <small>ぜんぼうやま</small>		
<p><b>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</b></p> <p>ビューポイントは、県立フラワーセンターから南へ600m程のところ、西段池の西側にあるため池の北側です。</p> <p>県のため池の数は全国一多く、2万4千箇所あり、全国のため池の約15%を占めています。特に瀬戸内海に面した播磨、阪神、淡路地域に数多くあります。また、全国では農業用水の87%は河川を利用していますが、県では、46%がため池を利用しており、その重要性が分かります。</p>		<p>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</p> 	
<p><b>見える景観 &lt;VIEW&gt;</b></p> <p>善防山の標高は251mで、山頂には赤松義則の八男で赤松満祐(みつすけ)の弟である赤松則繁によって善防山城が築されましたが、嘉吉元年(1441)に起きた嘉吉の乱で山名軍に攻められ落城しました。</p> <p>また、善防山の麓には、貯水量が約21万m<sup>3</sup>の善防池があります。池の中に善防古墳と遺跡があり、遺跡からは鎌倉時代の土師器(はじき：古墳時代から奈良・平安時代まで生産された素焼きの土器)などが発見されています。</p> <p>現在、善防山から笹松山へのハイキングコースは「加西アルプス」と呼ばれ、多くの登山客が訪れています。</p>		<p>見える景観 &lt;VIEW&gt;</p>  <p>撮影：加西市地域おこし協力隊</p>	
<p><b>関連情報 &lt;INFORMATION&gt;</b></p> <p>鶉野町のため池付近には、鶉野飛行場跡があります。第二次世界大戦が悪化しはじめた頃、優秀なパイロットを養成するためにつくられた旧日本軍の飛行場跡です。当時のまま残る長さ1,200m、幅60mの滑走路跡は全国でも貴重な戦争遺跡です。また、当時の同地には、飛行機組立工場があり、戦闘機「紫電(しでん)」や「紫電改(しでんかい)」の試験飛行に使われました。今後は、現存する周辺の歴史遺産と共に平和学習の拠点として活用されます。</p>			

## 見える景観 迫力あふれる奇岩「闘竜灘」

## ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;

闘竜すくえあは、JR 滝駅から南に徒歩約5分のところにある展望広場です。町政35周年を記念して、名勝「闘竜灘」に隣接する水と緑の空間広場として、平成2年(1990)に整備され、住民の憩いの場となっています。モニュメントを中心とした立体感あふれる公園です。

## 見える景観 &lt;VIEW&gt;

闘竜灘は、加古川の河床一面に奇岩が起伏し、瀑布(高い所から白い布を垂らしたように直下する水の流れ)が随所に見られる名勝として知られています。

闘竜灘の名称は、幕末の漢詩人である梁川星巖(やながわせいがん)が川床の奇岩、巨石に渦巻く流れを巨竜に見立てて詠んだ漢詩の題から付けられました。太古の時代から川の浸食を経て残った流紋岩質角礫凝灰岩は、まさしく自然の造形で、加古川中流の景勝地として文人墨客(ぶんじんぼっかく)の来訪が絶えませんでした。正岡子規の高弟である俳人の河東碧梧桐(かわひがしへきごとう)が、激流の滝つぼに潜む鮎の姿を感じて、見えぬ詩情を詠んだ句「跳びあへず、渦巻く鮎のひねもすなる哉」は、歌碑となり、闘竜すくえあに立っています。

加古川は県下随一の大河であり、かつ日本海へ流れる由良川との「水(み)別れ」が標高101mであることから流れは緩やかです。流域は豊かな穀倉地帯であり、山の良材を筏として流し、高瀬舟の舟運(しゅううん)とともに、大正2年(1913)までの320年間、流域の経済・文化の振興に寄与してきました。その加古川舟運の歴史は二期に分けられます。

前期は文禄3年(1594)、代官生駒玄蕃(いこまげんぱ)の命で、闘竜灘から35km先の高砂港までの開削に始まり、滝野から高砂までの物資輸送を行った草創期です。

後期は、慶長9年(1604)に姫路藩主池田輝政の命で闘竜灘から丹波・本郷までの開削が行われ、舟運が可能となりました。

慶長11年(1606)には、本郷から高砂までの約50kmが貫通し、加古川の舟運はおおいに発展しました。しかし、闘竜灘は固い岩質層で川幅いっぱいが覆われているため、上流からの筏をいったん解体して闘竜灘の滝を越し、滝の下で組み直すことを強いられていました。

その後、明治元年(1868)、地元から難所解消の陳情が県になされ、明治5年(1872)に当時の師磨県が工事に着手しました。生野(いくの)銀山の技師ムースの指導でダイナマイトの使用などにより、翌年に闘竜灘の東岸に掘割水路が造られました。

これにより、舟運は発展しましたが、横浜・新橋間では既に陸(おか)蒸気が走るなど、日本は輸送革命期に入っていたことから、大正2年(1913)に高砂と西脇間に播州鉄道が開通して、舟運はその役割を終えました。

## 関連情報 &lt;INFORMATION&gt;

長年、闘竜灘で親しまれている鮎漁は独特です。鯉の滝登りのように岩場へ引き込んだ狭い「かけ樋」から落ちる流れを目指し、習性でジャンプするところを捕まえます。戦前頃までは納涼屋形船が出て、試食したり流れを楽しむ観光客で賑わっていました。

西岸には数件の料理旅館、飲食店、土産店が建ち並び、遠来の文人墨客らが四季を問わず訪れたといいます。

現在は、毎年5月1日に全国で最も早く鮎漁が解禁となり、鮎を飛ばせて穴に落とし込む鮎漁は闘竜灘の初夏の風物詩でもあります。ゴールデンウィーク中の5月3日には「花まつり・鮎まつり」が催され、鮎にちなんだイベントや花火大会が繰り広げられます。

ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;



ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;



見える景観 &lt;VIEW&gt;





65	いさりがみ 岩座神公会堂付近	所在地	多可町加美区岩座神
		位置情報	北緯 35度07分33.2秒 東経 134度53分15.3秒

**見える景観** 反りが美しい棚田の石積みと集落風景

**ビューポイント <VIEW POINT>**

岩座神公会堂は、中国自動車道滝野社ICから北西方向に車で約1時間、千ヶ峰の南麓、杉原川の支流多田川の最上流域に位置しています。公会堂は、岩座神地区棚田推進協議会の拠点となっており、棚田の保全のための活動を行っています。

千ヶ峰は「仙ヶ峰」とも書き、「神おわす」との山岳信仰により「いわすわりかみ山」と呼ばれ、後に「いさりがみ」に変化したといわれています。

**見える景観 <VIEW>**

岩座神公会堂付近からは、山並みに囲まれた棚田が広がる岩座神地区の集落を見ることができます。千ヶ峰を水源とする多田川の両岸から山林に向かって広がる急勾配の斜面地に民家と棚田が混在しており、人々の営みと自然とが融合した穏やかな場所で、風情ある里山景観を形成しています。

岩座神地区の棚田は、標高280m～430m、勾配1/6の傾斜地に約700年前に石垣の畦畔(けいはん)によって築かれており、約300枚、約14haもあります。石積みが垂直に切り立っており、反り(上に行くほど反り返る曲線)が美しいです。さらに、その石積みは秋には明るい実り色を区切る境界線となり、冬には石積みの暗色と積雪の白が美しいコントラストを見せます。平成11年(1999)に「日本の棚田百選」にも選ばれています。

集落に点在する民家は、古くは江戸時代末期から建設されたと伝えられ、茅葺(かやぶき)屋根をトタン板等で覆う母屋が増加しているものの、特徴的な屋根形状を持つ母屋形式のものや、白漆喰壁や羽目板張りの外壁を有する建物が数多く現存しています。

岩座神地区では、昭和60年(1985)に集落の若者達が「仁王会」を設立するなど、早くから住民が主体となったまちづくりに取り組んでおり、平成14年(2002)には、県が住民協定を認定しています。また、岩座神地区は、平成11年(1999)に県景観条例に基づく「景観形成地区」にも指定されています。



66	JR 姫路駅前の展望台キャッスルビュー	所在地	姫路市駅前町
		位置情報	北緯 34度49分38.8秒 東経 134度41分24.8秒

**見える景観** 大手前通りと姫路城

**ビューポイント <VIEW POINT>**

展望台キャッスルビューは、JR姫路駅北駅前広場にあります。キャッスルビューはJR姫路駅北駅前広場の再整備に伴い、平成27年(2015)に姫路市が建設した眺望デッキです。姫路城と正対し、大手前通りを挟んで姫路城を額縁の中の絵のように眺めることができるよう設計されています。また、鉄と木を組み合わせることで姫路城の門をイメージしています。「姫路城十景」のひとつであり、姫路の玄関口となる眺望スポットです。

**見える景観 <VIEW>**

大手前通りは、昭和30年(1955)に完成した幅員50mのメインストリートで、「日本の道100選」に選ばれています。イチョウとクスノキの並木、多数のブロンズ像、ウッドデッキ、ベンチ、花壇など、姫路城の魅力を向上させる空間となっています。姫路城は、シラサギが羽を広げたような優美な姿から「白鷺城」の愛称で親しまれています。大天守は慶長14年(1609)に池田輝政により築られました。5重6階の大天守と3つの小天守が渡櫓(わたりがら)でつながり、幾重にも重なる屋根、千鳥破風や唐破風が、白漆喰総塗籠造の外装と相まって、華やかな構成美をつくっています。また、姫路城はその400年の歴史の中で、戦にまみえることなく、近代の戦災に遭うこともなかった、たぐいまれなお城です。

昭和26年(1951)に国宝になり、平成5年(1993)には法隆寺とともに日本初の世界文化遺産となりました。平成27年(2015)に大天守保存修理を終え、白漆喰総塗籠の輝くような真っ白な姿となりました。

キャッスルビューから姫路城への眺望は、中心線となる大手前通りやその両側の建築物・街路樹が景観構図に奥行き感を演出するとともに、その先にあるアイストップである姫路城へと視線を誘導します。また、統一感のある街路樹や建築物、ファサードなどが形成する一点透視的な構図は、左右対称による安定感、調和、秩序といった視覚効果をもたらすといわれています。



67	姫路市立美術館前	所在地	姫路市本町
		位置情報	北緯 34度50分21.1秒 東経 134度41分50.4秒

見える景観	美術館と姫路城
-------	---------

### ビューポイント <VIEW POINT>

姫路市立美術館は、JR 姫路駅から北に徒歩約 20 分のところ、姫路城の東隣にあります。明治 38 年(1905)に姫路陸軍第 10 師団兵器支廠として建てられた、煉瓦造 2 階建ての建物です。戦後は、姫路市役所として市民に愛され、昭和 55 年(1980)に、市庁舎の移転に伴い、姫路市立美術館にリニューアルしました。美術ファンのみならず多くの人々の憩いの場として親しまれています。

姫路市立美術館の煉瓦には、「○に 3 本線の入った刻印」や「×印の刻印」が見られます。この刻印から、使用された煉瓦が明治 21 年(1888)創業の大阪窯業により堺、貝塚あたりで生産されたものや岸和田煉瓦(株)により生産されたものであることが判明しています。

昭和 60 年(1985)に「第 1 回兵庫県緑の建築賞」を、昭和 63 年(1988)に「環境色彩 10 選公共の色彩賞」を受け、平成 15 年(2003)には「国登録文化財」となっています。

### 見える景観 <VIEW>

緑の芝生に囲まれた赤レンガの美術館は地域のランドマークとなっており、姫路城を背景とする赤レンガの美術館と彫刻のある庭園が他に類のない美しい景観を生み出しています。夜間は姫路城と共に美術館もライトアップされ、庭園にはガス燈が灯り、昼間とは異なった景観を楽しむことができます。

### 関連情報 <INFORMATION>

姫路市立美術館では、郷土ゆかりの美術や国内外の近現代美術の名品を所蔵しているほか、医師の國富奎三(くにとみけいざう)コレクション室ではモネ、ルオー、マティスなどのフランス近代美術の名品を常設展示しています。企画展示室では、国内外の優れた美術を紹介する特別企画展や公募展など多彩な企画が催されています。

ビューポイント・見える景観 <VIEW POINT・VIEW>



姫路城



68	国登録文化財「芥田家住宅」前	所在地	姫路市野里寺町
		位置情報	北緯 34度50分38.9秒 東経 134度42分02.2秒

見える景観	旧野里街道の古いまちなみ
-------	--------------

### ビューポイント <VIEW POINT>

芥田家住宅は、JR 京口駅から北西方向に徒歩約 20 分のところにあります。大正期に建てられた、当地における表屋造(おもてやづくり)町家の希少な事例です。旧野里街道に面して表屋を構え、後方に玄関と坪庭を介して主屋を配置しています。虫籠(むしこ)窓や鉄格子窓、出桁(でげた)造が特徴です。主屋、土蔵、離れ座敷兼土蔵は平成 26 年(2014)に国登録文化財になっています。

芥田氏は、歴代の姫路城主から厚遇された有力土豪で、周辺の民政を担当するとともに、播磨の鋳物師集団を統括していました。

### 見える景観 <VIEW>

旧野里街道は、姫路城下から但馬、生野(いくの)方面に通じる道を指し、「生野街道」とも呼ばれます。旧野里街道周辺の野里街道地区は、16 世紀の後半より、羽柴秀吉・池田輝政の町割り以来、商業、職人のまちであり、但馬地方へと続く街道沿いの町場として栄えました。また、江戸時代まで鋳物業が盛んな地域として知られていました。

旧姫路城下町は、昭和 20 年(1945)の空襲で大部分が焼失しましたが、野里街道地区は、戦災を免れ、古いまちなみと町家遺構だけでなく、神社や仏閣等の歴史的な建造物も多く残っています。このため、野里街道地区は平成 22 年(2010)に都市景観条例に基づく「景観形成地区」に指定され、町家の再生や活用の取組を行っています。

### 関連情報 <INFORMATION>

旧野里街道沿いには芥田家住宅のほか、国登録文化財の「魚橋家住宅」、「魚橋家呉服店」、また、市都市景観条例に基づく都市景観重要建築物等である「大野家住宅」、お夏清十郎で有名な「慶雲寺」などがあります。

ビューポイント <VIEW POINT>



見える景観 <VIEW>



69	あわが いくの 中村・粟賀町地区の旧生野街道	所在地	神河町粟賀町
		位置情報	北緯 35度04分06.1秒 東経 134度46分39.0秒

見える景観	農村集落の佇まいが残るまちなみ
-------	-----------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

ビューポイントは、播但連絡道路神崎南 IC から北東方向に、車で約5分の中村・粟賀町地区内の旧生野街道沿いにあります。

中村・粟賀町地区は、越知川流末の農村地帯として拓け、播磨と但馬をつなぐ生野街道の街道村、宿場町として形成されました。かつての宿場町の雰囲気を伝える歴史的なまちなみ景観が残っているため、平成26年(2014)に県景観条例に基づく「景観形成地区」に指定されています。

**見える景観 <VIEW>**

中村・粟賀町地区の銀の馬車道(旧生野街道)沿いでは、街道筋らしく道路際に商家や町家が見られる一方で、建物を道路から控えて前庭をとり、敷地を塀や蔵・納屋などで囲んだ農家的な住宅や茅葺(かやぶき)の民家を見ることができます。木材を多用した町家と町家の間をつなぐ塀や庭木が落ち着いた趣を醸し出しています。

また、街道筋の周囲には、農村集落の佇まいが残る集落があり、この農村集落のまちなみと街道筋のまちなみを街道筋からクシ状に伸びる路地がつないでいます。路地からは、町家や商家が建ち並ぶ街道筋を通して、周囲に広がる田園や山並みを見通すことができます。街道筋、田園、山並みが各々の景観要素を結びつけ、視覚的な一体感を演出する役割を果たしています。

**関連情報 <INFORMATION>**

銀の馬車道は、生野鉱山と飾磨港(現姫路港)を結ぶ日本初の高速産業道路で、地区西部を南北に貫いており、中村・粟賀町地区を縦断しています。明治9年(1876)、生野鉱山の精錬・精鉱にかかる物品の輸送力アップのため、市川沿いに49kmにわたり建設されました。

その結果、天候に左右されることなく、物資を運送する事ができるようになり、日本の近代化に大きな役割を果たしました。



ビューポイント・見える景観 <VIEW POINT・VIEW>



中村・粟賀町地区の田園風景

70	とのみね 砥峰高原の池付近	所在地	神河町川上
		位置情報	北緯 35度09分08.4秒 東経 134度41分23.2秒

見える景観	秋空と高原のススキ
-------	-----------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

砥峰高原の池は、播但連絡道路神崎南 IC から車で約40分の、とのみね自然交流館付近にあります。ベンチがあり、座りながらゆっくりと高原の景観を楽しむことができます。

**見える景観 <VIEW>**

池の奥には、標高900m、面積約90haに及ぶ砥峰高原のススキの草原が広がっています。ススキが見頃の9月から10月頃には、観月会やススキ祭りなどのイベントが行われます。高原一帯が銀色に染まり、秋空をバックに一面ススキの穂が波打つ壮観な景観を楽しむことができます。

冬になるとあたり一面が雪化粧に彩られ、白銀の世界と化します。また、3月になると、春の訪れを告げる伝統行事の山焼きが行われます。砥峰高原のススキ草原を焼き尽くす炎の祭典です。ススキ草原は、定期的な維持管理を行わなければ、草原に進入した木がだんだんと大きくなり、やがて森林へと変わってしまいます。しかし、草原一帯を焼くことで、ススキの根だけが残り、美しいススキ草原を維持することができます。山焼きの後には、わらびやゼンマイなどの山菜が芽を吹き、草原の低いところに広がる湿地では、珍しい高原植物を見ることができます。

このように、砥峰高原は、秋のススキだけでなく、四季折々の姿を楽しむことができます。

**関連情報 <INFORMATION>**

砥峰高原は同じ神河町内の峰山高原とともに、村上春樹原作の映画「ノルウェイの森」(平成22年(2010)公開)の撮影地となったことでも知られています。撮影は、平成20年(2008)10月から平成21年(2009)7月にかけて計21日間で行われました。高原には、記念写真の撮影場所を設置したほか、撮影が行われた場所には標柱を設置し、撮影状況の写真や撮影秘話を表示したパネルが掲示されています。



ビューポイント <VIEW POINT>



見える景観 <VIEW>

撮影：城古 博史

71	峰山高原リゾートの第2リフト終点付近	所在地	神河町上小田
		位置情報	北緯 35度08分01.6秒 東経 134度39分30.8秒
見える景観	きょうせいざん 暁晴山とゲレンデ		
<p><b>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</b></p> <p>スキー場である峰山高原リゾートの第2リフト「マウンテンライン」で登ったところがビューポイントです。</p> <p>峰山高原リゾートは、平成29年(2017)、国内で14年ぶりに新設された最も新しいスキー場です。ゲレンデには、3本のコースと2つのリフトがあり、ナイター設備や西日本最大級のキッズパークなど、家族連れや初心者を楽しめるリゾートとなっています。また、夏はアスレチック、バーベキューと年中楽しむことができます。</p> <p>峰山高原は、標高1,077mの暁晴山や1,056mの夜鷹山の山々に囲まれたすり鉢状の広大な高原で、クヌギやナラの林、ササ原など高原らしい景観が広がっています。氷河期に、地中の水分が凍結と融解を繰り返す「周(しゅう)氷河作用」により形成された、なだらかな地形が特徴的です。</p>		 <p>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</p>	
<p><b>見える景観 &lt;VIEW&gt;</b></p> <p>第2リフト終点からは、暁晴山が正面に見えます。暁晴山は、峰山高原の西側に位置しており、東の夜鷹山と向き合っています。暁晴山の山頂からは視界を遮るものがなく、360度眺望が開けており、晴れた日は、南に瀬戸内海が、北に但馬の山々が見渡せます。</p>		 <p>見える景観 &lt;VIEW&gt;</p>	
<p><b>関連情報 &lt;INFORMATION&gt;</b></p> <p>神河町では、交流人口の拡大を目標に「グリーンエコー笠形」「ヨーデルの森」といった主要観光施設を中心に観光振興に取り組んできましたが、冬季の集客の確保が課題となっていました。このスキー場は、西日本有数の高原地帯を有しているという強みを活かして、年間を通じた観光交流人口を確保するために整備されました。</p>			

72	浅野地区の尾根筋	所在地	市川町浅野
		位置情報	北緯 35度00分39.2秒 東経 134度46分01.1秒
見える景観	清流市川と市川新橋周辺の集落風景		
<p><b>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</b></p> <p>ビューポイントである浅野地区の尾根筋は、麓にある浅野公民館から徒歩40分程度、浅野山を登ったところにあります。</p> <p>浅野山がある浅野地区は、市川中流域左岸の浅い谷間に位置しています。このことが「浅野」という名前の由来であると考えられています。浅野地区では、浅野山ハイキングを毎年開催しており、ハイキングの後は、地域の人たちが一堂に集い食事をし、交流を深めています。浅野山は砥石が採れたことから、「播磨国風土記」に記述される「砥川山」の比定地(それが存在していたと推定される場所)であることが定説とされていました。しかし、近年の研究により福崎町の日光寺山でも砥石が採れたことや「砥谷(とだに)」と呼ばれる場所が明らかとなったことから、日光寺山説も生まれています。</p>		 <p>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</p>	
<p><b>見える景観 &lt;VIEW&gt;</b></p> <p>屋根筋からは、市川沿いに広がる市川町の集落風景や田園風景を見ることが出来ます。市川は、朝来市から神河町、市川町、福崎町、姫路市までを流れる二級河川で、市川に沿って生野(いくの)街道が通っています。視界に写る市川新橋は、昭和34年(1959)に建設された全長120mの10径間単純RCT桁橋です。</p>		 <p>見える景観 &lt;VIEW&gt;</p>	
<p><b>関連情報 &lt;INFORMATION&gt;</b></p> <p>浅野地区の東側には、小畑地区があります。浅野地区と小畑地区を結ぶ道は「天神坂」といわれており、小畑天満神社の前を通るため、この名がついたと考えられています。この天神坂について言い伝えがあります。日本中の神さまが出雲大社に集まる毎年11月になると、小畑天満神社の神さまも天神坂を下り、出雲大社に向かいます。坂の頂上から少し下ったところに砥石の材料となる石がむきだしになっており、神さまはここで包丁を砥ぎ、出雲大社へ行き、全国の神さまたちの料理番となって腕をふるうそうです。</p>			

<b>73</b>	<b>春日山城跡</b>	<b>所在地</b>	福崎町八千種
		<b>位置情報</b>	北緯 34度55分32.8秒 東経 134度47分01.3秒

<b>見える景観</b>	福崎の市街地
--------------	--------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

春日山城跡は、標高 198m の春日山の山頂にあります。麓にある春日ふれあい館から、30 分程度で山頂まで登ることができます。春日ふれあい館へは、播但連絡道路福崎南 IC から車で約 10 分です。

春日山城は、建武年間(1334-1336)に築城され、播磨の守護赤松氏の幕下であった後藤三郎左衛門尉基明(ごとうざぶろうざえものじょうもとあき)が初代城主として、現在の福崎町全域と姫路市、加西市の一部を統治していました。応仁の乱には、赤松政則の部下として出陣し、山名宗全(やまなそうぜん)の軍勢を破って軍功を立てました。天正 6 年(1578)、9 代目後藤伊勢守基信(ごとういせのかみもとのぶ)の時に、中国征伐に向かう羽柴秀吉によって城は攻め落とされました。

春日山城跡の構造は、頂上に東西 18.3m、南北 23m の削平地があり、主郭の中央には東西 5.8m、南北 2.5m の大きな穴があります。深さは 1m で、食糧貯蔵庫の跡であると考えられています。さらに、主郭から南側には 3 つの削平地があり、最上段のものには直径 2m 前後の穴が 4 つ掘られています。このような穴は東側の削平地にも 2 つ掘られています。目的は明らかになっていません。

**見える景観 <VIEW>**

春日山城跡からは、福崎町全域を含む播磨平野が一望でき、360 度見渡すことができます。北西方向を見ると田園風景の中に長池が見えます。渡り鳥であるオオハクチョウは、本州北部や北海道に舞い降りることが多い渡り鳥ですが、長池では毎年見ることができます。オオハクチョウは体が白く、くちばしの先端が黒、基部は黄色であるのが特徴です。シベリアなどから南下し、冬は日本で過ごします。

**関連情報 <INFORMATION>**

春日山の麓には、春日山キャンプ場やふれあい広場などがあり、ハイキングだけでなく、レジャーやスポーツも楽しむことができます。



<b>74</b>	<b>もちむぎのやかた付近の道路わき</b>	<b>所在地</b>	福崎町西田原
		<b>位置情報</b>	北緯 34度57分25.4秒 東経 134度45分53.6秒

<b>見える景観</b>	「河童のガジロウ」で有名な辻川山公園
--------------	--------------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

もちむぎのやかたは、播但連絡道路福崎北 IC から西に車で 3 分のところにあります。ビューポイントは、その北側にある辻川山公園の外縁を囲む「民俗学の道」沿いです。もちむぎのやかたは、福崎町の特産品である「もちむぎ麺」の製造販売と、レストランを併設している施設であり、ざる麺・ソフトクリーム・カステラ・煎餅など、もち麦を使った多彩な商品を販売しています。もち麦や福崎町に関する展示なども行っており、時間帯によっては、ガラス越しに製造工程の見学もできます。

福崎町は国内最大級の「もち麦」の生産地であり、古くからもち麦を栽培し、主に団子にして食べていたという歴史があります。

**見える景観 <VIEW>**

辻川山公園の池の中には、柳田國男の著書「故郷七十年」に登場する駒ヶ岩の河童をモチーフにした河童の兄弟がいます。兄の河太郎(ガタロウ)は池のほとりにいますが、弟の河次郎(ガジロウ)は池の中において、時間がくると水中から飛び出てきます。河童の兄弟がメディアに大きく取り上げられたことから、次に登場したのが「逆さ天狗」です。池の北側の小高い所に作られた山小屋の扉から、15 分毎におしゃべりな天狗が頭上を行き来します。他にも、全国妖怪造形コンテストにおいて最優秀作品となった作品が大型 FRP 像として設置されています。

これらの河童や天狗などのまちおこしの仕掛けを考案したのは、40 代の一人の町職員です。この職員は、東京のインターネットメディアが企画する「地方公務員が本当にすごい!」と思う公務員アワード 2019 に選ばれています。

**関連情報 <INFORMATION>**

辻川山公園に続く鈴ノ森神社の傍には柳田國男生家や記念館が隣接しており、民俗学への道しるべを示してくれます。また、周辺には、県指定文化財「三木家住宅」や、県景観形成重要建造物「旧辻川郵便局」など、歴史的な建物もあります。



<b>75</b>	<b>万葉の岬つばき園</b>	<b>所在地</b>	相生市相生
		<b>位置情報</b>	北緯 34度45分38.0秒 東経 134度28分35.0秒
<b>見える景観</b>	瀬戸内海		
<p><b>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</b></p> <p>万葉の岬つばき園は、ウエスト神姫「万葉の岬」バス停から南東に徒歩約2分のところにあります。平成8年(1996)に整備された面積 2,648 m<sup>2</sup>の公園で、園内には約30品種 200本余の椿が植えられており、12月から4月にかけて赤や白やピンクの花が次々に見ごろを迎えます。</p> <p>潮風に揺れる椿を見て歩くのもよし、芝生に腰をおろし、瀬戸内海に浮かぶ島々を眺めるのもよしの楽しい「つばき園」です。</p> <p>奈良時代の歌人、山部赤人がこの地で歌を詠み、その歌が万葉集に記載されていることから、金ヶ崎の岬は「万葉の岬」とも呼ばれています。</p> <p>昭和25年(1950)に瀬戸内海国立公園に指定され、平成13年(2001)には県景観条例に基づく「風景型広域景観形成地域」に指定されています。</p>		<p><b>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</b></p> 	
<p><b>見える景観 &lt;VIEW&gt;</b></p> <p>園内の展望台からは、東は明石海峡大橋、南は四国の稜線、西は小豆島まで瀬戸内海が180度展望でき、朝日、夕日の見事さでも多くの人を魅了しています。</p> <p>淡路から家島群島、牛窓に至る万葉故地を背景に、眼前に山部赤人の舟旅望郷の歌の舞台である辛荷(からに)の島、室(むろ)の浦、鳴島(なきしま)等が千数百年前の風光を留めて、万葉のここを今に伝えています。</p> <p>昭和61年(1986)に「ひょうご風景100選」に選定されています。</p>		<p><b>見える景観 &lt;VIEW&gt;</b></p> 	
<p><b>関連情報 &lt;INFORMATION&gt;</b></p> <p>「縄の浦 ゆ背向に見ゆる奥つ島 漕ぎ廻る舟は 釣しすらしも」 これは、万葉集に記載されている山部赤人が詠んだ歌です。 今見えている風景と千年前の歌を重ねることで、当時の瀬戸内海の風景に思いをめぐらせることができます。</p>			

<b>76</b>	<b>遠見山公園</b>	<b>所在地</b>	相生市野瀬
		<b>位置情報</b>	北緯 34度47分31.2秒 東経 134度28分23.9秒
<b>見える景観</b>	相生湾と造船所		
<p><b>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</b></p> <p>遠見山公園展望広場は、ウエスト神姫「野瀬」バス停から北西に徒歩約30分のところにある広場で、ビューポイントは、展望広場の西側登山道の途中にあります。</p> <p>昭和初期の造船不況時代に、町民に仕事を与えるという目的で相生信用組合によって遠見山に梅林が整備されました。この梅林は、昭和20年(1945)の失火による火災で大半が消失しましたが、戦時・戦後を通して食料補給に大きな役割を果たしたといわれています。</p>		<p><b>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</b></p> 	
<p><b>見える景観 &lt;VIEW&gt;</b></p> <p>相生湾は、約4km余りの深い入り江で、往古より波静かにして、魚の宝庫でした。相生の造船の歴史は、明治40年(1907)に播磨船渠(せんきょ)という小さな造船所が設立されたことから始まります。昭和26年(1951)に播磨造船所で建造された日章丸2世は、後に出光興産が極秘裏にイランへ派遣し、「日章丸事件」として知られることになり、小説「海賊と呼ばれた男」にも描かれました。</p> <p>相生第一工場は、昭和37年(1962)から昭和39年(1964)まで、単一工場として世界一の建造量を記録するまでに成長しますが、昭和62年(1987)、海運業界の深刻な不況が続くなか、新造船部門は一旦廃止されることとなります。平成2年(1990)、相生第一工場の造船部門は別会社に継承され、新たな歴史を紡いでいます。</p>		<p><b>見える景観 &lt;VIEW&gt;</b></p> 	
<p><b>関連情報 &lt;INFORMATION&gt;</b></p> <p>毎年5月に行われる相生ペーロン祭は、大正11年(1922)に長崎県出身の播磨造船所の従業員によって相生に伝えられ、発展したものです。前夜祭の花火大会を皮切りに、熱いペーロン競漕や陸上パレードなど、様々なイベントがあり、播州路に初夏を告げる一大イベントとなっています。</p>			

77	みのる <b>たつの市指定文化財「小林 實 家住宅土蔵」前</b>	所在地	たつの市龍野町下川原
		位置情報	北緯 34度51分56.1秒 東経 134度32分48.3秒

見える景観	下川原商店街の古いまちなみ
-------	---------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

たつの市指定文化財「小林實家住宅土蔵」は、国の「重要伝統的建造物群保存地区」内にあり、JR 本竜野駅を下車、西へ進み、揖保川に架かる竜野橋を渡り、下川原商店街通りを北上してすぐのところ、駅から約1km、徒歩約15分の場所にあります。なお、土蔵は敷地内にあるため、通りから見ることはできません。

**見える景観 <VIEW>**

龍野は、播磨国風土記に登場する「日下部里(くさかべのさと)・立野(たちの)」が地名のいわれとされるなど、古くから文化の開けた地域です。町場としての成り立ちは、15世紀末期頃に鶏籠山(けいろうざん)山上に赤松氏の城郭が築かれたことに始まります。背後を鶏籠山、的場山、白鷺山(しらさぎやま)に囲まれ、前面に揖保川が流れる地形条件にあります。揖保川は全国まれにみる鉄分の少ない軟水を地域に供給し、淡口(うすくち)醤油で知られる製造業を発展させることにつながりました。

平坦な地形に基盤目状の町割りがなされる近世城下町と異なり、自然地形に適応した町割りが特徴です。近世に入ると城郭は平山城として築かれ、南北の大手と扇状地の武家地を中心に東西に貫く通りが十字に交わって町の骨格を形成します。

沖積低地の部分が主に商家町・醸造町の町家地区となり、上川原、下川原の町筋は、揖保川と平行した自然堤防上に形成されました。

町家の間に寺社が分布し、十文字川(どじがわ)や半田用水が身近な水辺を演出し、多様な要素の組合せによる景観の美しさを味わうことができます。

**関連情報 <INFORMATION>**

龍野は、昭和57年(1982)に県内でも先駆けて、伝統的建造物群保存対策調査が行われた地区ですが、その後、約40年の年月を経て、令和元年(2019)に国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されました。



ビューポイント・見える景観 <VIEW POINT・VIEW>



龍野地区のまちなみ

78	<b>龍野城しころ坂前</b>	所在地	たつの市龍野町上霞城
		位置情報	北緯 34度52分06.3秒 東経 134度32分38.0秒

見える景観	龍野城の隅櫓
-------	--------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

JR 本竜野駅から西へ向かい揖保川の竜野橋を渡って城下町に入り更に西へ歩きながら坂道を上がっていくと龍野城があります。車の場合は、竜野橋の南にある県道5号沿いの観光駐車場から北へ徒歩約10分です。

**見える景観 <VIEW>**

城下町龍野は、赤松村秀によって15世紀末期頃に町の北部にそびえる鶏籠山(けいろうざん)山頂部に築城されたことにはじまるとされています。「朝霧城」として、天正5年(1577)まで赤松氏が4代続いた鶏籠山には、今でも石垣などが残っています。16世紀後半から17世紀初め頃には、山上から山裾へ城は移されたようです。その後、寛文12年(1672)に脇坂安政が信州から入封し、その翌年、荒れていた平城は御殿風に建替えられ、背後に鶏籠山をひかえ、三方に石垣をめぐらす龍野城が完成しました。

龍野城は明治初期に廃城となりましたが、昭和54年(1979)に整備工事が完了し、本丸御殿、白亜の城壁、多聞櫓、埋門(うずみもん)、それと写真の隅櫓などが追加され、現在の姿となっています。なお、この隅櫓は当初の姿ではなく、いわゆる「創作」です。

龍野城は、平成27年(2015)に県景観条例に基づく「景観形成重要建造物」に指定されています。

**関連情報 <INFORMATION>**

龍野城付近一帯は、白壁の土蔵や武家屋敷跡や多くの碑が残されており、落ち着いたまちなみの中に歴史と伝統を感じさせてくれます。本丸御殿から北西へ300mのところには茶室の「聚遠亭(しゅうえんてい)」があり、そこから南へ100mほど行くと龍野公園があります。公園内には「赤とんぼ」の詩人三木露風の詩碑や、悲劇の哲学者である三木清の歌碑などが建っています。



ビューポイント・見える景観 <VIEW POINT・VIEW>

撮影：丸一 明



聚遠亭

<b>79</b>	<b>新舞子海水浴場付近</b>	<b>所在地</b>	たつの市御津町黒崎
		<b>位置情報</b>	北緯 34度46分19.7秒 東経 134度33分07.3秒

<b>見える景観</b>	<b>新舞子の干潟</b>
--------------	---------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

新舞子海水浴場は、姫路バイパス中地ランプを下り、南へ下って国道 250 号を西へ約 10 km 行った海岸沿いにあります。新舞子浜の海岸沿いを走る市道の一角に車の切り返しができるスポットがあり、格好のビューポイントとなっています。

**見える景観 <VIEW>**

新舞子の干潟は、日本有数の干潟の名所として多くの写真愛好家が訪れています。干潮時間と日の出時間が重なったとき、光が水面に反射して金色や薄紫色に輝き、とても幻想的な風景が現れます。潮位が約 30cm 以下になると干潟の凹凸がはっきり現れるようです。浜辺から約 500m、東西約 1.5 km に広がり、1 年中見ることができですが、12 月～2 月は空気が澄んでいるため、特に美しく見えます。近年、干潟の砂が新舞子浜の東側に流れ、西側の浜が痩せてしまう現象が発生しましたが、平成 24・26 年(2012・2014)の浚渫(しゅんせつ)工事により、従来の美しい干潟が維持されています。遠浅の砂浜であることから、春は潮干狩り、夏は海水浴場として賑わっています。

**関連情報 <INFORMATION>**

近くには、「世界の梅公園」と「綾部山梅林」があります。  
「世界の梅公園」では、日本・中国・台湾・韓国など世界の梅、約 315 種 1,250 本の梅の花を楽しむことができ、眼下に瀬戸内海を一望することもできます。また、公園北入り口から山頂の園路沿いに約 3 千株のあじさいが植栽されており、6 月～7 月には赤や青の色とりどりのあじさいが楽しめます。  
「綾部山梅林」は、海に見える梅林で、例年 2 月下旬から 3 月中旬が見ごろで、ほんのりとピンクに色づいた頃には梅の香が漂い、一番美しい季節となります。また、綾部山梅林の裾野には、黄色いじゅうたんを敷き詰めたような菜の花畑が広がり、ひと足早い春を満喫できます。



<b>80</b>	<b>室津漁港付近の道路わき</b>	<b>所在地</b>	たつの市御津町室津
		<b>位置情報</b>	北緯 34度46分06.3秒 東経 134度30分11.2秒

<b>見える景観</b>	<b>潮待ち・風待ちの港室津漁港</b>
--------------	----------------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

ビューポイントは、ウエスト神姫「室津」バス停から西に徒歩約 10 分のところ、国道 250 号から室津漁港に下る急勾配の斜路上にあります。

**見える景観 <VIEW>**

ビューポイントからは、入江と室津漁港の全容が俯瞰できます。室津漁港は、三方を山に囲まれ、海に突き出た岬による奥行き深い入江で、古くから潮待ち・風待ちの天然の良港として知られていました。古くは、播磨国風土記に「此の泊り、風を防ぐこと、室(むろ)のごとし。故、因りて名と為す。」と記されています。  
地区内に残る江戸時代の豪商「嶋屋」、「魚屋」が、それぞれ「たつの市立室津海駅館」、「たつの市立室津民俗館」として保存活用されています。これらの建物には当時の建物としては珍しく、2 階に床の間を備えた立派な座敷があります。通常、1 階に置かれる座敷には、縁側のついた庭が設けられますが、その代わりとして 2 階道路側の開口部に腰掛け縁付きの手摺りが設けられたといわれています。地区内の古い町家の 2 階には、同じような座敷と腰掛け縁付きの手摺りが見られ、それが室津を特徴づけるまちなみ景観となっています。  
室津地区は、昭和 61 年(1986)に「ひょうご風景 100 選」に選定され、平成 6 年(1994)には景観条例に基づく「景観形成地区」に指定されました。さらに平成 15 年(2003)に「私の好きな兵庫の風景 100 選」にも選定されるとともに、令和元年(2019)に北前船の寄港地として日本遺産に認定されています。

**関連情報 <INFORMATION>**

前述のたつの市立室津海駅館では、海の宿駅として栄えた室津の歴史が「廻船」、「参勤交代」、「江戸参府」、「朝鮮通信使」の 4 つのテーマで紹介されており、朝鮮通信使の饗応料理の模型や江戸時代に来日したオランダ商館の医師ケンペルの手にする「日本誌」が展示されています。





81	さこしうら 旧坂越浦会所付近	所在地	赤穂市坂越
		位置情報	北緯 34度45分59.4秒 東経 134度25分51.9秒

見える景観	北前船寄港地・坂越のまちなみ
-------	----------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

JR 坂越駅を降りて、国道 250 号を南東方向に進み、千種川(ちくさがわ)に架かる坂越橋を渡って徒歩約 10 分で、古いまちなみが残るかつてのメインストリート「坂越大道」にたどり着きます。旧坂越浦会所は、その東端に位置しています。坂越港は、全長約 2 km の弧を描く坂越湾と湾内に浮かぶ生島(いしま)が波風を防ぎ、内海航路の要衝として発展しました。坂越大道は、この坂越港と千種川とをつなぐ物流経路として利用され、その終着点となる港町坂越は、北前船寄港地として発展しました。

**見える景観 <VIEW>**

港町坂越(坂越浦)周辺は、市都市景観条例に基づく「市街地景観形成地区」に指定されており、坂越大道沿いには奥藤邸と市指定の市街地景観重要建築物である奥藤商事の酒蔵や旧奥藤銀行を改装した坂越まち並み館をはじめとした歴史ある建物が建ち並んでいます。北前船寄港地として栄えた当時の面影を色濃く残す風情ある坂越のまちなみは、平成 30 年(2018)に日本遺産『荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～』の構成文化財に認定されています。

**関連情報 <INFORMATION>**

奥藤酒造は、慶長 6 年(1601)創業の造り酒屋です。奥藤商事の一角にある郷土館では、大庄屋を務めた奥藤家に残る酒造道具、廻船業関係の資料などを見学することができます。坂越まち並み館は、大正時代に奥藤銀行として建築された木造の建屋で、昔からの外観が残されています。また、観光客の案内所として、坂越の名所・旧跡に関する資料が展示されており、まちなみの保存・創造のシンボルの一つとなっています。



82	ちやうすやま 茶臼山城跡	所在地	赤穂市坂越
		位置情報	北緯 34度46分12.8秒 東経 134度25分46.3秒

見える景観	いしま さこしうら 生島と坂越浦
-------	---------------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

茶臼山城跡は、ウエスト神姫「坂越港」バス停から北西に徒歩約 30 分のところにある室町時代に築城されたとされる山城跡で、現在は広場となっています。茶臼山には、大避(おおさけ)神社や八十八ヶ所石仏など多くの信仰施設のほか、児島高徳(こじまたかのり: 新田義貞とともに足利尊氏と戦った武士)の墓の伝承地があります。坂越にはこうした信仰や伝説が今も息づいており、児島高徳の 550 年忌を記念して整備された船岡園には、桜が植樹されています。坂越の信仰と伝説をめぐる茶臼山は、春には桜やツツジで満ち溢れ、現在も多くの人を惹きつけています。

**見える景観 <VIEW>**

生島は、坂越湾に浮かぶ小島で、古来より神域とされ、人の立ち入りが禁止されたため、原始の森が残されています。大正 13 年(1924)に「生島樹林」として国指定天然記念物になり、昭和 25 年(1950)には全域が瀬戸内海国立公園の特別保護地区に指定されています。また、昭和 61 年(1986)に「ひょうご風景 100 選」にも選定されています。坂越浦は、半円形の海岸線に囲まれた天然の良港で、江戸時代には瀬戸内海有数の廻船業地でした。現在、浜辺は整備され、地元の人たちや観光客にとっての憩いの場となっています。

**関連情報 <INFORMATION>**

大避神社は、大化の改新の政争から逃れて坂越にやってきた秦河勝(はたのかわかつ)を祀る神社です。秦河勝は、千種川流域の開拓などに手腕を発揮し、村人は「生き神様」とあがめたと伝えられています。「大避」という名の由来の一つに蘇我一族からの迫害を避けることができたといわれがあります。生島にある円墳も秦河勝を葬ったものであると伝えられています。



<b>83</b>	<b>JR 播州赤穂駅前のお城通り</b>	所在地	赤穂市加里屋
		位置情報	北緯 34度45分02.4秒 東経 134度23分26.8秒

<b>見える景観</b>	<b>城下町を思わせるまちなみ</b>
--------------	---------------------

### ビューポイント <VIEW POINT>

JR 播州赤穂駅前の交差点から赤穂城跡に延びる道は「お城通り」と呼ばれ、JR 播州赤穂駅前から約 600m 南に下ったところがビューポイントです。周辺には、赤穂城跡はもとより、赤穂大石神社や花岳寺に代表される神社仏閣などの歴史的建造物が多く残っており、赤穂藩の城下町としての町割りとともに、今なお城下町の風情をとどめています。「お城通り」は元禄ロマン漂う城下町(加里屋地区)を縦断し、JR 播州赤穂駅前と赤穂城跡を結ぶシンボルロードとして、赤穂市の中心市街地の主軸としての役割を担っています。

### 見える景観 <VIEW>

「お城通り」は、市都市景観条例に基づく「市街地景観形成地区」に指定されています。このため、沿道の建物は、景観形成基準に沿って外壁を白壁にするとともに、腰壁の部分は、板張りやなまこ壁にするなどの意匠に配慮されています。

また、通りの一角には、忠臣蔵ゆかりの「息継ぎ井戸」や、忠臣蔵の世界を再現するからくり時計「義士あんどん」が設置されています。さらに、昭和 30 年(1955)に再建された赤穂城三之丸大手隅櫓(すみやぐら)や街路樹に植えられているクロマツなどにより、「忠臣蔵のふるさと」を思い起させるようなまちなみとなっています。

### 関連情報 <INFORMATION>

国指定史跡である赤穂城跡は、元禄赤穂事件を題材とした「忠臣蔵」の舞台として知られています。築城当時の堀と石垣が残るほか、大手門や庭園、塀、櫓などが再建され、中でも本丸庭園と二之丸庭園は、国の名勝に指定されています。また、赤穂城跡内外には赤穂市立歴史博物館や、「忠臣蔵」ゆかりの赤穂大石神社、国指定史跡の大石良雄宅跡長屋門などがあり、赤穂市の歴史を感じられる場所となっています。元和 2 年(1616)に敷設された旧赤穂上水道は、各戸給水を初めて成し遂げた上水道として知られ、日本三大上水道の一つとして有名です。

ビューポイント・見える景観 <VIEW POINT・VIEW>



赤穂城跡



<b>84</b>	<b>県景観形成重要建造物「本家門前屋」前</b>	所在地	宍粟市山崎町山崎
		位置情報	北緯 35度00分20.5秒 東経 134度32分13.0秒

<b>見える景観</b>	<b>酒蔵通りのまちなみ</b>
--------------	------------------

### ビューポイント <VIEW POINT>

県景観形成重要建造物「本家門前屋」は、神姫バス「山崎」から北西に徒歩約 10 分のところにあります。この辺りは、江戸中期には酒造業で隆盛を極めた地区で、面する通りには、老松酒造や山陽壺酒造などの造り酒屋が建ち並ぶことから、「酒蔵通り」と呼ばれています。

酒蔵通りの交差点は、直線的な十字路ではなく、「鍵の手」、「丁字路」、「食違い」を入り組ませた複雑な形状となっています。

これは、かつて城下町であった時代に、侵入してきた敵の見通しを遮断し、移動を遅らせるために工夫された防備の名残です。

なお、「本家門前屋」は元々「三笑(さんしょう)」という銘柄の酒を醸造する酒蔵でしたが、現在は醸造は行っておらず、地酒などの販売を行っています。

### 見える景観 <VIEW>

山崎地区の最初の城は、中世山城の典型である長水(ちょうずい)城で、その後、支城である篠ノ丸城が築造されますが、天正 8 年(1580)の秀吉の播磨攻めとともに落城します。姫路城主であった池田輝政は慶長 5 年(1600)毎月 6 回の市を開くことや諸役免除などを認めたため、人口が増加し、町場は発展していきました。

その後、鹿沢の台地に造営された陣屋の周囲に武家屋敷が配置され、外周の町家を含めて城下町の骨格が形成されました。寛永 8 年(1631)、池田輝澄が旧佐用藩士を召し抱えた際に設けた新町は、その後、町人街として栄えました。

3 軒の酒蔵「本家門前屋」、「老松酒造」、「山陽壺酒造」は平成 22 年(2010)に、それらに近接する江戸期に建築された町家である「中門前屋」は平成 30 年(2018)に、県景観条例に基づく「景観形成重要建造物」に指定され、城下町の風情を今に伝えています。

山崎地区は令和に入って最初の県景観条例に基づく「景観形成地区」に指定(令和元年(2019))されました。

ビューポイント・見える景観 <VIEW POINT・VIEW>



山陽壺酒造



<b>85</b>	<b>斑鳩寺東門付近</b>	<b>所在地</b>	太子町鵜
		<b>位置情報</b>	北緯 34度50分14.5秒 東経 134度34分34.4秒

**見える景観** 聖徳太子ゆかりの斑鳩寺と「富の小川」

**ビューポイント <VIEW POINT>**

斑鳩寺東門は、ウエスト神姫「鵜(いかるが)」バス停から北西に徒歩約7分のところにあり、ひときわ高くそびえる「斑鳩寺の三重塔」と「富の小川(斑鳩寺の東側を流れる水路)」が目印です。

**見える景観 <VIEW>**

斑鳩地区は古くは門前町として栄え、江戸のはじめには斑鳩寺のすぐそば、参道の東側に鵜宿(いかるがじゅく)が本陣として置かれ、幕末期は西国街道沿いに本陣が移されたことから、龍野街道、西国街道の二つの街道沿いに宿場町が形成されました。

斑鳩寺は、播磨の地を治めるために聖徳太子が建立したと伝えられており、聖徳太子に対する信仰の中心として、多くの人々の信仰を集めていました。

天文10年(1541)、尼子氏の播磨侵攻による騒乱の中、避難民が逃げ込んでいた小屋から出火し全焼しますが、講堂、三重塔、太子堂(現在の聖徳殿)などは焼失後20数年で再建されました。このことから地域に根付いた太子信仰の姿を窺い知ることができます。

三重塔は、永禄8年(1565)に龍野城主赤松氏の寄進により再建された高さ約25mの塔で、随所に彫刻が施され装飾豊かな建物です。昭和3年(1928)に国指定文化財になっています。

斑鳩地区は、平成25年(2013)に県景観条例に基づく「景観形成地区」に指定されています。

**関連情報 <INFORMATION>**

斑鳩地区は、近年、ベッドタウンとして農地の宅地化や古い町家の更新が進み、まちなみの統一感が失われてしまいました。現在、太子町や住民団体「斑鳩ふるさとまちづくり協議会」が、地区内の伝統的意匠を残す町家を手本に、統一感のある「和」を感じさせるまちなみの修景に取り組んでいます。

ビューポイント・見える景観 <VIEW POINT・VIEW>



講堂



<b>86</b>	<b>星の広場</b>	<b>所在地</b>	上郡町光都
		<b>位置情報</b>	北緯 34度55分33.6秒 東経 134度26分47.9秒

**見える景観** 播磨科学公園都市の建築群

**ビューポイント <VIEW POINT>**

星の広場は、たつの市、上郡町、佐用町の3市町にまたがる豊かな自然に恵まれた丘陵地「播磨科学公園都市」にある展望広場で、ウエスト神姫「県立大附属高校前」バス停から北西に徒歩約15分のところにあります。この場所は、播磨科学公園都市の開発工事の際、ヘリポート建設の障害となったため、削り取られた山頂部分の跡地です。

**見える景観 <VIEW>**

播磨科学公園都市のコンセプトは「時間とともに成長する森の中の都市」で、ランドスケープ・アーキテクトの国際的第一人者であるピーター・ウォーカー、日本を代表する建築家である磯崎新、安藤忠雄、渡辺真理ら4名の手によるデザイン都市です。

中心部に地区センター(光都プラザ)、タウンパーク、住宅(オプトハイツ、サンライフ光都)等コミュニティー活動の中心となる施設を配置し、中心部から離れるに従って、学術研究地区(Spring 8、県立先端科学技術支援センター)、産業地区(県立粒子線医療センター、県立総合リハビリテーションセンター)などが立地しています。

これらの建物は事業者である県企業庁が定める「アーバンデザインガイドライン」に沿って計画されており、科学公園都市にふさわしい洗練されたデザインとなっています。

夜になると播磨科学公園都市の夜景や「星の広場」の名のとおり美しい星空を觀賞することができます。

**関連情報 <INFORMATION>**

地区内で一際目を引くのが壁面の中央に大きな風穴の空いた高層賃貸住宅「サンライフ光都」(設計:磯崎新)です。当初はツインタワーのデザインでしたが、建物の高さや敷地計画をそのままにして、ツインタワーを上部でつなぐことで、80戸から99戸に住戸数を増やした結果、ユニークな意匠となりました。

ビューポイント <VIEW POINT>



見える景観 <VIEW>



<b>87</b>	<b>平福の天神橋</b>	所在地	佐用町平福
		位置情報	北緯 35度02分34.3秒 東経 134度22分13.4秒

<b>見える景観</b>	宿場町平福の川端風景
--------------	------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

平福の天神橋は、智頭急行平福駅から南西に徒歩約3分のところにある長さ28.5mの橋です。平成13年(2001)に周辺の歴史的なまちなみに配慮した外観で架け替えられ、平成21年(2009)の台風9号災害により改修される際も同様の配慮がされました。平成31年(2019)に「ひょうごの橋・トンネル150選」に選定されています。



**見える景観 <VIEW>**

平福は、慶長6~10年(1601~1605)に池田由之による利神(りかん)城の築城にあわせ、城下町として計画的に造られた町で、佐用川を外堀に見立て、東側に武家屋敷、西側に町人居住地が造られました。江戸時代には、播磨と因幡を結ぶ因幡街道の宿場町として栄え、播州系と作州系の町家が入り交じるまちなみや佐用川の水面に映る土蔵・川座敷群には、かつて宿場町として栄えた平福を見ることができます。



平福では地下水に鉄分が多く、飲料水は専ら川水に頼っていました。各建物には佐用川に下りる川門が設けられ、佐用川が生活の場として活用されたことから、表(旧街道側)と裏(川側)の2つのまちなみが形成されています。

川側の土蔵群の多くは消失していますが、唯一この天神橋から川面に映る昔ながらの土蔵群の風景を見ることができます。土蔵群は、北から順に「瓜生原(うりゅうばら)二郎家住宅」、「瓜生原恒男家住宅」、「前川家住宅」となっており、いずれも平成18年(2006)に県景観条例に基づく「景観形成重要建造物」に指定されています。

多くの地域で時代の流れとともに伝統的なまちなみが失われていく中で、昭和58年(1983)に佐用町が歴史的景観保存条例を制定して以降、住民と行政が協力してまちなみ保存に努めてきました。今なお伝統的な町家が数多く残ることから、平成23年(2011)には、県景観条例に基づく「景観形成地区」に指定されました。

昭和61年(1986)に「ひょうご風景100選」に選定され、平成15年(2003)には「私の好きな兵庫の風景100選」に選定されています。

<b>88</b>	<b>西はりま天文台南館付近</b>	所在地	佐用町西河内
		位置情報	北緯 35度01分30.2秒 東経 134度20分08.8秒

<b>見える景観</b>	満天の星空
--------------	-------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

兵庫県立大学の施設である西はりま天文台は、佐用町の大撫山(おおなでさん)山頂に位置し、中国自動車道佐用ICから西に車で約10分のところとあり、研究活動と同時に、天体観望会や様々な天文イベントを通して、一般の方の楽しみや学びに貢献する施設です。敷地内には、天文台のほかに、デイキャンプ場や宿泊施設などがあります。



天文台南館には、一般の方が直接自分の目で宇宙を観察できる公開望遠鏡としては世界最大級の口径2mの望遠鏡が設置されています。広大な宇宙を観測する望遠鏡になってほしいと、公募によって「なゆた」と名付けられました。「なゆた」とは、古代インドのサンスクリット語で「極めて大きな数」を意味します。日本の数詞では、那由他(なゆた)は1に0が60個つく数です。その名のとおり「なゆた」望遠鏡は100億光年もの時空を超えて宇宙の果てを見ることができます。

**見える景観 <VIEW>**

市街地から離れ、街の光がほとんど届かない天文台の芝生広場からは、満点の星空を観察することができます。ビル群の夜間照明が増加し、「光害」により自然のままの星空を見ることができない都市に比べ、自然景観が豊かに残されている地域では、「光害」が重要な問題となることから、天文台のある佐用町の全域は、県景観条例に基づく「星空景観形成地域」に指定されています。官民連携により美しい星空景観を背景とした豊かな自然と共にある地域づくりを推進しています。



**関連情報 <INFORMATION>**

佐用町は、周囲を山に囲まれた盆地にあり、晩秋から冬にかけての早朝、町は霧におおわれます。大撫山から望む朝霧は、夜明けの日差しをあびて幻想的に色を変え、心を誘う表情を見せてくれます。年間百日ほど発生するこの朝霧の美しさは、「佐用の朝霧」として全国的にも有名です。

所在地 佐用町西河内

位置情報 北緯 35度01分32.9秒  
東経 134度20分09.6秒

## 見える景観

雲海に浮かぶ利神城跡

## ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;

兵庫県立大学の施設である西はりま天文台は、標高436mの大撫(おおなで)山頂にあり、研究活動と共に、「星」と「宇宙」の魅力を通じて一般の方の楽しみや学びに貢献する公開天文台です。

天文台の北館前に、利神城の説明看板と双眼鏡が設置されており、利神城跡の天守や本丸、三ノ丸など城跡の北西側を見ることができます。

## 見える景観 &lt;VIEW&gt;

佐用町平福にある標高373mの利神山(りかんざん)には、山頂から麓にかけて、中世から江戸時代初期の城「利神城跡」(国指定史跡)があります。

利神城は、姫路城主となった池田輝政が領内に築いた6つの支城の一つで、輝政の甥、由之が山頂の城と麓の館を大改修したと伝えられています。城は周囲に総長約700mの石垣を巡らし、山頂に天守を築きあげた姿は「雲突城(くもつきじょう)」とも呼ばれたといわれます。

元和元年(1615)には池田輝興が佐用郡二万五千石を領して入城します。この頃に城下町の整備も進み、のちの「宿場町平福」の繁栄のもととなったといわれています。寛永8年(1631)、輝興が赤穂へ移り領地が山崎藩(宍粟市)に組み込まれると、城主不在として廃城になったと伝えられています。

この地域で晩秋から冬にかけての早朝に発生する雲海(霧)は「佐用の朝霧」として知られており、雲海に浮かぶ利神城跡の幻想的な風景を見ることができます。

## 関連情報 &lt;INFORMATION&gt;

平福地区内の河川周辺が埋蔵文化財包蔵地であったため、平成21年台風9号豪雨に係る河川改修に先立ち発掘調査が行われました。この調査により、石垣等の多くの文化財が発掘されたことで、利神城の文化的価値が見直され、平成29年(2017)、利神城跡は国指定史跡となりました。



撮影：竹内 裕美

利神城想像復元図



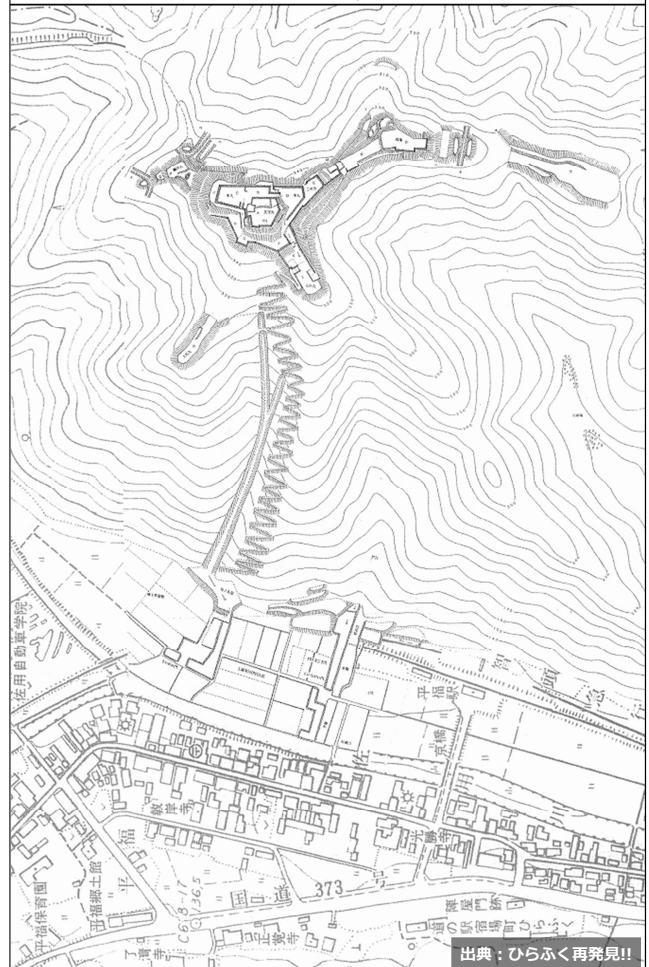
出典：ひらふく再発見!!

利神城想像復元図



出典：ひらふく再発見!!

利神城縄張り図



出典：ひらふく再発見!!

90	おつおお き だに 乙大木谷倶楽部(公民館)前の展望広場	所在地	佐用町大木谷
		位置情報	北緯 35度02分03.9秒 東経 134度19分36.6秒

見える景観	乙大木谷の棚田
-------	---------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

乙大木谷の棚田は、中国自動車道佐用 IC から、県道 240 号を經由して西へ約 10 分、距離にして約 6 km のところにあります。県道 240 号を西へ折れ、小さな橋を二つ渡り、最初の三差路を右へ細い山道をしばらく走ると右手に乙大木谷地区の公民館が現れ、その前に展望広場が設けられています。

**見える景観 <VIEW>**

当地区の石積み棚田は、平安から室町時代にかけて築かれた約 23ha、千枚田の棚田です。低い丘陵地にあり、天水田(降雨のみに依存している水田)に近い状態だったため、第二次世界大戦中に地元集落によってため池が作られましたが、漏水が多く「タマラン池」と擲されたようです。現在も、ため池の水は梅雨明け十日の干天(日照り)に備え、代掻き(しろかき：田に水を入れて土を掻きならす作業)は菜種梅雨(3～4月上旬に降り続く雨)の雨を貯めて行うので、4月上旬には田作りが始まります。長年の功績が評価され、平成 11 年(1999)には西播磨で唯一、農林水産大臣の「日本の棚田百選」に認定されました。これを契機に、棚田の維持管理のため「乙大木谷棚田保全組合」を設立しました。過疎化及び高齢化の進む地域において、棚田の荒廃の進行が懸念される中、都市部からのボランティアと稲作等を行うなどの都市住民との交流を図っています。

**関連情報 <INFORMATION>**

この乙大木谷の近く、江川地区には、平安時代に活躍していた陰陽道の大家「安倍晴明」と「芦屋道満」を祀った塚があります。いずれも、ビューポイントから車で 5 分の距離にあります。安倍晴明の塚である「いぶし晴明塚宝篋印塔(ほうきょういんとう)」は、町指定文化財になっています。



91	たわ 田和地区の農道	所在地	佐用町福中
		位置情報	北緯 35度01分35.6秒 東経 134度19分43.5秒

見える景観	田和の棚田
-------	-------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

中国自動車道佐用 IC から車で西へ約 10 分、または JR 佐用駅から車で北西へ約 10 分のところに田和集落があります。町道から集落内につながる農道を小高い場所まで登り切った農道脇がビューポイントです。町内の「乙大木谷の棚田」とは標高 280m の低い峠でつながっています。

**見える景観 <VIEW>**

「たわ」は吉備高原に多い「峠」を意味する地名で、田和の棚田も峠付近にあります。集落には約 350 枚の棚田が広がり、野積の石垣で作られた緩やかな曲線の棚田と民家の白壁土蔵が印象的な風景を作っています。平成 9 年(1997)に県の棚田保全ボランティア活動である「棚田交流人」がスタートし、この地区でもその活動が始まりました。棚田交流人は、県や町からの呼びかけで、遠くは神戸市、大阪府から集まった約 20 名(平成 29 年(2017)2 月時点)のグループです。都市と地元住民との農作業を通じた交流活動として、除草、放置田での作付けなどを共同で行っています。石垣や畔の草刈りをすると、棚田の輪郭が浮かび上がり、昔ながらの里山の景色が広がります。平成 29 年(2017)には活動 20 周年を記念した式典が行われました。

**関連情報 <INFORMATION>**

平成 17 年(2005)に景観形成の自主ルールを定めた住民協定が県に認定されました。10 年の協定期間を満了した平成 27 年(2015)には「孫の代まで景観を保全したい」との理由から、新たに 30 年間の協定を締結しています。田和の棚田は、過去には農林水産省の「美の里づくり審査会特別賞」も受賞しています。なお、棚田米は、ほぼ無農薬で作られています。



92	め たか 目高集落手前の道路わき	所在地	佐用町目高
		位置情報	北緯 34度 58分 07.0秒 東経 134度 18分 41.8秒

見える景観	急傾斜地に張り付く目高集落
-------	---------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

目高集落は、中国自動車道佐用 IC から車で南西へ約 10 kmの標高 300m の山頂付近に位置します。

集落とその少し手前の道路の間が谷状になっており、ほぼ車の通らない道路わきから、斜面に張り付くような集落の全容を見ることができます。



**見える景観 <VIEW>**

昭和の初め頃は約 30 軒 140 人が暮らしていた目高集落では、古来から息づく「助け合い精神」のもとに、斜面に沿って開墾された棚田の草刈りや除雪を住民総出で行い、美しい景観の保全に集落全体で取り組んできました。秋になると朝霧が集落の近くまで立ち上り、霧に包まれた山里は幻想的な風景を見せます。特に桜の咲き誇る春には、「桃源郷」と呼ぶにふさわしい風景を見ることができます。

平成 15 年(2003)に「私の好きな兵庫の風景 100 選」に選定されています。

**関連情報 <INFORMATION>**

平成 17 年(2005)、定年後の田舎暮らしの場所を探していた大阪在住の税理士が、訪れた目高集落を一目で気に入り土地と家屋を購入し、「人の幸せを咲かせる村」をつくりたいと平成 19 年(2007)に移住しました。「一般社団法人 利他(りた)の花咲く村」を立ち上げ、奉仕活動地区 4,000 坪と自立活動地区 1,800 坪の合計 5,800 坪の土地で、自給自足と自然再生エネルギーによる共同体「利他村」づくりに取り組んでいます。その取組は、平成 24 年(2012)にテレビ朝日の番組「人生の楽園」でも紹介されました。

同法人のホームページでは、令和元年(2019)に新たに 100 坪の畑を完成させたことが報告されています。



撮影：野村 久雄





# ビューポイント 150 選

## 第 3 章 但馬エリア

---

No.93 ~ 123

# 但馬エリア ビューポイント一覧

No.	市町名	〈ビューポイント〉 から見る 〈見える景観〉	頁
93	豊岡市	田結川河口 から見る 川沿いに建ち並ぶ焼杉板のまちなみ	65
94		但馬海岸道路の御待岬 から見る 日和山海岸と竜宮城のある後ヶ島	
95		城崎温泉街の地藏湯橋 から見る 大谿川沿いの柳並木と太鼓橋	66
96		大師山のロープウェイ山頂駅 から見る 城崎温泉街と円山川	
97		ハチゴロウの戸島湿地管理棟 から見る コウノトリが営巣する湿地	67
98		竹野海岸沿いの道路わき から見る 夜に見る猫崎半島の寝転ぶキューピーさん	
99		港歩道橋 から見る 円山川河口	68
100		竹野川河口 から見る 北前船寄港地・竹野のまちなみ	
101		出石永楽館の裏通り から見る 皿そばで有名な出石城下町のまちなみ	69
102		豊岡市立出石史料館付近 から見る 土壁の酒蔵のあるまちなみ	
103	養父市	旧グンゼ八鹿工場事務所棟前 から見る 交通の要衝として栄えた歴史的まちなみ	70
104		大杉地区の農道 から見る 木造三階建ての旧養蚕農家集落	
105		別宮の大カツラ付近 から見る 別宮の棚田	71
106	朝来市	鉦石の道神子畑ステーション から見る 明延鉦山の神子畑選鉦場跡	72
107		姫宮神社手前の姫宮橋 から見る 生野銀山のトロッコ道	
108		奥銀谷の国道429号付近の市道わき から見る 旧鉦山町のまちなみ	73
109		JR竹田駅裏の虎臥城公園付近 から見る 竹田城下町の寺町通り	
110		立雲 峽 第一展望台 から見る 雲海に浮かぶ「天空の城」竹田城跡	74
111		竹田城跡天守台 から見る 城跡と山と川に挟まれた竹田城下町	
112		矢名瀬の旧山陰道わき から見る 旧宿場町のまちなみ	75
113	余部鉄橋空の駅展望施設 から見る 日本海と余部の漁村集落		
114	香美町	JR 鎧 駅 から見る 鎧漁港と日本海	76
115		香住区県道11号沿いの山番 から見る 訓谷浜	
116		岡見公園 から見る 香住漁港東港と日本海	77
117		小代区の道路わき から見る うへ山の棚田	
118	新温泉町	湯村温泉街の繁栄橋 から見る 春來川沿いの柳並木と温泉街の夜景	78
119		七坂八峠 展望台 から見る 居組漁港と日本海	
120		浜坂県民サンビーチ「松の庭」 から見る クロマツ群と日本海	79
121		城山園地 から見る 諸寄漁港と夕日の風景	
122		味原小径 から見る 西光寺と味原川	80
123		諸寄漁港沿いの道路わき から見る 北前船寄港地の面影を残す建物	

93	たいがわ 田結川河口	所在地	豊岡市田結
		位置情報	北緯 35度38分41.5秒 東経 134度50分39.5秒

見える景観 川沿いに建ち並ぶ焼杉板のまちなみ

ビューポイント <VIEW POINT>

田結川河口は、全但バス「小島」から東へ徒歩約30分の位置にあり、ビューポイントは、河口付近に架かる田結橋上です。平成15年(2003)に県景観条例に基づく「風景型広域景観形成地域」に指定されています。

見える景観 <VIEW>

切妻型の屋根に釉薬をかけた艶のある黒色の瓦葺屋根は、但馬海岸地域の民家の特徴で、外壁の焼杉板が周辺の自然と調和し、落ち着いた景観となっています。

焼杉板は文字通り、杉板材の表面を燃焼により炭化させたもので、耐久性能・防火性能等を高める効果があると考えられています。

但馬海岸地域に点在する漁村は、切妻屋根の小規模な住宅が密集した統一感のある家並み景観の集落を形成し、海辺には、独立あるいは住宅と一体的に造られた舟小屋や漁具納屋が見られ、特徴的な景観を形成しています。また、民家の屋根は、冬期季節風の吹き上げによる被害を防ぐため内陸部より軒の出が浅いのが特徴です。

壁は、総板張りの鎧垣(よろいがき)で造られ、窓は障子戸等に板囲いを設けて二重戸とするなど、吹雪などの厳しい気候に耐える工夫が見られます。

関連情報 <INFORMATION>

但馬海岸地域は、日本海に面し、岬や鼻の突出部と湾入り部が小刻み、かつ急激に出入りする東西約65kmの長さを有するリアス式海岸です。山が海に迫り、激しい波や風による浸食を受けてできた海食崖(かいしょくがい)、洞門(どうもん)、岩礁などの奇岩絶壁の連なる岩石海岸と、主要河川の流下する沖積平野とで構成されています。沖積平野は、約1万年前はほとんど海や入り江であったところで、河川の沖積作用等によって、砂州やトンボロ(陸繋島(りくけいとう))を形成しています。これらと岩石海岸の奇岩及び奇礁とその前に浮かぶ大小無数の島々があいまって、変化に富んだ雄大な全国有数の美しい海岸を形成しています。



94	おまちみさき 但馬海岸道路の御待岬	所在地	豊岡市瀬戸
		位置情報	北緯 35度39分29.6秒 東経 134度49分13.5秒

見える景観 ひよりやま 日和山海岸と 竜宮城のある 後ヶ島

ビューポイント <VIEW POINT>

御待岬は全但バス「日和山(城崎マリンワールド)」から西へ徒歩約13分の距離にある岬です。東側から見ると岬状に突出した地形となっており、海岸には、流紋岩と溶結凝灰岩からなる岸壁がそそり立っています。昭和38年(1963)に「山陰海岸国立公園」に指定され、平成15年(2003)には、県景観条例に基づく「風景型広域景観形成地域」に指定されています。また、平成22年(2010)には、「山陰海岸ジオパーク」に認定されています。

見える景観 <VIEW>

御待岬からは、日和山海岸から丹後半島先端の経ヶ岬(きょうがみさき)までが一望できます。日和山海岸は、波の浸食作用によって形成された海食台(かいしょくだい)が発達しており、海岸線は変化に富んだ景観が見られます。後ヶ島は、御待岬から約350mの距離にある無人島で、昭和25年(1950)に浦島太郎伝説をモチーフにした竜宮城を想起させる東屋(あずまや)が建築されており、朝焼けや夕焼けの時間帯には、幻想的な景観を楽しめます。後ヶ島は、かつて、地元の日和山観光株式会社が「日和山遊園」として観光客を集めていた無人島でもあります。

関連情報 <INFORMATION>

御待岬の付近は、柱状節理(岩石中に発達した、五角形ないし六角形の柱状の割れ目)のある溶岩によって構成された海食崖(かいしょくがい)が海中まで発達しています。

この辺りの海は、対馬海流の影響を受けて平均水温は18度以上、逆に透明度は陸水の影響が少ないため15~25mにも達します。



95	城崎温泉街の地蔵湯橋	所在地	豊岡市城崎町湯島
		位置情報	北緯 35度37分35.3秒 東経 134度48分45.4秒

見える景観	おたにがわ 大谿川沿いの柳並木と太鼓橋
-------	------------------------

### ビューポイント <VIEW POINT>

JR 城崎温泉駅を降りて、木造3階建ての土産物屋が建ち並ぶ駅通りを約300m北上すると、大谿川に突き当たります。ちょうどその交点に架かっている橋が「地蔵湯橋」です。この地蔵湯橋を含め、大谿川にかかる6つの橋は、平成19年(2007)に県景観条例に基づく「景観形成重要建造物」に指定されています。

### 見える景観 <VIEW>

城崎温泉は、円山川(まるやまがわ)の河口近くの、歴史のある著名な温泉です。大谿川が中央を流れ、その両岸約1kmにわたって旅館街が建ち並び、情緒ある湯の町が形成されています。大正14年(1925)の北但大震災で全町が壊滅状態となりましたが、町民の熱意と努力によって現在のまちなみが整備されました。川の柳並木と桜並木、曲線美を持つ石橋群、温泉旅館の建物などが情緒ある温泉街の風景となっています。当温泉は、「外湯巡り発祥の地」ともいわれ、鴻の湯・まんだら湯・御所の湯・一の湯・柳湯・地蔵湯・さとの湯の7つの外湯があります。また、志賀直哉(「城崎にて」を執筆)などの文人墨客の訪れも多く、歴史と文化のある温泉の町としても広く知られています。平成25年(2013)にフランス語圏で発売された「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」に掲載されたことから、近年は外国人観光客が急増し、浴衣を着てそぞろ歩きを楽しむ光景を当たり前のように見ることができます。城崎温泉地区は、平成4年(1992)に県景観条例に基づく「景観形成地区」に指定(その後、市景観条例に基づく地区指定に移行)されています。

### 関連情報 <INFORMATION>

平成27年(2015)1月3日に地蔵湯橋の西側約70mの場所で8棟が全焼する大火災が発生しました。同年2月には被災者、町内会、商工会等による「城崎温泉火災復興協議会」が設置され、再建に際しての景観ルールを策定しました。現在は、火災前と変わらぬ、城崎温泉にふさわしい風情あるまちなみが再生されています。



96	だいしやま 大師山のロープウェイ山頂駅	所在地	豊岡市城崎町湯島
		位置情報	北緯 35度37分21.8秒 東経 134度47分50.2秒

見える景観	まるやまがわ 城崎温泉街と円山川
-------	---------------------

### ビューポイント <VIEW POINT>

大師山のロープウェイ山頂駅は、城崎温泉街からロープウェイで7分のところにあります。昭和37年(1962)に建築された鉄筋コンクリート造2階建ての終点駅舎で、屋上に展望台があります。ロープウェイ山頂駅下車すぐのところにあるカフェでは、城崎温泉を一望できる絶景を眺めながら、和風デザートを味わうことができます。同駅は、乗降場の構造は他の駅舎と同様ですが、西側は陸屋根で展望台を設けています。「国土の歴史的景観に寄与しているもの」として、平成29年(2017)に国登録文化財になっています。

### 見える景観 <VIEW>

屋上展望台からは、豊かな自然に囲まれた城崎温泉街とゆったりと流れる円山川、さらには、その先に広がる日本海まで見事な景観を見ることができます。城崎温泉街は、三方を山に囲まれた谷間に位置し、まちの中心を流れる大谿川(おたにがわ)に沿って、温泉宿やみやげ物店が軒を連ねています。円山川は、生野(いくの)町の円山に源を発する県下屈指の流域面積を誇る河川です。豊岡盆地を経て日本海へと注ぐ下流部では、河川勾配が極端に緩く川幅も広いため、圧倒的な水量を保つ静かな水面で大河の様相を見せてくれます。円山川河口域は、昭和38年(1963)に「山陰海岸国立公園」に、平成15年(2003)に県景観条例に基づく「風景型広域景観形成地域」に指定されています。

### 関連情報 <INFORMATION>

城崎温泉は昔から「但馬の湯」として人々に親しまれてきました。この温泉は、足を傷めたコウノトリが傷を癒やしたことから発見されたと伝えられる「鴻の湯」を始めとして、養老元年(717)にこの地を訪れた道智上人の千日行で湯が湧いたと伝えられる「まんだら湯」などが次々と開湯し、文化4年(1807)江戸時代の儒学者の柴野栗山(しばのりつざん)が奨めてから全国にその名が広く知られるようになりました。



97	としま ハチゴロウの戸島湿地管理棟	所在地	豊岡市城崎町今津
		位置情報	北緯 35度37分06.0秒 東経 134度49分05.0秒

見える景観	コウノトリが営巣する湿地
-------	--------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

ハチゴロウの戸島湿地管理棟は、JR 城崎温泉駅から南東に徒歩約 16 分のところにあります。湿地の管理運営や環境教育を行う施設で、平成 21 年(2009)に開館しました。湿地を一望しながらコウノトリや豊岡の自然について学ぶことができます。

管理者である「コウノトリ湿地ネット」は、湿地の保全・再生や環境学習の充実など人と自然が共生する環境づくりへの功績が認められ、平成 29 年(2017)に「貝原俊民美しい兵庫づくり賞」を受賞しています。

**見える景観 <VIEW>**

ハチゴロウの戸島湿地は、日本海へつながる汽水湿地(淡水と海水が混じり合った湿地)と、農業用水や山裾からの湧水で満たされる淡水湿地から成ります。管理棟の目の前に汽水湿地があり、南端には里山を背にコウノトリの巣塔が立っています。汽水湿地の奥には、起伏ゲート(潮水の逆流を防ぎ、生き物は通ることができる水門)を挟んで淡水湿地が広がっています。

平成 14 年(2002)8 月 5 日に豊岡にやってきた一羽の野生コウノトリは、8 月 5 日にちなで、「ハチゴロウ」と呼ばれていました。コウノトリ野生復帰への歩みを進めていた豊岡にとって、野生コウノトリ「ハチゴロウ」の存在は、「道しるべ」と言えるものでした。「ハチゴロウ」の死後、彼がもたらしてくれた数々の功績を称え、その名を永くとどめおくため、「ハチゴロウ」が愛した湿地は「ハチゴロウの戸島湿地」と名づけられました。

周辺地域では、一度は絶滅したコウノトリを野生復帰させるため、平成 17 年(2005)より放鳥事業が行われ、コウノトリが舞う姿を見ることができるようになりました。こうした取組が認められ、平成 24 年(2012)に「ラムサール条約登録湿地」となりました。なお、この湿地を含む円山川(まるやまがわ)下流域一帯は、平成 9 年(1997)に県景観条例に基づく「風景型広域景観形成地域」に指定されています。



98	竹野海岸沿いの道路わき	所在地	豊岡市竹野町宇日
		位置情報	北緯 35度39分53.1秒 東経 134度47分01.3秒

見える景観	夜に見る猫崎半島の寝転ぶキューピーさん
-------	---------------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

ビューポイントは、北近畿豊岡自動車道日高神鍋高原 IC から北へ車で約 50 分の竹野海岸沿いの道路わきにあります。この道路は、山陰海岸の貴重な地質資源や道路景観整備の取組が認められ、平成 19 年(2007)に「但馬漁火(いさりび)ライン」として「日本風景街道」に登録されています。

**見える景観 <VIEW>**

猫崎半島は竹野川河口に形成された陸繋島(りくけいとう：砂州によって陸地と繋がった島)で、中央部には、標高 141m の賀嶋(かしま)山がそびえ、東西山腹は急傾斜で海に落ち込んでいます。2つの小山からなり、猫の背中に似ていることから「猫崎」の名前がついたといわれています。別名「キューピット半島」ともいわれており、見る角度によっては、キューピー人形が仰向けに寝ているように見えます。6 月から 10 月にはイカ釣り漁船が灯すランプの明かり(漁火)に照らされ、とても幻想的です。

また、京都府丹後の網野海岸からこの竹野海岸を経て鳥取砂丘までの日本海沿岸の 75 km は、昭和 38 年(1963)に「山陰海岸国立公園」に指定され、平成 15 年(2003)にはこの海岸を含む但馬海岸沿岸地域一帯が県景観条例に基づく「風景型広域景観形成地域」に指定されています。また、平成 22 年(2010)には、「山陰海岸ジオパーク」に認定されています。

**関連情報 <INFORMATION>**

猫崎半島の西海岸には、昭和 47 年(1972)に県指定天然記念物になった波食甌穴(はしょくおうけつ)群があります。甌穴は、一般に河床の岩盤に生じたわずかの凹凸に小石が引っかかり、川の流れて小石が回されて、くぼみを大きく深めて穴となったものです。この甌穴群は約 1600 万年前に波の作用によって作られたとされており、約 150 m<sup>2</sup>の岩盤上に、直径約 40cm から 70cm の甌穴が群をなして広がっています。



99	港歩道橋	所在地	豊岡市気比
		位置情報	北緯 35度38分29.3秒 東経 134度49分37.3秒

見える景観	まるやまがわ 円山川河口
-------	-----------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

港大橋は、円山川の河口、全但バス「小島」下車すぐのところにあり、ビューポイントは、港大橋の下流側に架けられた港歩道橋上にあります。  
 港歩道橋は、平成21年(2009)に建設された長さ342mの歩道橋で、円山川で分断された豊岡市港地区の東西を結ぶ橋梁です。  
 港大橋の架橋位置は、昭和7年(1932)から昭和30年(1955)まで県営渡船場があった場所です。当時の地域住民にとって橋は長年の夢であり、昭和30年(1955)に木造橋が架けられたときには、通行が有料であったにもかかわらず、記念碑が建立されたほどでした。  
 現在の港大橋は、昭和42年(1967)に架け替えられたもので、一部を跳開式可動橋(現在は停止)とし、河川の流水へ配慮して、鋼管杭を鋼板で巻いた形状とするなどの工夫がなされています。なお、現在は通行料は無料です。



**見える景観 <VIEW>**

円山川は、水源地の標高が低く流下勾配が緩やかであるため、下流部では非常にゆったりとした大陸的な河川の風貌を漂わせています。中州や河川敷に広がり自然群生するヨシや点在するカワヤナギなどの植物と相まって、倒景(水面に逆さに写った景色)にも優れた川面の風情をつくり出しています。  
 盆地の中を流れ、海側に扇状地がないため、河口域であっても背景に山々のある風景が見られ、冬には墨絵を思わせる美しい雪景色を見ることができます。  
 また、秋から春にかけては、「3日に一度は霧がでる」といわれ、霧による幻想的な風景を見ることができます。  
 昭和38年(1963)に「山陰海岸国立公園」に、平成15年(2003)には県景観条例に基づく「風景型広域景観形成地域」に指定され、同年に「私の好きな兵庫の風景100選」にも選定されています。また、平成22年(2010)には、「山陰海岸ジオパーク」に認定されています。



100	竹野川河口	所在地	豊岡市竹野町竹野
		位置情報	北緯 35度39分36.7秒 東経 134度45分43.4秒

見える景観	北前船寄港地・竹野のまちなみ
-------	----------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

ビューポイントは、JR竹野駅から北へ約1.5kmの竹野川の河口にあります。

**見える景観 <VIEW>**

竹野の町は、塩害に強いとされる焼杉板を張った建物が建ち並び独特なまちなみ景観で有名です。近年、その景観の素晴らしさが認識されるようになり、地域住民らでつくる「豊岡まちなみ連盟」が、平成28年(2016)に地域の歴史風土を学び、まちなみを保全・活用するための「豊岡まちなみゼミ竹野大会」を開催しています。また、翌年の春には、地域の景観を未来に継承するための「まちなみ伝承会」が発足し、同年に、焼板ワークショップ「竹野の伝統技術を伝えよう！」が開催されています。  
 なお、かつては日本海沿岸の海運の中継地として栄えた竹野の町ですが、今は半農半漁の観光の町となっています。



**関連情報 <INFORMATION>**

平成30年(2018)、文化庁が認定する日本遺産『荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～』に、新温泉町が追加認定を受けて話題となりました。江戸時代、但馬では北前船を仕立て、北海道や下関・大阪まで広く廻漕(かいそう)する廻漕業が盛んに行われました。その船数は、弘化2年(1845)の記録によると170艘あり、中でも竹野村(現竹野町)が56艘と最も多かったと記されています。  
 竹野町「北前館」には、復元した天神丸をはじめ、船筆筒(ふなだんす)、磁石など、北前船に関する資料が展示されています。  
 なお、竹野川河口の東方には竹野浜があります。延長約1kmの水のきれいな遠浅の砂浜海岸で、夏には多くの人々が訪れる海水浴場として知られています。



<b>101</b>	いず し えいらくかん <b>出石永楽館の裏通り</b>	所在地	豊岡市出石町田結庄
		位置情報	北緯 35度27分43.9秒 東経 134度52分20.2秒

<b>見える景観</b>	<b>皿そばで有名な出石城下町のまちなみ</b>
--------------	--------------------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

出石永楽館の前身の建物は、明治7年(1874)に出石城二の丸の廃材を用いて造営された農村歌舞伎舞台でした。その後、明治33年(1900)に現在の出石永楽館が新築され、翌年に開館し、歌舞伎をはじめ新派劇や寄席などが上演され、但馬の大衆文化の中心として栄えました。平成26年(2014)に県指定文化財になっています。  
JR豊岡駅から全但バスに乗車、所要時間は約30分です。

**見える景観 <VIEW>**

出石は、今でこそ「皿そば」で有名ですが、以前は城崎までの通過交通路に過ぎなかった町です。昭和37年(1962)に設立した観光協会が、このままではいけないと町民の寄付等により2,300万円を集め、「出石城の隅櫓(すみやぐら)」を復元します。昭和45年(1970)頃には、「皿そば」で町おこしに着手しました。食事の後に、町を散策してもらって土産物の購入につなげようと、まちなみ整備にも取り組みました。昭和58年(1983)には、地元の政治家である齊藤隆夫の記念館・静思堂(せいしどう)が完成します。

歴史的まちなみ保全の必要性から、昭和62年(1987)には当時の県都市景観条例に基づく「都市景観形成地区」(その後、市景観条例に基づく地区指定に移行)の指定を受け、昭和63年(1988)には、行政・専門家・町民による「出石城下町を活かす会」が発足しました。役場も平成5年(1993)以降、「街なみ環境整備事業」による無電柱化や道路の美装化などにより支援を行い、平成19年(2007)には国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されました。こうした経緯を経て、2軒からスタートさせた「皿そば」は、地道な努力により観光の目玉となり、現在の店舗数は約50軒にまで増えています。

なお、出石の中心部は明治初期の大火で消失しましたが、江戸時代の地割の上に切妻平入の伝統的な町家等が建築され、文化7年(1810)の出石城下町絵図の状況をよく維持しており、近代の城下町とでもいうべきまちなみが形成されています。

ビューポイント・見える景観 <VIEW POINT・VIEW>



出石永楽館



<b>102</b>	いず し <b>豊岡市立出石史料館付近</b>	所在地	豊岡市出石町魚屋
		位置情報	北緯 35度27分48.8秒 東経 134度52分32.2秒

<b>見える景観</b>	<b>土壁の酒蔵のあるまちなみ</b>
--------------	---------------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

土壁の酒蔵のあるまちなみは、出石町本町通りの1本北側の通りで、辰鼓楼(しんこうろう)周辺のそば屋街から少し外れたところにあります。同じ地区内にあるもう一つのビューポイントであるビューポイントNo.101「出石永楽館の裏通り」から北東に約500mのところでは。

**見える景観 <VIEW>**

出石のまちなみは、出石城跡や城下町の街路、町人地における敷地の間口など、但馬地方における城下町の歴史的風致を現在に伝えています。明治初期の大火や近年の建替えにより、中心部は現代的な商店街のまちなみとなっていますが、そこから少し外れると、随所に城下町らしさを残しています。本高寺、昌念寺などの寺が建ち並び一郭にある、造り酒屋の酒蔵が右の写真です。上塗りもされていない荒々しい赤土色の土壁(中塗壁)の酒蔵が40m近く続き、出石地区の土壁が「赤壁」であることを印象づけるものとなっています。土壁の赤土色は、出石で採取される粘土の影響と思われる。

赤壁の酒蔵や向かいの軒を並べる平入の町家が、通りの突き当たりにある本高寺の門、石段、見越しの松などと一体となって城下町らしい景観を構成しています。

**関連情報 <INFORMATION>**

豊岡市立出石史料館から南東へ約300mのところ、出石明治館があります。出石明治館は、明治20年(1887)に郡役所として建てられた木造2階建ての洋風建築で市指定文化財です。館内には出石の近世の歴史が展示されています。西洋と日本の建築が混在していた建設当時の面影を色濃く残しており、玄関部分には、古代ギリシアのコリント式柱頭をモチーフにした柱が印象的に配置されています。

ビューポイント・見える景観 <VIEW POINT・VIEW>



撮影：土野 大介

出石明治館



103	ようか 旧グンゼ八鹿工場事務所棟前	所在地	養父市八鹿町八鹿
		位置情報	北緯 35度24分28.9秒 東経 134度46分21.9秒

見える景観	交通の要衝として栄えた歴史的まちなみ
-------	--------------------

### ビューポイント <VIEW POINT>

旧グンゼ八鹿工場事務所棟は、JR八鹿駅から南西方向の養父市役所を目指して約1kmの場所、旧八鹿町の中心に位置します。養父市は隣接する旧工場跡地に新文化会館を建設中であり、令和3年(2021)には、新たな養父市八鹿市街地の顔として多くの人が訪れる場所となる予定です。旧グンゼ八鹿工場事務所棟は、平成28年(2016)に景観条例に基づく「景観形成重要建造物」に指定されています。

### 見える景観 <VIEW>

養父市は、関西地方における近代的製糸工場発祥地の一つといわれています。同市は、住民の生活基盤として古くから養蚕が行われてきた地域ですが、特に養蚕が盛んになったのは、江戸時代末期です。古くから街道や船運、鉄道など交通の要衝地である八鹿地区に、繭が運び込まれ、繭の集積地として各所から多くの人々が集まりました。地区内には繭の仲買人が生まれ、商店が軒を連ねる商業都市として発展しました。

旧街道の緩やかなうねりに沿って「うだつ」を設けた伝統的和風建築の町家や、旧グンゼ八鹿工場事務所棟をはじめとする「大正ロマン」スタイルの建物など、明治・大正・昭和の時代の建物が多く残っており、各時代と共に栄えた商店街の様子を建物を通して見ることができます。

また、地区の中央を流れる八木川沿いから見る景観も、遠くに見える妙見山や山裾の寺社、レンガ造りの煙突が残る酒蔵、低層の和瓦で葺かれた町家が連坦しており、これらの建物の屋根瓦の黒色の中に点在する八鹿瓦の茶褐色の屋根がアクセントとなっています。

八鹿地区は、平成15年(2003)に景観条例に基づく「景観形成地区」に指定(その後、市景観条例に基づく地区指定に移行)されています。旧街道沿いの町家が建ち並ぶ商店街から細い路地を入ると、石垣造りの水路が通り、戦前の住宅地の雰囲気を残すまちなみを見ることができます。背景に山々を前景に八木川を持つ八鹿地区は、自然と歴史の風景の奥行き豊かな町です。



104	大杉地区の農道	所在地	養父市大屋町大杉
		位置情報	北緯 35度19分45.6秒 東経 134度39分02.5秒

見える景観	木造三階建ての旧養蚕農家集落
-------	----------------

### ビューポイント <VIEW POINT>

大杉地区のある大杉区は、JR八鹿(ようか)駅から全但バスで約50分の「瓜原」で下車したところにあります。大杉区の中央を大屋川が西から東へと流れており、川を挟んで北側の約30戸の集落が「大杉地区」、南側の約90戸の集落が「瓜原地区」となります。

南北を標高800m級の山々に囲まれ、東西に細長く伸びた狭い平地の裾野に沿って、集落が形成されています。

### 見える景観 <VIEW>

かつての養父の農家では米作りや畑作のほか養蚕や炭焼きをしていました。明治時代中頃から昭和前半にかけて、養蚕に適した養蚕農家住宅が多く建てられました。養蚕をするために新築や改築をした3階建ての住宅は「3階建て養蚕農家住宅」と呼ばれています。養蚕農家住宅は人間の生活空間と蚕の飼育空間を同じ屋根の下に立体的に収めるため、一般の家ではあまり利用されない屋根裏を高くして、2階・3階部分に蚕棚を設け、換気・通風のための窓が取り付けられています。また、「抜気(ばつき)」と呼ばれる越屋根も多く見られます。

同地区は、その歴史的景観価値が高く評価され、平成13年(2001)に景観条例に基づく「景観形成地区」(その後、市景観条例に基づく地区指定に移行)に指定され、平成29年(2017)には国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されています。

### 関連情報 <INFORMATION>

同地区は、20年以上の歴史を持つ全国公募展「木彫フォークアートおおよ」のグランプリ作品などを常設展示する施設として、旧医師宅を改修・整備した「木彫展示館」を地区で運営するほか、大屋地域で活動するアーティストによるグループ展「うちげえのアートおおよ」を、地区内の古民家などで開催するなど、芸術(アート)と農山村文化の融合による地域活性化にも積極的に取り組んでいます。





105

べっくろ  
別宮の大カツラ付近

所在地 養父市別宮

位置情報  
北緯 35度23分02.3秒  
東経 134度33分19.0秒

見える景観 別宮の棚田

ビューポイント <VIEW POINT>

ビューポイントは、北近畿豊岡自動車道八鹿氷ノ山(ようかひょうのせん)ICから西へ車で約30分のところにあります。

見える景観 <VIEW>

県下最高峰の氷ノ山を正面に望む鉢伏山の中腹(標高約700m)に、山の地形に沿って約130枚の棚田が広がっています。また、棚田の上には県指定文化財の「別宮の大カツラ」があり、約千年前から人々の営みを見守ってきました。

先人が長い年月をかけて、山の地形に沿って築いた棚田は、まさに「日本の原風景」といえる景色と、正面に望む氷ノ山と青空が背景となり、四季折々に美しい姿を見せてくれます。

夏の夜には、月明かりに照らされる氷ノ山の姿と満天の星空が棚田の水面に映り、幻想的な景観を作り出し、冬には積雪により一面の銀世界と化し、雪に覆われた棚田の柔らかな曲線の陰影が周囲の森林と相まって水墨画のような風景が現れます。

関連情報 <INFORMATION>

棚田を見下ろすように佇む「別宮の大カツラ」は、樹高約27m、株周りは約24mの巨木で、昭和40年(1965)に県指定文化財になりました。このカツラの木の根元からは豊富な清水が湧き出ており、下流に広がる別宮の棚田を養っています。

訪れる人の利便性と景観の向上を図るために、付近では平成17年(2005)に駐車場やトイレの整備に併せて、電線類の地中化が行われ、ビューポイントとしてさらに魅力が向上しました。

周辺には鉢伏高原や東鉢伏スキー場があり、夏は登山や林間学校、冬はスキーやスノーボードを楽しむ人々にぎわっています。

ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;



見える景観 &lt;VIEW&gt;



撮影：正中 亮

春の景観



夏の景観



秋の景観



冬の景観



106	みこばた 鉾石の道神子畑ステーション	所在地	朝来市佐囊
		位置情報	北緯 35度14分36.9秒 東経 134度43分02.7秒
見える景観	あけのべ 明延鉾山の神子畑選鉾場跡		

### ビューポイント <VIEW POINT>

「鉾石の道」は、明治中期から昭和62年(1987)の明延鉾山閉山まで、明延鉾山、神子畑鉾山(神子畑選鉾場)、生野(いくの)鉾山の3鉾山を相互に結んで鉾石などを運んだ道です。「神子畑選鉾場」は朝来市佐囊(さのう)に位置し、かつて隣町にあった明延鉾山の選鉾施設として建設された選鉾場です。現在は鉄筋コンクリートの基礎構造物と、選鉾場の上下を結んでいたインクライン(傾斜面にレールを敷いて、動力で台車を動かして貨物を運ぶ装置)の跡が残され、史跡公園「鉾石の道神子畑ステーション」として整備されています。JR新井(にい)駅から全但バス神子畑行きに乗ると、約15分でビューポイント前のバス停「神子畑」に到着します。

### 見える景観 <VIEW>

神子畑は明治11年(1878)に優良な銀鉾脈が発見されて以降、鉾山として稼働していましたが、出鉾量の低下により大正6年(1917)に閉山しました。神子畑選鉾場は、明延鉾山で採掘し破砕された錫等の選鉾場として大正8年(1919)に建設されました。最盛期には東洋一と謳われる選鉾施設となりました。

建屋は木と鉄骨で造られ、屋根はトタン張り、擁壁は石積みやコンクリート造で、幅110m、斜距離165m、高低差約75mで、内部の階層は22段の施設でした。昭和62年(1987)の明延鉾山閉山により、その役目を終え、操業を停止しました。平成16年(2004)には建屋や変電所、鉄工所、事務所などほとんどが解体撤去されました。

### 関連情報 <INFORMATION>

史跡公園には、シックナー(鉾石を分離する水槽)跡があり、フランス人鉾山技術者が住んでいたムーセ旧居や明延から鉾石や従業員を運んだ「1円電車(乗客を数えやすくするため乗車賃を1円とした)」が展示されています。ムーセ旧居の中では、神子畑選鉾場が稼働していたときの模型や写真を見ることができます。周辺には、選鉾過程で不用となった固体粒子の堆積場が間歩谷ダムや鳥ノ奥ダムとして残っています。

ビューポイント・見える景観 <VIEW POINT・VIEW>



シックナー跡



107	ひめみや 姫宮神社手前の姫宮橋	所在地	朝来市生野町口銀谷
		位置情報	北緯 35度09分58.1秒 東経 134度47分38.8秒
見える景観	いくの 生野銀山のトロッコ道		

### ビューポイント <VIEW POINT>

姫宮橋はJR生野駅から北東へ徒歩約10分のところにあります。かつて生野鉾山の精鉾、諸物資輸送のために設置された軌道敷や軌道を支える石造のアーチ橋が現存しています。近年、日本の近代化における土木構造物としての評価が高まっています。

### 見える景観 <VIEW>

写真右手に見えるトロッコ道(トロッコ軌道跡)は、生野の町を走っていた馬車軌道を廃止し、大正9年(1920)に精鉾輸送のための電車専用軌道として建設されたものです。その後、昭和30年(1955)に飾磨港までのトラック輸送が始まると、トロッコ軌道のレールは撤去され、貨物支庫も廃止になりました。

この付近の石積擁壁には、自然の地形に応じた珍しいアーチが見られます。連続するアーチによって壁面にリズムが生まれ、石積擁壁が持つ圧迫感を和らげています。石積擁壁には生野代官所の石垣の石も転用されたとのこと。

昭和11年(1936)頃の写真では、市川を堰き止めてボートを浮かべるなど、当時の生野の優雅な生活が窺い知れます。また、日本海に向かって流れる円山川(まるやまがわ)と瀬戸内海に向かって流れる市川の分水嶺にあたり、自然豊かな河川景観が地域に潤いとやすらぎを与えています。

### 関連情報 <INFORMATION>

トロッコ道のある口銀谷(くちがなや)地区は、平成10年(1998)に県景観条例に基づく「景観形成地区」に指定(その後、市景観条例に基づく地区指定に移行)されており、平成26年(2014)には文化財保護法に基づく「生野鉾山及び鉾山町の文化的景観」に選定されています。生野銀山とともに発展し、古くは但馬の国と播磨の国の接点として栄えた同地区には、数多くの文化財や古刹(こさつ)が残されています。旧生野町の中心地であり、歴史が育んできた鉾山町独特の美しいまちなみが残されています。

ビューポイント <VIEW POINT>



見える景観 <VIEW>



<b>108</b>	おくがなや <b>奥銀谷の国道429号付近の市道わき</b>	所在地	朝来市生野町新町
		位置情報	北緯 35度10分05.2秒 東経 134度48分33.9秒

<b>見える景観</b>	旧鉱山町のまちなみ
--------------	-----------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

JR生野(いくの)駅から北東に約2kmの奥銀谷地区の国道429号付近がビューポイントです。生野街道沿いに広がる鉱山町を土台に、市川沿いの狭い谷合いに密集して鉱山集落が帯状に続いています。

**見える景観 <VIEW>**

生野町は、大同2年(807)に開坑したと伝えられる生野銀山とともに歩んできた町です。本格的に採鉱が始まったのは、室町時代後期の天文11年(1542)とされています。施設の老朽化や地下資源の枯渇により、昭和48年(1973)に閉山し、約1200年間の採掘歴史に幕を閉じました。旧街道沿いに残る古いまちなみには、鉱山の仕事で各地からの人々の往来により影響を受けたと思われる出格子や洋風建築物、鉱山の精製過程で生じる鉱石のクズを固めた「カラミ石」を積んだ擁壁、落ち着いた色合いを見せる赤瓦等が見て取れます。

ビューポイントとなっている奥銀谷地区は、歴史的に労働者住宅や飯場、大規模な社宅群が密集する居住地で、江戸期は吹屋(金属を精錬、鋳造する職人)など手工業による生産現場でした。大規模な社宅群は閉山後に民間に譲渡されましたが、その後、市営住宅として再整備されました。現在、地域内には多くの伝統的建築物と共に、近世からの居住地の景観が引き継がれています。

**関連情報 <INFORMATION>**

閉山後、昭和49年(1974)の史跡・生野銀山の開業以来、体を張って「鉱山(ヤマ)の男」の仕事などを再現している総勢60名のマネキンたちは、生野銀山に来ていただけのきっかけになって欲しいとの願いを込め、平成29年(2017)、行けば会える「超スーパー地下アイドルGINZANBOYZ」としてデビューしました。ミュージックビデオをYouTubeで配信し、生野銀山や朝来市の観光振興に奮闘しています。生野銀山では、全メンバーのサイン付きプロフィール表を用意しています。

ビューポイント・見える景観 <VIEW POINT・VIEW>



GINZANBOYZ



<b>109</b>	とらふす <b>JR竹田駅裏の虎臥城公園付近</b>	所在地	朝来市和田山町竹田
		位置情報	北緯 35度17分52.3秒 東経 134度50分04.3秒

<b>見える景観</b>	竹田城下町の寺町通り
--------------	------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

JR竹田駅裏側すぐの古城山の麓、4つの寺と表米(ひょうまい)神社が並ぶ約600mの区間が「寺町通り」です。穴太(あのを)積み石の垣や白亜の壁が続き、通りに沿って流れる水路は独特の清楚な風情を漂わせています。

**見える景観 <VIEW>**

応仁の乱の雄、山名宗全(やまなそうぜん)が築いたといわれる竹田城は、別名を「虎臥城」といい、織豊(しょくほう)時代に現存する豪壮な石積みの城郭であったと考えられています。

城下町として計画された竹田は、現在もクランク状の道路や巧みに組み合わせられた水路、町割りなどにその形態を残しています。また、播磨と但馬を結ぶ街道の宿駅(30里ごとに置かれた街道沿いの宿場)であり、物資の集散地であったことから、黒系統の瓦、漆喰の白壁や茶色の土壁、丁寧な意匠を凝らした建具など宿場町としての特色も有しています。竹田のメイン通りは、鉄道を挟む東側に、寺町通りと並行して存在し、趣のある古いまちなみを見ることができます。竹田の伝統的なまちなみ様式としては、①うだつが上がっていること、②平入りで2階部分が低く虫籠(むしこ)窓が設置されていること、③正面の付け庇を部屋に取り込み、細かい格子を設置していること、が挙げられます。同地区は、平成10年(1998)に県景観条例に基づく「景観形成地区」に指定(その後、市景観条例に基づく指定地区に移行)されています。

**関連情報 <INFORMATION>**

旧街道には、寛永2年(1625)頃から竹田で酒造りをはじめた旧木村酒造場があります。平成25年(2013)に活用に向けて大幅な改修が行われ、同年に「竹田城下町ホテル EN(えん)」としてオープンしました。店舗兼母屋はホテル、米蔵は店舗、舟蔵はレストラン、貯蔵所は観光案内所と竹田城跡に関する情報館として整備・再生されています。

ビューポイント <VIEW POINT>



見える景観 <VIEW>



<b>110</b>	りつうんきょう <b>立雲峡第一展望台</b>	<b>所在地</b>	朝来市和田山町竹田
		<b>位置情報</b>	北緯 35度16分60.0秒 東経 134度50分29.6秒

<b>見える景観</b>	雲海に浮かぶ「天空の城」竹田城跡
--------------	------------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

立雲峡の登山路をふもとの駐車場からスタートし、最初の第三展望台、次の第二展望台を通過し、登り始めてから約40分でビューポイントである第一展望台に到着します。登山道には、老桜の群生地や竜神の滝があるほか、所々に奇石・巨岩が点在しており、変化に富んだ風景を楽しむことができます。樹齢300年以上といわれる老桜が、自然美の妙を醸し出しており、前面の竹田城跡、眼下の竹田地区のまちなみと併せて桜の名所となっています。

昭和33年(1958)に「朝来郡山県立自然公園」に指定されています。

**見える景観 <VIEW>**

竹田城は、嘉吉(かきつ)3年(1443)に赤松氏に対する山名氏方の最前線基地のひとつとして築城されたと伝えられています。織田方・豊臣方の拠点城郭の時代を経て、慶長5年(1600)、城主赤松広秀が鳥取城攻めで自刃(じじん)したことで廃城となりました。

築城当時は、山頂部から三方に延びる尾根上に曲輪を連続的に配置し、堀切や竪堀で防御性を高めただけの城でしたが、城主赤松広秀の時代に、天守台のある本丸を中心に三方に広がる縄張りを持つ石垣城郭となったとされます。

廃城から400年を経た今もなお、山頂には穴太(あのを)積みを中心とする当時の石垣がほぼそのままの状態に残されており、完存する石垣遺構としては全国屈指のものです。晩秋から冬の早朝に発生する朝霧に包まれ、城が雲海に浮かんで見える姿は「天空の城」と呼ばれています。

平成10年(1998)に県景観条例に基づく「景観形成地区」に指定(その後、市景観条例に基づく指定地区に移行)されています。また、平成15年(2003)に「私の好きな兵庫の風景100選」に、平成18年(2006)に「日本100名城」に選定されています。

平成26年度の年間登城者数は約58万人となり、過去最高を記録しました。



<b>111</b>	<b>竹田城跡天守台</b>	<b>所在地</b>	朝来市和田山町安井
		<b>位置情報</b>	北緯 35度18分01.9秒 東経 134度49分44.6秒

<b>見える景観</b>	城跡と山と川に挟まれた竹田城下町
--------------	------------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

竹田城跡天守台は、JR竹田駅西側の古城山の山頂にあり、駅付近の登山道からは徒歩約40分のところまで。

昭和55年(1980)に石垣復元工事が完了し、映画「天と地と」(主演:榎木孝明)、「あなたへ」(主演:高倉健)の撮影地ともなっています。

**見える景観 <VIEW>**

竹田城は、但馬の守護大名・山名宗全(やまなそうぜん)が嘉吉(かきつ)3年(1443)に築かせたといわれる山城です。太田垣氏が7代にわたり城主を務めました。秀吉の攻略で天正8年(1580)に落城しました。当時の竹田城は、土を造成して造られており、現在のような壮大な石積みの城郭になったのは、慶長5年(1600)の廃城時にごく近い時代で、最後の城主・赤松広秀が築いたといわれています。

標高353.7mの天守台を中央に、本丸、二の丸、三の丸、南千畳、花屋敷などが配され、規模は南北400m、東西100m、現存する遺構としては全国一との折り紙つきです。廃城から約400年を経た今もなお、ほぼそのままの状態に残っています。

竹田城の見せ場は、穴太(あのを)積みを採用した石垣にあります。穴太積みとは、近江国(現滋賀県)坂本を中心に発達した石垣構築法の呼称で、野面(のづら)積み的一种です。「野面積み」とは、加工を施さない自然石をそのまま積んだもので、隙間が多く、一見して粗雑に見えますが、水はけがよく崩れにくいといわれています。

天守台からは山と川に挟まれた竹田城下町や田園風景を見渡すことができます。

**関連情報 <INFORMATION>**

竹田城跡周辺では、秋から冬にかけてのよく晴れた早朝に雲海が発生し、但馬地方の風物詩となっています。雲海に包まれた竹田城跡は、まさに天空に浮かぶ城と呼ぶにふさわしく、この幻想的な風景を一目見ようとたくさんの方が訪れます。



<b>112</b>	やなせ <b>矢名瀬の旧山陰道わき</b>	所在地	朝来市山東町矢名瀬町
		位置情報	北緯 35度18分57.3秒 東経 134度53分05.7秒

<b>見える景観</b>	旧宿場町のまちなみ
--------------	-----------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

ビューポイントは、全但バス「梁瀬学校前」から東へ徒歩約3分のところにあります。矢名瀬は、但馬地方南東部の山東盆地にあり、朝来市山東町の中心地です。周辺に養蚕地帯を控え、旧山陰街道と旧丹波街道が合流する宿駅として発達しました。まちなみは JR 梁瀬(やなせ)駅下車すぐのところから、円山川(まるやまがわ)支流の磯部川に沿った旧街道筋に残っています。

**見える景観 <VIEW>**

旧山陰道には商家が多く、まれに妻入りの町家もありますが、ほとんどが平入りの中二階または本二階で、屋根は切妻造棧瓦葺きの家並みが軒を連ねています。防火のための「本うだつ」(屋根の上についたうだつ)のほか、「袖うだつ」(屋根の軒と1階の下屋庇の間についたうだつ)を付けたものも目に留まります。虫籠(むしこ)窓や格子をきちんと残した家が多いとはいえませんが、統一感のある家並みには、かつての街道筋を思い起こすものが十分に残っています。

また、酒造業も盛んで、「竹泉(ちくせん)」という銘柄の地酒を醸造している「田治米合名会社酒造場」は令和2年(2020)に県景観条例に基づく「景観形成重要建造物」に指定されており、まちなみに変化を与えています。

**関連情報 <INFORMATION>**

美濃市や旧中山道沿いに見られる「本うだつ」は規模や立派さでは劣りますが、南但馬の旧山陰道沿いには多く残っています。特にこの地域に残るものは、数では日本有数と思われます。また形態的にも連棟状態のものばかりでなく単独のものも多く、実務的というよりもむしろ「うだつが上がらない」といわれるように、ステータスシンボルとして上げられている様子が伺えます。

ビューポイント・見える景観 <VIEW POINT・VIEW>



「うだつ」のある町家



<b>113</b>	あまるべ <b>余部鉄橋空の駅展望施設</b>	所在地	香美町香住区余部
		位置情報	北緯 35度38分57.1秒 東経 134度33分29.9秒

<b>見える景観</b>	日本海と余部の漁村集落
--------------	-------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

余部鉄橋「空の駅」展望施設は、JR 余部(あまるべ)駅下車すぐのところにあります。約100年間山陰本線の運行を支えてきた旧余部鉄橋の歴史を後世に継承し、人々の交流を促す観光拠点として、平成25年(2013)に旧鉄橋の一部(余部駅側の3橋脚3スパン)を残して整備された展望施設です。

旧余部鉄橋では、昭和61年(1986)に突風による列車転落事故が発生し、6人が亡くなりました。事故防止策として運転風速が抑制(25m/s→20m/s)されましたが、その後も強風による列車の運休や遅延が頻発したことから、平成14年(2002)にJR西日本が鉄橋の架替えを決定しました。しかし、その後、同鉄橋が「日本の近代土木遺産」に指定されるなど評価が高まったことから、旧鉄橋の一部を現地保存し、展望施設「空の駅」として活用することとなりました。

展望施設は主に、①旧軌道部、②展望施設部、③余部クリスタルタワー(昇降路設備)で構成されており、エレベーターを利用すると、地上高さ約40mの展望施設まで約45秒で上ることができます。

平成15年(2003)に「私の好きな兵庫の風景100選」に選定されています。

**見える景観 <VIEW>**

空の駅では、全面ガラス張りのエレベーターで上に行くと、余部鉄橋の3本の橋脚を利用した展望施設から、足元に広がる黒屋根の集落群と山陰海岸の美しい風景を眺めることができ、タイミングが合えば、列車が通過する余部橋梁の姿を見ることがもできます。

但馬海岸地域は、平坦地の少ない岩石海岸で、半農半漁の小規模な海村が形成されています。江戸中期から明治末期にかけて北前船など廻漕(かいそう)業で栄え、今なお漁港を中心とした市街地が形成されていて、風情ある家並みが見られます。

平成15年(2003)に県景観条例に基づく「風景型広域景観形成地域」に指定されています。

ビューポイント <VIEW POINT>



見える景観 <VIEW>



114	よろい JR鎧駅	所在地	香美町香住区鎧
		位置情報	北緯 35度39分06.2秒 東経 134度34分32.4秒

見える景観	鎧漁港と日本海
-------	---------

### ビューポイント <VIEW POINT>

JR 鎧駅は、鎧漁港を見下ろす標高 50m 余りの高台にある明治 45 年(1912)に開設された駅です。現在は無人駅となっています。ビューポイントは、地下通路を抜けた旧 1 番線ホームの北側にある広場にあり、海に向けてベンチが設置されています。

「青春 18 切符」のポスターや朝の連続ドラマ「ふたりっ子」、ドラマ「砂の器」の撮影にも使われ、鉄道ファンの間でも人気が高く、駅には、訪れた人が自由に書き込める駅ノートが設置されています。

### 見える景観 <VIEW>

鎧漁港は、入江状の地形が風よけとなった天然の良港です。高台から見下ろす日本海は、海底が見えるほど透明度が高く、端午の節句頃には、鎧漁港に約 200m にわたって鯉のぼりが飾られ、青い海をバックに潮風を受けて爽快に泳ぐ姿が見られます。

昭和 38 年(1963)に「山陰海岸国立公園」に、平成 15 年(2003)には県景観条例に基づく「風景型広域景観形成地域」に指定され、平成 22 年(2010)には、「山陰海岸ジオパーク」に認定されています。

また、JR 鎧駅から見える風景は、平成 30 年(2018)「香美町観光ポスター(ストーリーのあるまち)」に採用され、第 66 回日本観光ポスターコンクールで総務大臣賞を受賞しています。

### 関連情報 <INFORMATION>

鎧駅と鎧漁港を結ぶ斜面には、昭和 26 年(1951)頃に設置されたインクライン(魚類運搬用の軌道)跡が残っています。これは、車の通行が可能な道ができるまで、外部との交通手段は船と列車しかなかったため、港で水揚げされた魚介類を約 50m 上の駅まで効率的に運び上げ、貨物列車で出荷するために設置されたものです。



115	かすみ 香住区県道 11 号沿いの山番	所在地	香美町香住区訓谷
		位置情報	北緯 35度39分14.9秒 東経 134度41分44.8秒

見える景観	くんだにはま 訓谷浜
-------	---------------

### ビューポイント <VIEW POINT>

ビューポイントである「山番」は、JR 佐津駅から県道 11 号沿いに東へ約 1 km のところにあります。道路沿いに「山番」という展望塔(魚見台)が復元されており、そこからは陸繋島(りくけいとう)である嶋山と砂州で構成される訓谷浜が一望できます。

訓谷浜では、昔はハマチやイワシの地曳網が行われていました。かつては「山番」に、海面で跳ねる魚群を見つけて村人達に旗を振って大声で知らせる見張り番が詰めており、冬の寒い時期にはこの山番の中で暖をとっていました。

### 見える景観 <VIEW>

訓谷浜は、佐津(さつ)海岸を構成する海岸線の一部です。「佐津海岸」は、旧佐津村(現在の香美町香住区)の海岸線全域の総称で、東の相谷(あいだに)に始まり、安木、訓谷、無南垣(むながい)と続きます。この海岸は、洞門や島や岸壁の色彩が強烈で、赤褐色に彩られた景観は、山陰海岸国立公園の中でも特殊なゾーンといえますが、この訓谷浜は、佐津海岸には珍しい白砂青松(はくしゃせいしょう)の浜です。

佐津周辺では、海面上昇による谷の沈水でできた入り江に佐津川が運んできた土砂が堆積、リアス式の海岸部の砂州上に集落ができ、上流の後背湿地と谷沿いに水田が作られました。長さ 550m の砂浜は、香住にある海水浴場の中で、最も砂浜の広い海水浴場(佐津海水浴場。地元では「訓谷海水浴場」と呼ばれる。)となっており、真っ白な砂浜とエメラルドグリーンの海が特徴です。岩場もあり、磯遊びや海の生き物観察もできるので、自然学校やサークルの合宿地としても利用されています。

### 関連情報 <INFORMATION>

県道 11 号香美久美浜(かみくみはま)線は、豊岡市気比(けひ)から香美町を経て、新温泉町居組(いぐみ)を結ぶ日本海沿いを走る主要道路の一部です。「但馬漁火(いさりび)ライン」として、県で初めて「日本風景街道」に選定された道路で、美しい海岸風景が楽しめるドライブコースになっています。



<b>116</b>	<b>岡見公園</b>	所在地	香美町香住区一日市
		位置情報	北緯 35度39分01.3秒 東経 134度37分50.8秒

<b>見える景観</b>	かすみ 香住漁港東港と日本海
--------------	-------------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

岡見公園は、JR香住駅から北へ徒歩約30分のところにあり、香美町香住区の香住海岸から北に突き出た「城山半島」と呼ばれる岬の先端に位置する公園です。地元では「香住一の眺望」が楽しめる絶景展望スポットとして有名です。山陰海岸国立公園内にあり、この公園を中心とした香住海岸は、国の名勝にも指定されています。江戸時代には廻船(北前船)の日和山(ひよりやま：船乗りが出航を判断するために天候予測のために利用した山)の役割も担っていました。

町の中心部にあるこの公園は、昔、離島であった市杵島(いつきしま)が、矢田川と香住谷川の流れが運んだ土砂によって陸続きの半島のようにになりました。市杵島は周りの地層に安山岩類の岩脈が貫通した断崖のため、柱状節理(割れ目)が見事です。



ビューポイント <VIEW POINT>

**見える景観 <VIEW>**

巨大な石灯籠がある北に開けた展望広場からは、今子浦(いまごうら)の沖に浮かぶ白石島と日本海を一望でき、一段下がった西側は眼下に紺碧の海と洞門、リアス式海岸、遠くには岬と、名勝香住海岸を縦に見ることができます。日本海特有の荒波に浸されてできた数々の奇岩や、洞門を有する連続する断崖は必見です。

また、香住海岸の夕陽は、平成17年(2005)にNPO法人日本列島夕陽と朝日の郷づくり協会が選定する「日本の夕陽百選」にも選ばれています。夏から秋までは、イカ釣り船の漁火(いさりび)も幻想的で、多くの写真愛好家の撮影スポットとなっています。



見える景観 <VIEW>

**関連情報 <INFORMATION>**

岡見公園では、春は桜、夏は香美町の町花でもある野生のユウスゲの開花が見られます。ユウスゲは、ススキノ科の多年草で、ラッパ状の黄色い可憐な花を一齐に咲かせますが、夕方に開花し、翌朝には閉じてしまいます。開花時期である7月～8月頃に行くと、夕陽とユウスゲの両方を楽しむことができます。

<b>117</b>	<b>おじろ 小代区の道路わき</b>	所在地	香美町小代区貫田
		位置情報	北緯 35度26分28.8秒 東経 134度31分31.0秒

<b>見える景観</b>	うへ山の棚田
--------------	--------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

ビューポイントのある香美町小代区貫田(ぬきだ)地区へは、JR八鹿(ようか)駅から全但バス秋岡行きに乗車し、貫田停留所で下車、徒歩約30分です。斜面に建ち並ぶ貫田集落を抜けて山中を上がると、右手の道路下面に棚田が見えてきます。

**見える景観 <VIEW>**

貫田地区に位置する棚田は、39枚、3.1haと規模はさほど大きくないものの、斜面に畦が独特なカーブを幾重にも描き、前面に眺望が開けていること、休耕田がほとんどなくよく管理されていることなどが評価され、「日本の棚田百選」に選定されました。地すべり地をうまく活用した棚田であるため、山陰海岸ジオパークにおけるジオサイトの一つとなっています。

香美町小代区は「日本で最も美しい村」連合にも加盟しています。

**関連情報 <INFORMATION>**

「うへ山の棚田」は、全国の黒毛和牛のほぼすべてを子孫とする名牛「田尻」号が生まれ育った場所です。平成24年(2012)、公益社団法人全国和牛登録協会の調査で、全国の黒毛和牛の繁殖メス牛は、99.9%の比率で「田尻号」という一頭の但馬牛の種オス牛の子孫であることが証明されました。このことから、生まれてくるほとんどの日本の黒毛和牛は「田尻号」の子孫ということになります。

但馬牛は、小柄で小回りがきくことから、もともと田畑を耕すために飼われていました。しかし、えさの草刈りや牛舎の掃除で管理が大変なため、田植えの時期が終わると、昼間は集落から離れた山の上の放牧場で飼われていました。村岡区では標高900m、小代区では集落から4km、標高500mの場所で放牧されていたそうです。

また、「兵庫美方地域の但馬牛システム」が平成31年(2019)に日本農業遺産に認定されました。



ビューポイント <VIEW POINT>



見える景観 <VIEW>

<b>118</b>	<b>湯村温泉街の繁栄橋</b>	所在地	新温泉町湯
		位置情報	北緯 35度33分20.9秒 東経 134度29分16.0秒

<b>見える景観</b>	はるきかわ 春來川沿いの柳並木と温泉街の夜景
--------------	---------------------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

JR 浜坂駅から「湯村温泉」行きの町民バスに乗ると、約 25 分で温泉街に着きます。終点のバス停から春來川に向かって南東方向に徒歩 4 分、約 300m の位置に繁栄橋があります。

**見える景観 <VIEW>**

湯村温泉は、近世には近郷・近在の湯治場として繁栄しました。大正 7 年(1918)の県の湯客調べによると、当時は、城崎、有馬の両温泉を凌ぐ客数を記録しています。地区内には岸田川水系の春來川が合流し、この合流点を中心に主要な観光スポットが存在しています。地区内を直線的に見渡せる場所として、この春來川が良好な景観形成に寄与しています。近年、この川がつくる景観を生かし、春來川に架かる橋のライトアップ事業や河川改修による遊歩道の整備事業など、景観に配慮した取組を行っています。同地区は、平成 18 年(2006)に県景観条例に基づく「景観形成地区」に指定されています。

**関連情報 <INFORMATION>**

湯村温泉の泉質はナトリウム泉で、神経痛・関節痛などに特に効能があります。源泉である荒湯は、98 度の高温で 1 分間に約 415L を湧出し、常に湯煙をあげて川に流れ込んでいるほど湯量も豊富です。  
荒湯には円仁(えんにん：贈り名は慈覚大師)を祀った薬師堂があり、付近には昭和 56 年(1981)のテレビドラマ「夢千代日記」で一世を風靡した「夢千代像」や共同浴場「薬師湯」、県指定文化財の「不動明王」を持つ正福寺、見事な「しだれ桜」のある泰運寺といった多くの見どころがあります。「清正公園」からも湯村の街が一望でき、おすすめのビューポイントとなっています。



<b>119</b>	ななさか や とうげ <b>七坂八峠展望台</b>	所在地	新温泉町居組
		位置情報	北緯 35度36分42.2秒 東経 134度23分11.2秒

<b>見える景観</b>	いぐみ 居組漁港と日本海
--------------	-----------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

七坂八峠展望台は、山陰近畿自動車道浜坂道路新温泉浜坂 IC から西へ車で約 13 分のところにあります。新温泉町の居組から鳥取県岩美町陸上(くがみ)に続く峠の海岸線は、急カーブや急勾配が続くことから「七坂八峠」と呼ばれ、昔から交通の難所として知られていました。その居組に平成 25 年(2013)、駐車場を備えた「七坂八峠展望台」が完成しました。展望台には、駐車場のほか、ベンチとカメラ台を設置した展望スペースが設けられています。

**見える景観 <VIEW>**

国道 178 号と県道香久美浜(かみくみはま)線などを中心とする山陰海岸国立公園沿いは、豊かな地域の特性と観光資源を有するエリアです。断崖上を走りながら、日本海や漁港などを見下ろすリアス式海岸に沿った道路は「但馬漁火(いさりび)ライン」として、日本風景街道に選定されています。特にヘアピンカーブとなっている「七坂八峠」からの眺めは素晴らしく、ドライブやツーリングに高い人気があります。山陰海岸国立公園には国指定天然記念物の「鎧(よろい)の袖」をはじめ、洞門や洞窟、奇岩など貴重な地質資源があり、日本の夕陽百選である「今子浦(いまごうら)」をはじめ、日本の渚・百選に選ばれている「竹野浜」など数多くの美しい海岸風景が連なっています。6 月から 10 月の間に、イカ漁船が灯すランプの明かり「漁火」が見られることが、「但馬漁火ライン」の名称の由来です。

**関連情報 <INFORMATION>**

山陰海岸国立公園に属する東西 50 km の但馬海岸全てが、平成 20 年(2008)に地層・岩石・断層など地球活動の遺産を見所とする自然公園「山陰海岸ジオパーク」に認定されています。約 2,500 万年前に遡る日本海形成に関わる火成岩類や地層、日本海海面変動や地殻変動によって形成された海岸地形など、貴重な地形・地質遺産を数多く観察できることが最大の特徴です。





<b>120</b>	<b>浜坂県民サンビーチ「松の庭」</b>	所在地	新温泉町浜坂
		位置情報	北緯 35度37分39.6秒 東経 134度26分55.2秒
<b>見える景観</b>	クロマツ群と日本海		
<p><b>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</b></p> <p>浜坂県民サンビーチは、JR 浜坂駅から北に徒歩約 20 分の距離にある山陰海岸国立公園(世界ジオパークに認定)の中にある海水浴場です。 ここでは海水浴を楽しみながらキャンプも楽しむことができます。</p> <p><b>見える景観 &lt;VIEW&gt;</b></p> <p>浜坂のクロマツ群は、新温泉町の浜坂県民サンビーチ(浜坂海岸)に南北に約 100m、東西に約 450m にわたり広がる松林で、「松の庭」と呼ばれています。 浜坂の沿岸部では、日本海からの厳しい潮風や飛砂(ひさ)により、家屋や農作物への被害が絶えませんでした。このため、昭和 7 年(1932)から行政や住民によるクロマツの植樹が始まり、7 年の歳月をかけて約 12ha の松林になりました。その後、隣接する浜坂漁港の整備や道路の拡幅等により、約 4 ha まで縮小されてしまいましたが、飛砂防備保安林として、町を守り続けています。 現在、次代の樹木群を構成する若木も植栽しており、合わせて約 7,500 本ものクロマツが生育しています。浜坂のクロマツ群は、眼前に広がる砂浜とともに、「日本の白砂青松 100 選」にも選定されています。また、このクロマツ群は、平成 29 年(2017)に県景観条例に基づく「景観形成重要樹木」にも指定されています。</p> <p><b>関連情報 &lt;INFORMATION&gt;</b></p> <p>浜坂県民サンビーチは、平成 20 年(2008)に同町内の「城山園地」、「味原小径(あじわらこみち)」、「バイカモ公園」とともに、社団法人日本観光協会の後援により NPO 法人地域活性化支援センターが実施する「恋人の聖地」に選定されています。</p>		<p><b>ビューポイント・見える景観 &lt;VIEW POINT・VIEW&gt;</b></p>  <p><b>浜坂県民サンビーチ</b></p> 	

<b>121</b>	<b>城山園地</b>	所在地	新温泉町芦屋
		位置情報	北緯 35度37分29.5秒 東経 134度26分13.0秒
<b>見える景観</b>	もろよせ 諸寄漁港と夕日の風景		
<p><b>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</b></p> <p>諸寄海岸の東端から浜坂方面へ歩いて行くと、まず小さな峠にかかります。この芦屋坂を上っていくと、頂上近くの海側に「城山」と呼ばれる標高 140m の山地が見えます。城山園地は、JR 浜坂駅から町民バスに乗り、「城山公園」で下車し、坂道を徒歩で約 10 分登ったところにあります。</p> <p><b>見える景観 &lt;VIEW&gt;</b></p> <p>城山園地の展望台に立つと、諸寄湾が一望できます。諸寄港は北へ開いた湾口から西へ奥まった場所にあるため、風待ち・潮待ちの天然の良港として、北前船の寄港地として発展した港です。付近では、「但馬うらにし」と呼ばれる季節風が吹く秋から冬にかけて、荒れた海から逃れるために諸々の船が集まってくるのが、「諸寄」のいわれという説もあります。 冬場には荒海となる日本海も、それ以外の季節では、日中は陽光が海面に静かに反射する穏やかな表情、夕方にははるか遠くの水平線に沈む夕日が空と海をオレンジ色に染めるロマンチックな表情を見せます。</p> <p><b>関連情報 &lt;INFORMATION&gt;</b></p> <p>城山園地は、戦国期、塩冶(えんや)氏が拠点とした山城芦屋城のあったところ。現地案内板には、「芦屋城は、戦国時代の武将・塩冶周防守(すおうのかみ)が居城にしていた城で、周囲を断崖絶壁に囲まれた地形は、天然の要塞となっており、海上交通を押さえるために築かれた城である。芦屋城は、天正 8 年(1580)、羽柴秀吉が但馬を攻めたとき落城した。城主・塩冶周防守は、鳥取城主・吉川経家を頼り、翌年、羽柴秀吉が鳥取城を攻めたとき、再び鳥取の雁金(かりがね)城と丸山城で戦ったが、いずれも落城し、自決した。昭和 59 年(1984)、発掘調査が本丸部分について行われ、建物跡や青磁・白磁・天目茶碗、古銭・硯などが多数出土した。」と書かれています。</p>		<p><b>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</b></p>  <p><b>見える景観 &lt;VIEW&gt;</b></p> 	

122	あじわら こみち <b>味原小径</b>	所在地	新温泉町浜坂
		位置情報	北緯 35度37分29.5秒 東経 134度27分15.0秒
見える景観	さいこうじ <b>西光寺と味原川</b>		
<p><b>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</b></p> <p>味原小径は、JR 浜坂駅から北へ徒歩約6分のところにあります。平成26年(2014)に新温泉町により味原川沿いに整備された全長678mの遊歩道で、観光客の散策スポットのみならず、地域住民の生活道路としても利用されています。</p> <p><b>見える景観 &lt;VIEW&gt;</b></p> <p>西光寺は、文久3年(1863)に建築された木造2階建ての寺院で、江戸時代のもので伝えられている石垣や土塀、レンガ塀が残る味原川沿いの中心的な建築物です。周囲から突出した本堂の瓦屋根が地域のランドマークとなっており、平成18年(2006)に県景観条例に基づく「景観形成重要建造物」に指定されています。</p> <p>味原川はホタルが生息する自然豊かな川で、遊歩道からは、東に広がる田園風景とその向こうの山々の景色や対岸の石垣を楽しむことができます。味原川の下流には船溜りなど、かつての港をしのばせる風景が残っており、古くから残る石垣、各所に残る洗い場、川へと下る坂道、点在する水神さまを祀ったほこらなど、味原川を中心に浜坂独特の風景が広がります。</p> <p>浜坂味原川周辺地区は、平成20年(2008)に県景観条例に基づく「景観形成地区」に指定されています。また、平成15年(2003)には同地区を含む但馬海岸沿岸域一体が同条例に基づく「風景型広域景観形成地域」に指定されています。</p> <p><b>関連情報 &lt;INFORMATION&gt;</b></p> <p>JR 山陰本線の香住～浜坂間は、難工事の末、明治45年(1912)に開通しました。工事のために、何千人もの労働者が各地から集められましたが、工事の犠牲者も多く出ました。西光寺の敷地北側のレンガ塀は、山陰本線のトンネル工事で亡くなった朝鮮半島出身の労働者の方々の民族の区別なく弔った西光寺住職に対するお礼として、関係者が工事で余ったレンガを持ち寄り築造されたといわれています。</p>		<p><b>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</b></p>  <p><b>見える景観 &lt;VIEW&gt;</b></p>  <p>撮影：味原川清流会</p>	

123	もろよせ <b>諸寄漁港沿いの道路わき</b>	所在地	新温泉町諸寄
		位置情報	北緯 35度37分16.1秒 東経 134度25分40.3秒
見える景観	北前船寄港地の面影を残す建物		
<p><b>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</b></p> <p>諸寄漁港は、JR 諸寄駅すぐ近くの小さな湾内の漁港です。ビューポイントNo.121「城山園地」の真正面に向かい合う位置にあります。漁港の西側には大きな沖堤防と赤灯台があり、流れ込みを挟んで東側にさらに1本堤防があります。魚の釣れるポイントも多く、人気の釣り場になっています。</p> <p><b>見える景観 &lt;VIEW&gt;</b></p> <p>諸寄港は、湾内に位置することから江戸中期から明治初期にかけての日本海海運(西回り航路)の重要な風待ち・潮待ちの港でした。「諸寄まち歩きマップ」によると、諸国から様々な人や産物が集まる事から「諸寄」と呼ばれるようになったとのことです。</p> <p>集落内には、外壁を写真のような「彫子(ささらこ)下見板張り」で仕上げた住戸を多く見ることができます。なお、「彫子」とは、下見板に縦に打ち付けられる押縁の役割を果たす角材のことです。</p> <p><b>関連情報 &lt;INFORMATION&gt;</b></p> <p>平成30年(2018)、『荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～』として新温泉町が「日本遺産」に追加認定されました。集落内には、日本遺産の構成文化財となっている北前船航行時に営まれた廻船問屋が点在しています。これらの廻船問屋は、北前船により財をなし、地域の伝統文化などに財政支援を行っていました。その一つ「東藤田」の屋号で知られた旧廻船問屋の邸宅は、現在はゲストハウスや多目的施設として利用されています。</p> <p>また、諸寄は明治期に活躍した教育者や歌人、日本画家の谷角日沙春などを輩出しており、顕彰する石碑が見られます。</p>		<p><b>ビューポイント・見える景観 &lt;VIEW POINT・VIEW&gt;</b></p>  <p><b>谷角日沙春の石碑</b></p> 	

# ビューポイント 150 選

## 第 4 章 丹波エリア

---

No.124 ~ 136

## 丹波エリア ビューポイント一覧

No.	市町名	〈ビューポイント〉 から見る 〈見える景観〉	頁
124	丹波篠山市	篠山城跡の天守台 から見る 丹波富士と称される高城山 <sup>たかしるやま</sup>	83
125		河原町妻入商家群の通り から見る 妻入商家の古いまちなみ <sup>かわらまちつまいり</sup>	
126		武家屋敷安間家史料館前 から見る 茅葺門の武家屋敷群 <sup>あんまげ</sup>	84
127		兵庫陶芸美術館の展望デッキ から見る 上立杭集落と里山 <sup>かみたちくい</sup>	
128		上立杭地区「最古の登り窯」前 から見る 丹波焼の登り窯と落葉広葉樹の里山 <sup>かみたちくい</sup>	85
129		丸山公民館前 から見る 古民家の宿で注目を浴びる丸山集落	
130		安口東倶楽部(公民館)前 から見る 農村家屋の残る福住のまちなみ <sup>はだかす</sup>	86
131	味間奥地区の農道 から見る 新緑の茶畑 <sup>あじまおく</sup>		
132	丹波市	黒井城本丸跡 から見る 丹波の山々と雲海	87
133		川代公園の遊歩道 から見る 川代公園を流れる篠山川に架かる吊り橋 <sup>かわしろ</sup>	
134		かいばら観光案内所付近 から見る 大ケヤキがつくる自然の橋「木の根橋」	88
135		丹波の森公苑 生活創造センター前 から見る 芝生広場と背後の山々	
136		やぐら公園付近の道路わき から見る 城下町の面影を残す古いまちなみ	

<b>124</b> 篠山城跡の天守台	所在地	丹波篠山市北新町
	位置情報	北緯 35度04分22.2秒 東経 135度13分06.3秒

見える景観	丹波富士と称される高城山 <sup>たかしろやま</sup>
-------	--------------------------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

篠山城跡は、JR 篠山口駅より神姫グリーンバスで15分の「二階町」から南へ300mのところにあります。

慶長14年(1609)に徳川家康の命により天下普請で築かれた天守台からは、篠山川を経て篠山盆地東部に浮かぶ丹波富士の高城山(八上城跡、標高459m)を見ることができます。池田輝政を普請奉行(総監督)、藤堂高虎を縄張奉行(設計者)とし、大坂城の豊臣氏と西国大名の抑えとして築城されました。なお、天守は築かれませんでした。

初代城主は、家康の実子とされる松平康重、明治維新まで松平氏3家8代、青山氏6代が襲封(しゅうほう)しました。

篠山城の代表的建物であった大書院は、昭和19年(1944)に焼失しましたが、市民の熱願と寄付によって平成12年(2000)に復元されました。一大名の書院としては、破格の規模と古式の建築様式を備えた大規模な木造建築で、篠山城に関する資料が展示されています。

昭和31年(1956)に国指定史跡になった城跡は、桜の名所としても知られています。

**見える景観 <VIEW>**

篠山盆地に浮かぶ丹波富士の高城山は、戦国期に多紀郡(現丹波篠山市)を覇した波多野氏の八上城跡です。天正3年(1575)に織田信長の命を受けた明智光秀が攻め入った激戦地としても知られています。光秀の後、秀吉配下の前田玄以(まえだけんい)、茂勝が治め、慶長13年(1608)には松平康重が入城しています。波多野氏は山麓に城下町を築いたといわれており、その後の篠山城下町の社寺や商家の大半は、八上城下から移したものです。これらことから、篠山城跡から見える丹波富士を愛でる景観は、新しい江戸期の城下町から中世の旧城下と山城、すなわち、戦国期覇権を争った新旧の歴史的ロマンを秘めた景観といえます。

秋には、丹波霧が晴れゆく中で高城山の稜線が徐々に浮かび上がる幻想的な風景を見ることができます。



<b>125</b> かわらまちつまいり 河原町妻入商家群の通り	所在地	丹波篠山市河原町
	位置情報	北緯 35度04分17.9秒 東経 135度13分26.5秒

見える景観	妻入商家の古いまちなみ
-------	-------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

河原町妻入商家群の通りは、JR 篠山口駅から神姫グリーンバス「本篠山」下車すぐのところにあります。

慶長15年(1610)からまちづくりが始まった、篠山城下町東側の篠山川沿いに配された京都に向かう旧京街道(旧山陰街道)の両側には、国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定された「摂丹型」と呼ばれる妻入商家の連なるまちなみが残っています。

河原町は地名の通り、かつては篠山川の河原であったところを城下建設に際して川筋を南に移し、街道を通して造成した領域です。城下町の東の玄関口にあたり、江戸時代には舟運も利用できたため、篠山城下を代表する繁華街として栄えました。

今も篠山川に架かる京口橋から立町にかけて約1kmにわたり、往時を偲ばせる格子戸と下屋(軒屋根)の連なる商家のまちなみが色濃く残っています。

**見える景観 <VIEW>**

河原町のまちなみは、間口2間半~4間、奥行き7間~10間あまりの細長い短冊状の敷地に、厨子(つし)二階の妻入りの町家を主体に、平入りが混在する格子戸と下屋(軒屋根)の連続するまちなみが保全されています。

平成16年(2004)に国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されて以降、毎年数件ずつ、計画的に町家の修復整備が行われており、平成29年(2017)からは電線地中化も進められています。近年では古民家の空き家活用も行われており、おしゃれなカフェや宿泊施設等の店舗も増えています。

**関連情報 <INFORMATION>**

通りの北側に位置する観音寺は、城下の建設に際して八上城下から移したものです。本経寺の西側の王地山の裾部には、かつて篠山藩主の青山忠裕(あおやまただやす)が焼かせた御庭焼(おにわやき)の王地山焼(おうじやまやき)の窯があり、昭和63年(1988)に王地山陶器所として復元再興されました。



<h1>126</h1>	<small>あんまけ</small> <b>武家屋敷安間家史料館前</b>	<b>所在地</b>	丹波篠山市西新町
		<b>位置情報</b>	北緯 35度04分21.0秒 東経 135度12分51.3秒

<b>見える景観</b>	<small>かやぶき</small> <b>茅葺門の武家屋敷群</b>
--------------	---

**ビューポイント <VIEW POINT>**

武家屋敷安間家史料館は、JR篠山口駅から神姫バスで約15分の「二階町」から徒歩約15分のところにあり、篠山城の西側堀端の通りから一筋西の南北の通りの西側に面した施設です。

安間家の位置する通称「御徒士町(おかちまち)」は、平成16年(2004)に国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定され、南北の通りに沿って茅葺の門と主屋を主とした約20棟の武家屋敷が残っています。

安間家は、篠山藩主青山家の家臣で、「高12石3人扶持」の禄を食(は)む下級武士の屋敷で、御徒士町では標準的な規模です。

天保元年(1830)以降に建てられ、茅葺の門と中門造(本棟に直行した小棟をL字形につけた屋根形式)と呼ばれる主屋に瓦葺の土蔵が残り、屋敷の裏手を竹林で包む竹まいは、丹波篠山の武家屋敷特有のものであります。

史料館は、安間家伝来の資料と共に日常用いられた食器や家具、篠山藩ゆかりの武具や資料等を展示しており、屋敷と共に往時の武家の暮らしを伝えています。平成6年(1994)に町指定文化財になり、翌年から史料館として一般公開されています。

ビューポイント・見える景観 <VIEW POINT・VIEW>



武家屋敷安間家史料館



**見える景観 <VIEW>**

御徒士町の武家屋敷は、天保元年(1830)の大火でほとんど消失したため、現在の土塀と茅葺のまちなみは、同年以降に再建されたものです。現在、道路より西側に半間下がって土塀を築いているのは、当時の防火対策の火よけ地としてセットバックしたものです。

武家屋敷は間口が8間余で統一されており、茅葺の門を有し、主屋は妻入りと平入りが混在しますが、大半が中門造となっています。中門造の建ち並ぶ御徒士町の茅葺のまちなみ景観は、他の武家屋敷には見られない特徴的なものとなっています。

<h1>127</h1>	<b>兵庫陶芸美術館の展望デッキ</b>	<b>所在地</b>	丹波篠山市今田町上立杭
		<b>位置情報</b>	北緯 34度58分58.6秒 東経 135度07分51.0秒

<b>見える景観</b>	<small>かみたちくい</small> <b>上立杭集落と里山</b>
--------------	--

**ビューポイント <VIEW POINT>**

兵庫陶芸美術館は、舞鶴若狭自動車道三田西ICから車で北方向へ約15分のところにあります。県が陶芸文化の振興を図るとともに、陶磁器を通じた人々の交流を深めることを目的として整備した施設となっています。次世代の陶芸文化を担う人材養成や学校等との連携、陶芸ワークショップや講座等の創作学習事業を行うとともに、地域の文化資源や豊かな自然を生かしたエコミュージアム施設として平成17年(2005)に建設されました。展示棟、研修棟、エントランス棟、管理棟及び茶室により構成されています。

**見える景観 <VIEW>**

エントランス棟に設けられた2階の展望デッキからは、和田寺山を背景に、山裾の等高線に沿って登り窯の窯元群が建ち並び、日本六古窯(にほんろっこやう)のひとつ「丹波焼の郷」の景観が見渡せます。

美術館の位置する上立杭集落では、山裾の傾斜地を活かした窯元の登り窯と集落家屋が密集するように立地しています。傾斜地に垂直に伸びる登り窯と、等高線に沿って立地する家屋の屋根並みが水平に重なり合うように輻輳(ふくそう)する眺めは、とても美しいものです。四斗谷(しとだに)川沿いの田園が前面に開け、集落の背後を落葉樹の緑豊かな里山が包む上立杭集落の景観は、丹波焼の郷ならではの「一幅の景」を形成しています。

**関連情報 <INFORMATION>**

丹波篠山の立杭には、現在約60軒の窯元があります。石垣でひな壇状に構成された敷地に建つ店舗併用の民家、焼窯や菜園等を、路地や坂道が縫うように相互に繋がる空間構成は、丹波焼の郷ならではの景観です。背景の山並みが新緑で輝く早春と全山が紅葉する秋に窯元を巡る露地歩きは、特に観光客に人気があります。

ビューポイント <VIEW POINT>



見える景観 <VIEW>



128	かみたちくい 上立杭地区「最古の登り窯」前	所在地	丹波篠山市今田町上立杭
		位置情報	北緯 34度58分49.6秒 東経 135度07分39.3秒

見える景観	丹波焼の登り窯と落葉広葉樹の里山
-------	------------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

「最古の登り窯」は、ビューポイントNo.127の「兵庫陶芸美術館の展望デッキ」から見える上立杭集落の中、同美術館から西に約400mのところにあります。県指定有形民俗文化財になった「丹波立杭登窯」は、立杭に現存する丹波焼、最古の登り窯です。明治28年(1895)に築造されたもので、長さ47m、袋(焼成室)数9の規模を有し、よく古窯が保たれ、現在も使用されています。

丹波焼の登り窯は、約400年の穴窯(あながま)時代を経て慶長16年(1611)頃から朝鮮式半地上の登り窯に移行し、約400年の歴史を有しています。多数の袋を持つ大型の登り窯は、共同窯として使用されてきましたが、昭和40年(1965)頃から個人窯が普及し、商品の小物化とともにほとんど見られなくなりました。特に煙突を有さない「蜂穴」と呼ばれるくど先が、煙出しになった登り窯は貴重です。



**見える景観 <VIEW>**

上立杭地区は、北から南へ流れる四斗谷川(しとだにがわ)の細い谷筋に形成された集落です。東西は緑豊かな里山に包まれており、地区のどこから見ても背景に山が見える地形となっています。集落家屋は谷筋西側の山裾に集中し、東側山裾には、鎮守と共に兵庫陶芸美術館等の公共施設が山里に調和するように立地し、谷筋全体で秩序ある土地利用が継承されています。登り窯のある集落家屋側から見える景観は、谷筋の東側の山並みを田園越しに眺望する景観となり、緑豊かな山裾にこんもりと常緑樹が茂った鎮守と、緑豊かな里山樹林と調和した公共施設が立地する丹波焼の郷特有の景観となっています。



**関連情報 <INFORMATION>**

登り窯から向いの東側山裾正面にある施設は、市の丹波伝統工芸公園・立杭陶の郷です。丹波立杭焼の振興と観光の拠点施設として整備されたもので、窯元横丁では、約50の窯元ブースごとに作品を展示販売しています。

129	丸山公民館前	所在地	丹波篠山市丸山
		位置情報	北緯 35度06分14.6秒 東経 135度14分30.6秒

見える景観	古民家の宿で注目を浴びる丸山集落
-------	------------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

舞鶴若狭自動車道丹南篠山口ICから車で北東へ約15分、又はコミュニティバスで「丸山」下車すぐ、篠山城の堀を潤す黒岡川の谷筋奥の水源地に丸山集落はあります。その集落の中の丸山公民館前がビューポイントです。

**見える景観 <VIEW>**

丸山集落は、丹波篠山市の中心部から、北へ約10分車を走らせたところに位置しており、谷奥の山裾の等高線に沿って棟方向を揃えて茅葺(かやぶき)民家が田園越しに建ち並ぶ景観は、ふるさとの原風景を想起させる豊かな里の風景となっています。

かつてこの集落は限界集落といわれ、12軒の住宅のうち7軒が空き家でした。平成21年(2009)に空き家を農家民宿として改修し、現在は2軒が宿として活用され、集落の住人によって運営管理されています。古民家宿「集落丸山」として注目され、Uターンや宿泊者、支援者等によって様々な催しや農林体験などが開催・定着し、現在では空き家も山裾の未耕作地も全て解消しています。

また、古民家宿では夕食を提供していませんが、宿泊客が食材を持ち込んで調理を行うほか、集落内の建物を改装したフランス料理店、集落の奥にある一軒家で営まれる蕎麦と料理の店があり、夕食を楽しむことができます。この2軒の他にも、宿では近隣の飲食店を紹介しています。

**関連情報 <INFORMATION>**

限界集落化が深刻な問題となっていた集落において、地域独自の生活文化を体験できる滞在施設として、築150年を超える茅葺の空き家3棟を平成24年(2012)に、農家民宿にリノベーションし、集落の活性化につなげたとして、「集落丸山」は、県の第14回人間サイズのまちづくり賞「まちなみ建築部門」において、知事賞を受賞しています。



130	はだかす 安口東倶楽部(公民館)前	所在地	丹波篠山市安口
		位置情報	北緯 35度04分20.3秒 東経 135度21分45.5秒

見える景観	農村家屋の残る <sup>ふくずみ</sup> 福住のまちなみ
-------	---------------------------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

安口東倶楽部(公民館)は、舞鶴若狭自動車道丹南篠山口 IC から車で東へ約 30 分、旧京街道(旧山陰街道)沿い西約 3.3 km にわたる国の「重要伝統的建造物群保存地区」の中央やや東よりのところにあります。

福住地区では、旧街道の両側に建ち並ぶかつての宿場町の商家のまちなみと農家のまちなみを見ることができます。安口東倶楽部は、農家のまちなみが続く旧街道沿いに立地する公民館です。丹波篠山の特徴である妻入りの金属屋根で覆われた茅葺(かやぶき)民家が連なる一角に立地しています。

**見える景観 <VIEW>**

福住の農家のまちなみの特徴は、宿場町に比べると街道から 1~2m セットバックして各家屋が立地していることです。脇門、前庭、生垣等を有する家屋が多く、主屋の左右に離れや納屋等の附属屋を併設し、背後の西北には戌亥蔵(いぬいぐら)を有する家屋が多く見られます。

主屋は平屋建ての茅葺と厨子(つし)二階建ての瓦葺があり、ほぼ同等の高さとなっています。平屋建ての茅葺は金属屋根の比率が高いものの、妻入り入母屋の大きな茅葺の主屋に瓦葺の下屋を有する陰影のある力強い景観は、「摂丹型」と呼ばれる妻入りで福住の農家特有のまちなみ景観となっています。

**関連情報 <INFORMATION>**

安口東倶楽部の左手正面の向かいの家屋間に水路が流れています。その水路沿いのあぜ道(里道)から民家の間の水路沿いの畔を通り抜けて、家屋の裏手に出ることができます。裏手から西側を望むと、農地越しに石積み敷地の上に戌亥蔵が連なる福住の裏手の蔵並みと築地塀が連なる景観を見ることができます。



131	あじま おく 味間奥地区の農道	所在地	丹波篠山市味間奥
		位置情報	北緯 35度03分36.3秒 東経 135度08分22.1秒

見える景観	新緑の茶畑
-------	-------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

味間奥地区は、舞鶴若狭自動車道丹南篠山口 IC から車で西へ約 10 分のところにあり、集落のほぼ中央付近で地区内を横断する県道西脇篠山線から南へ伸びる農道がビューポイントです。

**見える景観 <VIEW>**

県内一の生産量を誇る茶所、味間には、中世から茶を栽培し、献上していた記録が残っています。茶畑が地域全体に広がったのは、江戸中期、緩やかな扇状地の地形を活かした換金作物として、JR 篠山口駅周辺の大沢から味間地区一帯の山裾で栽培されていました。しかし、現在は整然とした茶畑の景観が谷間全体に広がるのは味間奥地区周辺だけになっています。新緑の 5 月になれば、太陽の恵みをたっぷりと受けた新芽が広がり、谷全体が緑の瑞々しい景色に包まれます。新茶の 6 月には、毎年丹波篠山「大国寺と丹波茶まつり」が開催され、多くの人で賑わっています。

**関連情報 <INFORMATION>**

丹波地域に茶栽培が普及したのは、室町時代といわれています。16 世紀初頭に波多野元清が室町幕府管領の細川高国(ほそかわたかくに)へ正月の贈物として差し出している請取状(うけとりじょう)が、多紀郡(現丹波篠山市)に茶が登場する最も古い資料となっています。また、天正 17 年(1589)には秀吉が茶園所有者に対し、公儀の郡役を課し、江戸期には京都郡代を経て、幕府に収めました。

栽培は、江戸初期には上層農民に限られていましたが、中期には一般農民層にも広がり、幕末には海外貿易による茶の需要増大もあって、栽培は零細農民にまで及びました。

明治 2 年(1869)には、海外市場の需要拡大を背景に、茶商社が設立されています。





<b>132</b>	<b>黒井城本丸跡</b>	<b>所在地</b>	丹波市春日町黒井
		<b>位置情報</b>	北緯 35 度 10 分 45.4 秒 東経 135 度 06 分 14.1 秒

**見える景観** 丹波の山々と雲海

**ビューポイント <VIEW POINT>**

JR 黒井駅から北方向に 1 km ほどの所にある興禅寺門前の道を西へ進み、黒井小学校の角を山側へ徒歩 5 分で黒井城跡への登山口に到着します。そこから約 30 分登ったところがビューポイントです。

黒井城跡は、中世末期、奥丹波の盟主であった赤井氏の居城跡で、織田信長の丹波攻略の際には、二度にわたって明智光秀の攻撃を防いだ城です。本丸をはじめとする山頂の曲輪群は、堅固な石垣で囲まれ、三方に伸びる山稜上には城砦群を配し、全山を要塞化しており、城の構えは、戦国期山城の典型として高い評価を受けています。

城跡は猪の口山(標高 356m)を中心に広がり、本城部分は南北に約 150m の山頂を削平(さくへい)して、北から本丸・二の丸・三の丸を段階状に配しています。また、その一段下に、これを取巻くように東曲輪・西曲輪・帯曲輪を配して防御を固めています。大手口・二の丸・本丸などの主要部分には天正期の構築と考えられる石垣を築いていますが、今なお分厚い瓦などが見つかり、かなりの規模の瓦葺建造物があったことが想像されます。黒井城跡は、当時の城郭遺構が、その後改変されることなく良好に保存されており、城郭史上極めて貴重な城郭です。



**見える景観 <VIEW>**

本丸跡からは丹波市の風景を一望でき、眼下には色とりどりの田畑が広がります。雲海に包まれた「天空の城」といえば、ビューポイント No.111「竹田城跡天守台」が有名ですが、黒井城跡も、朝霧や雲海との競演が美しいことで有名です。地元の方の話では「満月の夜は月が間近に見えて美しい」ことから「保月城(ほげつじょう)」の愛称で呼ばれているとのこと。

**関連情報 <INFORMATION>**

黒井城跡は国指定史跡になっており、平成 29 年(2017)に「続日本 100 名城」にも選ばれています。

<b>133</b>	かわしろ <b>川代公園の遊歩道</b>	<b>所在地</b>	丹波市山南町阿草
		<b>位置情報</b>	北緯 35 度 04 分 45.5 秒 東経 135 度 06 分 38.3 秒

**見える景観** 川代公園を流れる篠山川に架かる吊り橋

**ビューポイント <VIEW POINT>**

舞鶴若狭自動車道丹南篠山口 IC から車で西方向に約 20 分、又は JR 下滝駅から東方向へ篠山川沿いに徒歩約 30 分のところに川代公園があります。

川代公園は、桜の名所、景勝地として知られる川代峡谷にあり、篠山川に沿って絶壁と奇岩に砕ける急流の峡谷美が約 4 km に渡って続き、春は桜、夏はキャンプ、秋は紅葉と四季を通じて訪れる人を楽しませています。とりわけ、春に開催される「さくらまつり」は多くの人で賑わいます。また、絶好の釣り場としても親しまれています。

**見える景観 <VIEW>**

峡谷の景観を生かしたこの公園には、長さ 90m の木製の吊り橋、延長 438m の散策路、イベント広場、キャンプ場、バーベキュー広場、展望デッキなどが整備されており、多くの人を訪れます。吊り橋は、両側に町の伝統工芸である檜皮葺(ひわだぶき)と茅葺(かやぶき)屋根の門が作られており、右岸沿いの県道と左岸側の広場を結び「夢の吊り橋」として公園のシンボルになっています。

**関連情報 <INFORMATION>**

川代公園から川沿いに約 800m の場所で、平成 18 年(2006)に恐竜(丹波竜)の化石の一部が発見されました。その後、平成 26 年(2014)に「県立人と自然の博物館」が、その化石が新属新種として Zootaxa 誌に掲載されたことを発表し、丹波竜には「タンパティタニス・アミキティアエ」という学名が付与されました。丹波篠山市と丹波市にまたがる篠山層群は約 1 億 1000 万年～1 億年前の地層と推定され、丹波竜以外にも中生代の化石が発掘されています。

丹波竜の里駐車場に併設された交流施設「元氣村かみくげ」では、丹波竜グッズやお土産品などが販売され、篠山層群とその周辺の一帯が舞台である「丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム」では、化石の発掘ツアーが開催されています。



撮影：上久下地域自治協議会

<b>134</b>	<b>かいばら観光案内所付近</b>	<b>所在地</b>	丹波市柏原町柏原
		<b>位置情報</b>	北緯 35度07分46.9秒 東経 135度04分44.9秒

<b>見える景観</b>	<b>大ケヤキがつくる自然の橋「木の根橋」</b>
--------------	---------------------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

かいばら観光案内所は、JR 柏原(かいばら)駅からすぐの柏原商店街を北方向に約300m のところにあります。付近を流れる奥村川に大ケヤキがつくる自然の橋、「木の根橋」が架かっています。「橋」と称されていますが、人が歩けるわけではなく、すぐ横に通行用の橋があります。

**見える景観 <VIEW>**

ケヤキの根の一本が太く成長し、直下を流れる奥村川をまたいで対岸の地下にもぐり込み、長さ10mにも及ぶ自然の橋梁を形づくっていることから「木の根橋」と呼ばれています。樹齢1,000年とも推定される巨木で、目通り幹径6.4m、樹高21m、枝張各25mの丹波市内では最大のケヤキです。

その形成過程については明らかではありませんが、本樹の縁辺は万寿元年(1024)に創建された柏原八幡神社の参道にもあたり、奥村川に架けられていた土橋に沿って根が伸びたものと考えられています。

現在の奥村川は、織田信包(おだのぶかね)の開いた第一次城下町時代に、堀割(地面を掘って作った水路)として利用するため拡幅され深くなったもので、木の根橋をとりまく景観は、この時代に形づくられたようです。昭和45年(1970)に県指定天然記念物になりました。

**関連情報 <INFORMATION>**

数年前に、市道工事に際して道路下の根の張り具合を調査したところ、太い根がほとんどないことが判明しました。過去の道路や橋の工事がケヤキの根を傷めたことが原因と考えられています。その後、病気の根の治療と根の観察、また空気や水の供給のために、かいばら観光案内所横の道路と織田神社前の道路の下に高さ最大1m程度の空洞が設けられています。



<b>135</b>	<b>丹波の森公苑 生活創造センター前</b>	<b>所在地</b>	丹波市柏原町柏原
		<b>位置情報</b>	北緯 35度07分17.4秒 東経 135度04分18.1秒

<b>見える景観</b>	<b>芝生広場と背後の山々</b>
--------------	-------------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

丹波の森公苑は、舞鶴若狹自動車道春日ICから、車で国道175号・176号を柏原(かいばら)方面へ約20分進んだところにあります。敷地内にはビューポイントに選定された芝生広場をはじめ、生活創造センター、テニスコート、ホール、アトリエなど様々な施設があります。

**見える景観 <VIEW>**

同公苑は、「丹波の森構想」を推進する中核拠点として、平成8年(1996)に開園しました。県民の新しいライフスタイルを創造するための活動を支援する広域拠点となっています。エントランスの芝生広場の背後には柏原の山々が広がり、絵に描いたような見事な景色が楽しめます。

**関連情報 <INFORMATION>**

丹波の新たな地域づくりは、昭和63年(1988)の「丹波の森宣言」から始まりました。この宣言は地域住民が発意し、同意し、署名してまとめられたもので、丹波全域を「丹波の森」に象徴させて、人と自然と文化が調和するアメニティ豊かな地域づくりを目指しています。

平成3年(1991)には、丹波の森宣言を実現するための指針として「丹波の森構想」が制定されました。この構想では丹波全域を「丹波の森」と位置づけ、緑豊かな自然や伝統文化など、地域の特性や資源を生かしながら、人と自然と文化・産業の調和した地域づくりを住民、事業者、行政が一体となって推進することとしています。

平成6年(1994)には、丹波の森構想の理念に基づいた地域空間づくりを図っていくため、県緑条例の地域指定を受け、環境形成区域と地域環境形成基準が定められています。



136

## やぐら公園付近の道路わき

所在地

丹波市柏原町柏原

位置情報

北緯 35度07分40.1秒  
東経 135度04分43.4秒

見える景観

城下町の面影を残す古いまちなみ

## ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;

JR 柏原(かいばら)駅を降りて国道 176 号沿いに南東に 100m 歩くとやぐら公園があります。そこから柏原八幡神社へ向かう参道が商店街になっており、やぐら公園から 70m ほど入った道路わきがビューポイントです。

## 見える景観 &lt;VIEW&gt;

柏原は、丹波市内における行政上の中心地です。古くから丹波と但馬を結ぶ街道筋にあり、柏原八幡神社を中心とした集落が形成されました。柏原藩は慶長 3 年(1598)に織田信長の弟である信包(のぶかね)が秀吉より領地を与えられ、柏原に本拠を定めたのが始まりです。

信包は、柏原八幡神社の門前町に着目し、奥村川左岸の川端に居館を構え、門前町を町人地として取り囲む形で城下町を整備しました。三代目藩主信勝の死後、しばらくは幕府の直轄地となっていました。正徳 4 年(1714)に信長の直系、信休(のぶやす)が陣屋を造営します。このとき、武家屋敷群を中心とした城下町整備に着手し、今日のまちなみが形成されました。ビューポイントのある参道は、昔の町人地の東端にあたり、古い町家が残っています。

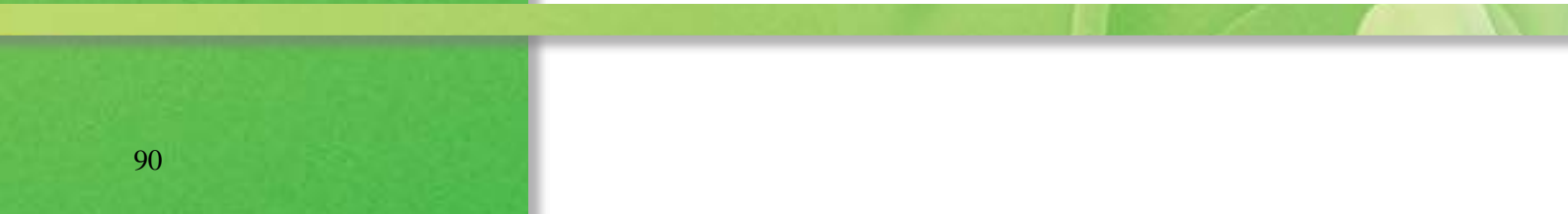


## ビューポイント・見える景観 &lt;VIEW POINT・VIEW&gt;



## やぐら公園





# ビューポイント 150 選

## 第5章 淡路エリア

---

No.137 ~ 150

## 淡路エリア ビューポイント一覧

No.	市町名	<ビューポイント> から見る <見える景観>	頁
137	洲本市	成ヶ島成山山上広場の展望台 から見る 青い海に延びる砂州「淡路橋立」	93
138		洲本城跡の天守台 から見る 洲本の城下町と大浜海岸と先山	
139		大浜海岸の砂浜 から見る 白砂青松の海岸	94
140	沼島散策周遊道路 から見る 国生み神話ゆかりの場所「上立神岩」		
141	南あわじ市	大鳴門橋記念館の屋上展望台 から見る 大鳴門橋と鳴門海峡	95
142		大見山「若人の広場公園」 から見る 戦没学徒記念館記念塔と福良湾	
143		大見山中腹の道路わき から見る 阿万百軒堀地区の田園風景	96
144		上町公会堂北側の路地 から見る 石積み塀が特徴的なまちなみ	
145	淡路市	道の駅あわじの護岸施設付近 から見る 明石海峡大橋	97
146		あわじ花さじき「天空の花園」 から見る 花さじきと青い海と空	
147		淡路夢舞台の百段苑 から見る 百段苑と大阪湾	98
148		本圓寺付近の農道 から見る 播磨灘の夕焼けとそれを映す石田の棚田	
149		淡路景観園芸学校の校舎屋上 から見る 自然と調和した淡路景観園芸学校	
150	江井郵便局付近 から見る 線香の匂いが香る古いまちなみ	99	

<b>137</b>	なるがしまなるやま <b>成ヶ島成山山上広場の展望台</b>	所在地	洲本市由良町
		位置情報	北緯 34度17分42.0秒 東経 134度56分53.1秒

<b>見える景観</b>	青い海に延びる砂州「淡路橋立」 <small>さす</small>
--------------	--------------------------------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

成ヶ島は洲本市由良(ゆら)の沖にある淡路島東端の細長い小島です。洲本高速バスセンターから由良行きのバスに乗り、「由良支所前」で下車すぐの成ヶ島渡船場から船で渡ることができます。山上広場展望台は、成ヶ島に到着後、徒歩約11分の位置にあります。

成ヶ島の地形、自然景観はとても貴重なものとして「兵庫県版レッドデータブック2011」に記載されています。現在も、照葉樹林の森、池、干潟、岩礁、砂地、塩沼地、アマモ場など多様な自然環境が残され、ハマボウやハママツナといった貴重な海岸植物、ハクセンシオマネキやアカウミガメといった貴重な生物が生育・生息しています。それらの貴重な生物の中でもハママツナは、満潮時には水没する入り江や塩田跡に生息しています。生息地が珍しいこの植物は、晩秋には紅葉し、浜辺を鮮やかに彩ります。

また、成ヶ島は、昭和25年(1950)に「瀬戸内海国立公園」に指定されています。国立公園は、全国で34箇所指定されていますが、瀬戸内海国立公園は、1府10県にまたがり、海域を含めると国内で最も広い国立公園となっています。

**見える景観 <VIEW>**

成ヶ島は、北側の成山(標高50m)と南側の高崎を結ぶ約3kmの砂州によって形成されています。東側の瀬戸(友ヶ島水道)側は外洋性の砂礫海岸、南側の由良湾側は干潟から成る自然海岸です。また、島の中央部には塩沼地、塩沼湿地(満潮時に海水に浸かり、干潮時には干上がるような砂泥地)が存在します。

成ヶ島は元々独立した島ではなく、由良と陸続きで、由良湾は海水の湖だったといわれています。江戸時代に相次いで開削され、現在の姿となりました。

幅約15~330m、南北約3kmの成ヶ島は、風光明媚な無人島で、その姿は「淡路橋立」と称されています。成山山上の展望台からは、南側に砂州を一望できます。



撮影：小山 純一

<b>138</b>	<b>洲本城跡の天守台</b>	所在地	洲本市小路谷
		位置情報	北緯 34度20分16.3秒 東経 134度54分11.6秒

<b>見える景観</b>	洲本の城下町と大浜海岸と先山 <small>せんざん</small>
--------------	---------------------------------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

洲本城は、洲本高速バスセンターから徒歩約40分、車では神戸淡路鳴門自動車道洲本ICから約20分の標高133mの三熊山の山頂に築かれ、東西約800m、南北約600m、広さ約279㎡に及ぶ長大堅固な縄張りを持っています。

天守閣等の建物は現存していませんが、縄張りや石垣等が戦国時代の城郭様式をよく残しており、保存状態も良好であることから、平成11年(1999)に国指定史跡になったほか、県指定文化財にもなっています。

洲本城を大規模な城郭に造り変えたのは、天正13年(1585)から24年にわたって在城した、秀吉配下の武将脇坂安治です。近江国浅井郡生まれで、永禄12年(1569)に16歳で羽柴(後の豊臣)秀吉に仕え、天正11年(1583)の賤ヶ岳(しずがだけ)の戦いでは、福島正則や加藤清正らと共に、「賤ヶ岳の七本槍」の1人に数えられました。

現在山頂にある天守閣は、展望台として昭和3年(1928)に作られたレプリカで、模擬天守閣(展望台)としては日本最古のものです。展望台からは、大阪湾はもとより四国まで望むことができ、「洲本八景」の一つに数えられています。三熊山の豊かな緑の中の点景として市民に親しまれ、平成22年(2010)に県景観条例に基づく「景観形成重要建造物」に指定されています。

**見える景観 <VIEW>**

城下は、中央を南北に掘削した内堀によって、内町と外町に分けられていました。内町・外町とも整然とした町割りが行われましたが、接合部がずれており、町割りの角度も両者で異なっています。その後、内堀は埋め立てられていますが、特徴的な町割りは現在も残っています。

大浜海岸は、松並木と白砂が印象的な海岸で、市街地の東側に隣接しています。市街地北にそびえる「先山」は、国生みの神話において、淡路島が誕生した際、最初にできた山とされており、「淡路富士」とも呼ばれています。



撮影：川添 卓也

<b>139</b>	<b>大浜海岸の砂浜</b>	<b>所在地</b>	洲本市海岸通
		<b>位置情報</b>	北緯 34度20分26.0秒 東経 134度54分20.8秒

<b>見える景観</b>	はくしゃせいしょう 白砂青松の海岸
--------------	----------------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

大浜海岸は、洲本バスターミナルから徒歩約15分のところにある、松並木と白砂が印象的な海岸です。遠浅で水が美しく、南北750mに渡る砂浜は、夏場には人気の海水浴場となっています。波もなく穏やかな砂浜であることから、小さな子供連れの家族も安心して楽しむことができます。

その水質等の美しさから、平成18年(2006)に環境省が選定する「快水浴場百選」の1つに選ばれています。県内からは4カ所の海水浴場が選定されており、そのうちの3カ所が淡路島内の海水浴場です。

**見える景観 <VIEW>**

大浜海岸は、大正6年(1917)に京都大学水泳部が武徳殿で合宿したことがきっかけで、関西有数の海水浴場として阪神地区の住民に広く知れ渡りました。海岸に生い茂る黒松は千本松と呼ばれ、海岸を含めた一帯は大浜公園となっており、遊歩道が整備され、美しい松林の中を散歩することもできます。

背後には、山頂にビューポイント No.138「洲本城跡の天守台」を有する三熊山があり、浜からの山の眺めもすばらしいです。

**関連情報 <INFORMATION>**

大正3年(1914)、大浜海岸は、その背後の三熊山とともに「三熊公園」として開園し、地元住民にとっても新しい行楽地となりました。その三熊山にはかつて五色町鮎原村(現洲本市五色町鮎原)の熊田謙一が私財を投じて開いた競馬場がありました。

乗馬の競争以外に運動場としても使用され、大正天皇天長節記念としての鐘紡の大運動会もここで開催されました。三熊山山頂に続く「いこいが丘」駐車場に入る手前に「三熊山競馬場跡」の石碑を現在も見ることができます。



<b>140</b>	ぬしま <b>沼島散策周遊道路</b>	<b>所在地</b>	南あわじ市沼島
		<b>位置情報</b>	北緯 34度09分41.9秒 東経 134度49分34.4秒

<b>見える景観</b>	かみたてがみいわ 国生み神話ゆかりの場所「上立神岩」
--------------	-------------------------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

沼島は、南あわじ市灘、土生(はぶ)港の沖約4.6kmに位置しています。土生港からは、沼島汽船に乗って約10分で行くことができます。沼島の周遊道路の延長は約7.9kmで、ほぼ全区間が舗装されています。島の中央を横断する道路を上りきり、その先にある急坂を下ると、上立神岩を望むことができます。

沼島は、国生み神話上では、はるか昔の神々が作り出した最初の島、「淤能基呂(おのころ)島」だといわれている伝説の島で、上空から見ると「勾玉(まがたま)」の形をしています。

島内には多くの史跡が残っているほか、上立神岩をはじめ巨大な奇石が島を取り囲んでいるのも特徴で、沼島の「沼」は国生み神話の「天沼矛(あめのぬぼこ)」に由来するという説もあります。

また、平成6年(1994)に発見された、さや状褶曲(しゅうきよく)という1億年前の「地球のしわ」と言われる珍しい岩石があります。特に同心円構造のさや状褶曲は、世界で数カ所しか発見されておらず、当時の地殻内部の動きがわかる、貴重な資料となっています。

昔から漁業が盛んで水軍としても力を持ち、歴史的にも重要な島として栄えてきた沼島には、鎌倉幕府を開いた源頼朝の重臣梶原景時の墓と伝えられている「梶原五輪石」があります。

**見える景観 <VIEW>**

上立神岩は、「矛先」のような形をした沼島のシンボル、国生み神話ゆかりの岩です。イザナギとイザナミが「淤能基呂島」に降り立ち、巨大な柱の周囲をまわって婚姻をおこなったという、「天(あめ)の御柱(みはしら)」といわれています。沼島の海岸線には奇岩や岩礁が多く見られますが、そのなかでも、そびえたつ高さ約30mの上立神岩は圧巻です。



撮影：川添 卓也



<b>141</b>	おおなる と きょう <b>大鳴門橋記念館の屋上展望台</b>	所在地	南あわじ市福良丙
		位置情報	北緯 34度15分17.6秒 東経 134度41分04.3秒

<b>見える景観</b>	大鳴門橋と鳴門海峡
--------------	-----------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

大鳴門橋記念館は、神戸淡路鳴門自動車道淡路島南 IC から約 2 km の、淡路島の最南端の丘の上にあり、昭和 60 年(1985)の大鳴門橋の開通と同年にオープンした複合施設です。地下 1 階、地上 3 階建ての鉄筋コンクリート造の施設は、鳴門海峡のうずしおについて学習できる「うずしお科学館」をはじめ、飲食店や物販店を併設しており、3 階に展望台があります。

東は紀淡海峡、西は播磨灘と 360 度に広がる絶景の地に位置し、うずしお観光の絶好の場所となっています。

**見える景観 <VIEW>**

鳴門海峡は、南あわじ市と対岸の徳島県鳴門市との海峡で約 1.3 km と狭く、本州と淡路島の間にある明石海峡の半分以下の幅となっています。この海峡を流れる潮は、日本で一番速く、世界三大潮流の 1 つに数えられています。この場所で発生する渦潮は、月の引力や海面高低差と潮流、地形等が要因となっており、渦の直径が最大 30 m にもなる世界一のもです。

大鳴門橋は、鳴門海峡に架かる全長 1,629m の吊り橋で、昭和 43 年(1968)に着工し、昭和 60 年(1985)に完成しました。設計・施工に際しては、地形改変をできるだけ避けるように、自然との調和に配慮したものとなっています。

**関連情報 <INFORMATION>**

大鳴門橋記念館の屋上展望台のほかにも、大鳴門橋を見るスポットはいくつかあります。南あわじ市内にある「道の駅うずしお」からは、橋桁などを橋のたもとから間近にすることができます。また、徳島側には大鳴門橋架橋記念館があり、工事の経緯などの貴重な資料を見ることができます。

大鳴門橋の中にダイナミックな鳴門海峡が体感できる「渦の道」と呼ばれる遊歩道があり、その通路には、「兵庫県と徳島県の友好の証」が展示されています。



<b>142</b>	おお み やま わこうど <b>大見山「若人の広場公園」</b>	所在地	南あわじ市阿万塩屋町
		位置情報	北緯 34度13分58.2秒 東経 134度42分40.3秒

<b>見える景観</b>	戦没学徒記念館記念塔と福良湾
--------------	----------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

「若人の広場公園」は、神戸淡路鳴門自動車道淡路島南 IC から車で約 20 分の場所に位置する、淡路島の南端の福良湾を見下ろす大見山(標高 145m)の頂上にあります。先の大戦において動員され亡くなった学徒を追悼する施設(世界的建築家の丹下健三の設計)を市が買い取り改修・再整備した公園です。自然と調和した厚い石積みによる白い外壁、内部の打ち放しコンクリート、半円筒形状の屋根などに、建物の特徴が現れている展示資料館と、鋭角に尖った 25m のシェル状の記念塔が併設されています。

施設に設けられた屋上展望台からは、眼前に広がる鳴門海峡や徳島まで見渡すことができます。屋外の公園には、若い芸術家等に作品展示の場を提供する展示スペースやイベントスペースが設けられ、市民に開放された空間となっています。

**見える景観 <VIEW>**

展望台にのぼると 360 度の雄大なパノラマビューが広がっており、鳴門海峡方面を眺望することができます。またその海の向こうにある徳島の地までも望める素晴らしいロケーションとなっています。

**関連情報 <INFORMATION>**

戦没学徒記念館の施主である財団法人動員学徒援護会は、太平洋戦争下で勤労動員され亡くなった学生たちの歴史を伝え、慰霊する場を建設するため、設計を丹下健三に依頼しました。同施設は、阪神・淡路大震災で被災し、長い間、閉鎖を余儀なくされていましたが、南あわじ市が施設の所有者となったことをきっかけに、丹下都市建築設計事務所の設計により、耐震補強、一部復元等の再整備を行いました。

地元の若者により採火された「永遠の灯」を灯し、恒久平和を願い、誓い合い、市民が憩える「都市公園」として、戦後 70 年にあたる平成 27 年(2015)に再オープンしています。



<b>143</b>	おおみやま <b>大見山中腹の道路わき</b>	所在地	南あわじ市阿万塩屋町
		位置情報	北緯 34度 14分 15.7秒 東経 134度 43分 07.1秒

<b>見える景観</b>	あま <b>阿万百軒堀地区の田園風景</b>
--------------	---------------------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

大見山は、阿万地区に位置する小高い山(標高 145m)です。神戸淡路鳴門自動車道淡路島南 IC から県道 25 号を南下し、車で約 30 分の大見山中腹の道路の脇がビューポイントです。

**見える景観 <VIEW>**

大見山中腹まで登ると、三原平野に広がる田園、百間堀、吹上浜、紀伊水道を一望することができます。「百間堀」とは、農業用水を確保するための水田間をつなぐ水路です。

淡路島は古代より稲作が行われていた地域ですが、平時の河川は水量が少なく、農業用水の確保が課題でした。そのため、河川から農業用水が確保できない淡路島にとって、百間堀は、ため池とともに、阿万地区の農業において重要な役割を果たしてきました。この百間堀に支えられ、豊かな農業を営んできた阿万地区では、米づくりとともに、玉ねぎ、レタスの生産が盛んです。特に、冬はレタスのビニールハウスが田園いっばいに広がり、「御食国(みけつくに)」である淡路島の豊かさを感じさせます。

**関連情報 <INFORMATION>**

その昔、魚貝類の採取、塩作りや航海に従事して海辺で生活する人は「海人(あま)」と呼ばれていました。淡路島に海人族が居住していたことは、「日本書紀」などの文献にも記載されています。南あわじ市の「阿万」は「海人」からきたもので、同地が海人族の居住地であったことを示しています。「淡路の神話と海人族」(岡本稔・武田信一共著)によると、海人族の中には、平地に恵まれた海岸に定住し、漁業や製塩に従事しつつ、次第に農耕も行うようになった者もあり、阿万地区はこのような海人の陸住の多かった所であるとのこと。

県内には日本最多の約 2 万 4 千箇所のため池があり、このうち淡路島は約 1 万箇所のため池を有する「日本一のため池密集地域」です。



<b>144</b>	かみまち <b>上町公会堂北側の路地</b>	所在地	南あわじ市阿万上町
		位置情報	北緯 34度 13分 27.8秒 東経 134度 44分 25.4秒

<b>見える景観</b>	<b>石積み塀が特徴的なまちなみ</b>
--------------	----------------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

淡路島を縦断する国道 28 号を南あわじ市まで南下、八幡交差点を左折して県道 76 号に入り、約 5 km のところに石積み塀を臨むことができる路地があります。

**見える景観 <VIEW>**

阿万地区の集落内には、まるで異国の地に迷い込んだような錯覚を抱く独特の石積み塀が点在しています。高さは 1.5~2.0m、厚みは 40~80cm と寸法は不揃いで、角を落とした石に土を塗り込めながら積み上げられたものです。近くを流れる本庄川流域では、江戸時代後期から明治前期にかけて、耕作地を広げるため開墾が進みました。土を掘り起こして出た大量の石を荷馬車で集落まで持ち帰り、社寺や民家の敷地を囲う塀造りに再利用したようです。地区内の萬勝寺には明治 34 年(1901)、石によって寺の塀が築かれたとの記録が残っています。

地元の元南あわじ市文化財保護審議委員会委員によると「諭鶴羽山系から降りてくるイノシシやシカを防ぐのに石垣を築いたり、田の畦に積んだり、一般の庶民が石を扱う機会は何かとあった筈。職人ではなくても石積みの技術を持ち合わせていたと思われる。」とのこと。セメントで補強したり、新たな石を積み替えたりしながら、この特徴ある石積み景観は保たれてきました。塀の上部には、地元産の淡路瓦が葺かれ、風雨への耐性を高めています。

**関連情報 <INFORMATION>**

阿万地区は、舞を奉納する習わしのある亀岡八幡神社があり、石積み塀が生み出す独特の景観とともに、郷土芸能が盛んな地区として知られています。石積み塀が最も集積している通りのすぐ南側に、平成 19 年(2007)に県景観条例に基づく景観形成重要建造物に指定されている「上町公会堂・消防団屯所・半鐘台・だんじり小屋」があります。同公会堂は、国指定無形民俗文化財になっている「阿万の風流大踊小踊」の練習、発表の場ともなっています。



<b>145</b>	<b>道の駅あわじの護岸施設付近</b>	所在地	淡路市岩屋
		位置情報	北緯 34度36分08.8秒 東経 135度00分34.7秒

<b>見える景観</b>	明石海峡大橋
--------------	--------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

道の駅あわじは、神戸淡路鳴門自動車道淡路ICから車で約5分、明石海峡大橋のメインケーブルをつなぎとめている巨大なコンクリート塊である「アンカレイジ」の付近にあります。

**見える景観 <VIEW>**

明石海峡大橋は、神戸市垂水区と淡路市を結ぶ、橋長3,911m、中央支間長1,991mの世界最長の吊り橋です。昭和63年(1988)に着工し、平成10年(1998)に開通しました。

明石海峡大橋の建設には、海峡の幅が約4km、最大水深は約110m、潮の流れも速く、軟弱な海底地盤であるなどの多くの技術的課題がありました。また、架橋地点は海上交通の要衝で、豊富な漁場であるなどの社会的課題もありました。これらの諸課題の解決のため、多くの新技術が開発・導入されており、明石海峡大橋は、我が国の架橋技術の結晶といわれています。

使用された技術に関する資料は、神戸側のアンカレイジ付近にある「橋の科学館」に展示された映像・模型・パネルなどで詳しく知ることができます。

**関連情報 <INFORMATION>**

明石海峡大橋は、本州と四国を結ぶ重要な橋であり、200年は持ちこたえるように日頃から点検・補修が行われています。工事に従事した延べ人数は210万人ですが、死亡事故はゼロです。1本のケーブルには、直径5mmのピアノ線が36,380本使われており、橋を支えるケーブル2本をつなぐと、地球7周半にもなります。

橋の神戸市側には海面からの高さ約47m、陸地から約150m、明石海峡へ突出した延長約317mの回遊式遊歩道「舞子海上プロムナード」が整備されています。



撮影：岡田 啓史

<b>146</b>	<b>あわじ花さじき「天空の花園」</b>	所在地	淡路市楠本
		位置情報	北緯 34度33分11.6秒 東経 134度58分41.3秒

<b>見える景観</b>	花さじきと青い海と空
--------------	------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

あわじ花さじきは、神戸淡路鳴門自動車道淡路ICから、県道157号沿いに南へ約12分(約7km)のところにあります。

淡路島北部の丘陵地域の頂上部に位置しており、大阪湾に面したなだらかな高原には季節の花々が美しく咲き誇ります。花の島にふさわしい名所として、明石海峡大橋が開通した平成10年(1998)に県が開園しました。眼下に広がる花の絨毯(じゅうたん)が楽しめる極上の見物席として、「あわじ花さじき」と命名されました。

敷地内は、天空の小径・天空の花園・共生の花園・ふれあいの花園・癒しの花園・歓びの丘・歓びの庭にゾーニングされ、1年を通して、四季の花を楽しむことができます。

「天空の花園」は、あわじ花さじきのメイン花壇で、隣接する展望デッキより背景にひろがる花畑とあわせて楽しめます。

**見える景観 <VIEW>**

淡路島北部丘陵地域の高原頂上部(標高約300m)に敷地を持つ「あわじ花さじき」からは、明石海峡大橋や神戸、大阪、関西国際空港までが展望できます。

明石海峡・大阪湾を背景に、約16ha(甲子園球場の約4倍)の広大な花のパノラマが広がる光景は、淡路島の自然の豊かさを代表しているようです。

**関連情報 <INFORMATION>**

春の菜の花・ムラサキハナナ・リナリア・ポピー、夏の三尺パーベナ・クレオメ・ひまわり・ブルーサルビア、秋と冬のサルビア・ソバ・コスモス・ストックなど、季節ごとにその表情を変える花畑は、来訪者を絶えず楽しませています。

また、園内には休憩のできるハウスや農産物の直売所も設置されています。



撮影：石坂 浩章

<b>147</b>	<b>淡路夢舞台の百段苑</b>	所在地	淡路市夢舞台
		位置情報	北緯 34度33分39.5秒 東経 135度00分24.8秒

<b>見える景観</b>	百段苑と大阪湾
--------------	---------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

淡路夢舞台は、旧東浦町(現淡路市)の北東部、神戸淡路鳴門自動車道淡路 IC から国道 28 号沿いに車で約 10 分のところにあります。日本を代表する建築家である安藤忠雄が設計した施設です。

施設が位置する周辺一帯は、元々人工島建設のための土取り場でした。土取りにより人間に破壊された地において、自然を再生することに主眼が置かれ、駐車場や機械室などの大きな構造空間は可能な限り地中に埋め込み、その上部に植栽や花や緑が主役となるよう計画されています。主な施設としては、①前面に広がる海と背後に迫る山の緑を感じることができる国際会議場、②斜面に埋め込まれた低層棟とその上に据えられた 7 層の三角柱状の客室棟とで構成されるホテル、③コンクリート打放しの円柱と天井の立体トラスにより大空間を実現した温室があり、それぞれ特徴的な建物となっています。



**見える景観 <VIEW>**

百段苑は、阪神・淡路大震災の犠牲者への献花壇として、全体が鎮魂のモニュメントとなっています。周辺は岩盤斜面地を緑化再生した森に囲まれ、百段苑自体もそれらと同様な急斜面地に位置しています。斜面に合わせるように傾斜した独特の構成により、夢舞台やその周辺のどこからでも象徴的な花壇を望むことができるようにし、同時に百段苑からも夢舞台の諸施設や大阪湾、対岸の関西国際空港まで一望に見渡せるように計画されています。



**関連情報 <INFORMATION>**

震災前の計画では、現在の百段苑の位置に段状のホテルが計画されていました。平成 7 年(1995)の阪神・淡路大震災後、この場所に断層が確認されたため、万全を期してそれを避ける形でホテルを移動し、その跡を花壇として震災のモニュメントへと転化したという経緯があります。百段苑は無料で散策可能です。

<b>148</b>	ほんえんじ <b>本圓寺付近の農道</b>	所在地	淡路市石田
		位置情報	北緯 34度32分20.5秒 東経 134度55分42.1秒

<b>見える景観</b>	播磨灘の夕焼けとそれを映す石田の棚田
--------------	--------------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

JR 舞子駅から高速バス約 21 分の神戸淡路鳴門自動車道北淡 IC バス停でバスを乗り換え、さらに約 10 分の淡路高校前バス停から徒歩約 10 分の農道のわきから、石田地区の棚田を望むことができます。

**見える景観 <VIEW>**

播磨灘は、北は本州、南は四国北東部、東は淡路島西岸、西は小豆島(しょうどしま)西の備讃瀬戸(びさんせと)の海域に囲まれ、瀬戸内海の東端に位置している海域です。傾斜地が多い淡路島北部では、限られた土地と傾斜を利用した棚田が点在しています。また、淡路島には水不足を解決するため、ため池も多く作られてきました。淡路島の中でも、棚田とため池、播磨灘が一体となった石田地区では、5月の代掻き(しろかき：田に水を入れて土を掻きならす作業)で水が張られた棚田、7月の稲で緑一色になった棚田、9月の稲穂で黄金色に輝く棚田など、季節ごとにすばらしい景観を望むことができます。淡路島を代表する景観であるとともに、淡路島の風土と先人の苦勞を偲ばせます。

見頃は棚田に水が張られる 6 月中旬と 9 月初旬で、地形に合わせた様々な形の田面が夕日に映えて美しい模様をつくります。石田地区の棚田は、平成 25 年(2013)に県民投票により、「淡路島百景」に選定されています。

**関連情報 <INFORMATION>**

本圓寺から西浦沿いに北へ約 2 km のところに、北淡震災記念公園があります。平成 7 年(1995)1 月 17 日午前 5 時 46 分、震源地である淡路島北部の明石海峡沖に最も近い「野島断層」が約 1~2 m 横にずれ、約 0.5~1.2m 隆起して、「逆断層」となって地表に露出しました。その痕跡がもっとも顕著であった場所に、同公園は建設されています。その逆断層は国指定天然記念物になり、その上部に「野島断層保存館」を建てて公開保存しています。



撮影：田村 俊介

<b>149</b>	<b>淡路景観園芸学校の校舎屋上</b>	所在地	淡路市野島常盤
		位置情報	北緯 34度33分47.6秒 東経 134度58分02.0秒

**見える景観** 自然と調和した淡路景観園芸学校

**ビューポイント <VIEW POINT>**

淡路景観園芸学校は、阪神・淡路大震災の震源地である旧北淡町(現淡路市)の山中にあり、敷地東端のカフェテリアがある棟の屋上がビューポイントです。  
同校には高速バス「淡路 IC」又は「岩屋ポートターミナル」からシャトルバスでそれぞれ約10分、15分で行くことができます。

**見える景観 <VIEW>**

淡路景観園芸学校は、花と緑を生かした心地よいまちづくりを学ぶ場として、平成11年(1999)に開校した全国初の景観園芸の教育研究機関です。キャンパス内の庭園や花壇を一般に自由公開していることが特色です。校舎の屋上からは、学校のガーデンや島の風景等を見ることが出来ます。

ドライな風土に適した地中海式的なロックガーデン、パステルに花の色調をそそえた花壇、オーストラリア原産の植物を集めた宿根草の庭、京都の寺院の庭園を参考にした日本庭園など、1,400種類の植物を配した多彩な庭園や花壇はすべてテーマ別にデザインされた見本園となっています。都市緑化としての需要が高まる屋上庭園や、高齢化、福祉社会を見据えた園芸療法ガーデンなども整備されています。

**関連情報 <INFORMATION>**

「景観園芸」は、この学校の目標をあらわすために作られた言葉です。古来、人は、自然との関わりの中で暮らし、豊かな文化を育んできました。しかし、モノの豊かさを追い求めるあまり、人間の営みが自然の一部であることや、自然から大きな恵みを楽しんでいることを忘れがちです。その反省を踏まえて、造園・園芸・土木・建築、そして産業という様々な分野にお互いの関連性を取り戻し、まちづくりを人々の豊かな暮らしのあり方を創造する文化的行為として位置づけようとする新しい学問分野を目指しています。



<b>150</b>	<b>江井郵便局付近</b>	所在地	淡路市江井
		位置情報	北緯 34度27分54.5秒 東経 134度49分37.4秒

**見える景観** 線香の匂いが香る古いまちなみ

**ビューポイント <VIEW POINT>**

江井地区は淡路島西海岸の中ほどにある旧一宮町(現淡路市)の港町で、江井郵便局は、神戸淡路鳴門自動車道津名一宮 IC から車で約15分、北淡 ICからは車で約20分の淡路市江井コミュニティセンターのすぐ近くにありまます。

地区を訪ねると、線香の良い香りがします。嘉永年間(1848~1854)から続く線香づくりには、今もなお地区住民の4人に1人が関わっており、住民の生活に深く根付いています。淡路島は、線香生産高日本で全国生産量の約7割を担っています。

**見える景観 <VIEW>**

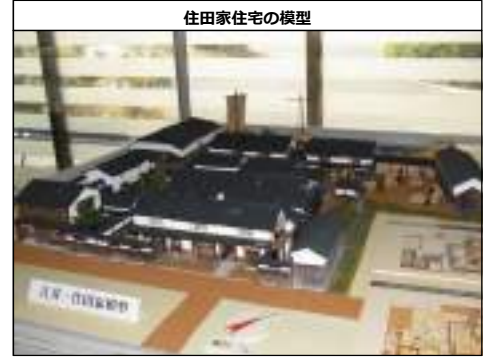
江井地区は、寛永20年(1643)に徳島藩邸が置かれたことをきっかけに繁栄しました。江戸時代後期には海運業が隆盛し、「淡路の富の7割を有した」といわれるほどでした。幕末には線香の製造が始まり、今では漁業とともに江井の大きな産業となっています。まちなみは港を囲んで広がり、落ち着いた中にもかつての面影を偲ぶものがあります。

当地区の道路は、ほとんどが幅3m以内の「あわさ」という人が一人通れる程度の狭い路地が多く、迷路のようになっていることが特徴です。

建物は主に平入りの中二階や本二階で、屋根は切妻や入母屋の本瓦葺としたものが多く見られます。酒蔵や醤油蔵だった建物もあり、まちなみに変化を持たせています。

**関連情報 <INFORMATION>**

江井地区にはかつての廻船問屋「住田家」の遺構(敷地面積約1,000坪)がありました。住田家は、幕末には江井浦にあった15隻の大船のうち7隻を所有する廻船問屋の筆頭で、島内屈指の大地主となって栄えました。同地区は、そのまちなみの素晴らしさから昭和63年(1988)には日本ナショナルトラストによる観光資源調査が、平成6年(1994)には県景観形成地区調査が実施されましたが、阪神・淡路大震災で被災し、多くの建物が被災したため指定には至っていません。





# ビューポイント 150 選

## 第 6 章 番外編

---

No.外1 ~ 10

## 番外編 ビューポイント一覧

No.	市町名	<ビューポイント> から見る <見える景観>	頁
外 1	芦屋市	<small>ろくろくそう</small> 六麓荘の一角 から見る 緑豊かでゆとりのある住宅街	103
外 2	伊丹市	みやのまえ文化の郷前 から見る 都心に残る江戸時代のまちなみ	
外 3	西脇市	<small>はちまる</small> 旧八〇亭跡 から見る 横尾忠則が描いた「Y字路」	104
外 4	小野市	大池総合公園市民広場 から見る 新都市の公共施設群	
外 5	加東市	播磨中央公園の展望台 から見る 六甲山系から淡路島までの大パノラマ	105
外 6	姫路市	網干なぎさ公園 から見る 姫路臨海部の工場夜景	
外 7	相生市	<small>お お</small> 相生の大谷川に架かる橋 から見る 天満神社周辺の古いまちなみ	106
外 8	たつの市	揖保川右岸の東山公園橋付近 から見る 吊り橋(人道専用)と小嵐山 <small>こ あらしやま</small>	
外 9	宍粟市	宍粟市役所の対岸にある愛宕神社 <small>あたご</small> から見る 揖保川と出石の船着き場跡 <small>いだいし</small>	107
外 10	新温泉町	上山高原の山頂 から見る ススキと山並み	



<b>外1</b>	ろくろくそう <b>六麓荘の一角</b>	所在地	芦屋市六麓荘町
		位置情報	北緯 34度45分14.7秒 東経 135度18分36.2秒

**見える景観** 緑豊かでゆとりのある住宅街

**ビューポイント <VIEW POINT>**

六麓荘は、芦屋市市街地の北東端部の山の手にあり、最寄の阪急電鉄苦楽園口駅から北へ徒歩25分程度、「六麓荘町」信号交差点の北側約550mの住宅街路上にビューポイントがあります。JR芦屋駅を起点とする阪急バスも利用できます。

**見える景観 <VIEW>**

六麓荘は、「西の芦屋、東の田園調布」と称されるほど全国的に有名な超高級住宅地です。大阪の財界人、内藤為三郎らが中心となり、ここ六甲山の麓を東洋一の別荘地帯にしようと株式会社六麓荘を設立しました。国有林の払い下げを受け、香港の香港島にある高級住宅地を手本に、昭和3年(1928)から本格的に開発が始まりました。幅員6mの広い道路を配して電線・電話線を地下埋設し、豊かな自然環境の中に低層住宅地を整備し、超高級住宅地と呼ばれるにふさわしい景観が広がっています。六麓荘は、明治期までは農村でしたが、明治38年(1905)の阪神電鉄開通とそれに続く沿線開発により、神戸・阪神間の郊外住宅地ブームが一気に芦屋にまで広がりました。大正10年(1921)の武庫郡誌には「昔は農家で人情的に素朴で、手織木綿を着て、麦飯野菜を食べていたのに、都人の真似をして派手になり、麦飯も米飯に変わり、元の良さを失ってしまった」という趣旨の記述があります。

**関連情報 <INFORMATION>**

六麓荘では町内会が建築協定を締結しています。第1条には「この協定は昭和の初期に先輩方が心をこめて造成し、日本屈指の緑豊かで自然に恵まれた住宅地をつくらうとしたまちの理念を継承し・・・」と協定の目的が謳われ、第6条には、「1区画400㎡以上とすること」「戸建ての個人専用住宅とすること」「地上2階建てとすること」などの建築制限が規定されています。日本でも屈指の緑豊かで自然に恵まれた良好なまちなみは、住民の熱意により形成されてきたものといえます。

ビューポイント・見える景観 <VIEW POINT・VIEW>



造成中の六麓荘住宅(昭和初期)



<b>外2</b>	<b>みやのまえ文化の郷前</b>	所在地	伊丹市宮ノ前
		位置情報	北緯 34度46分55.0秒 東経 135度25分02.6秒

**見える景観** 都心に残る江戸時代のまちなみ

**ビューポイント <VIEW POINT>**

みやのまえ文化の郷は、JR伊丹駅から北西へ徒歩約6分のところにあります。この名称は、美術館・工芸センター・伊丹郷町(ごうちょう)館(旧岡田家住宅、旧石橋家住宅、新町家)に公益財団法人柿衛文庫を加えた文化ゾーンの愛称です。この文化ゾーンを含む周辺一帯を「伊丹郷町」といいます。伊丹・北小路・昆陽口(こやぐち)など15の村が一続きとなった町場で、江戸積酒造業の繁栄とともに次第に広がりました。

**見える景観 <VIEW>**

郷町は、戦国期に城下町として形成され、近世以降、江戸積み酒造業を中心に隆盛を誇りました。郷町の町割りど、今に残る酒蔵・町家は、町の成り立ちと文化を伝えていきます。江戸時代には、京の公家近衛家(このえけ)の領地となり、町の有力酒造家から選ばれた惣宿老(そうしゅくろう)や御金方(おかねほう)らの役人が近衛家のもとに町政を執り行いました。伊丹郷町の近郊「鴻池(こうのいけ)」に始まったとされる清酒醸造は、この郷町で近衛家の庇護のもと大いに栄えました。伊丹の酒は「丹醸」と呼ばれて愛好され、最盛期には毎年20万樽もの酒が、樽廻船で江戸に運ばれました。こうした郷町の豊かな経済は、多くの文人墨客が訪れるなど、活発な文芸活動をもたらしました。みやのまえ文化の郷にある「伊丹市立工芸センター」は、工芸を通じて市民の豊かな暮らしを創出することを目的とした施設です。町家風の建物である「旧石橋家住宅」は、江戸時代に建てられた商家で、摺り揚げ大戸やぱったり床几(しょうぎ)、塗り込めの軒裏や虫籠(むしこ)窓など、建設当初の店構えを残していることから、平成13年(2001)に県指定文化財になりました。なお、みやのまえ文化の郷は令和2年(2020)に閉館し、令和4年(2022)に博物館も加わった総合ミュージアムとしてリニューアルオープンする予定です。

ビューポイント <VIEW POINT>



見える景観 <VIEW>



<b>外 3</b>	はちまる <b>旧八〇亭跡</b>	<b>所在地</b>	西脇市西脇
		<b>位置情報</b>	北緯 34度58分59.3秒 東経 134度58分25.5秒

<b>見える景観</b>	横尾忠則が描いた「Y字路」
--------------	---------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

旧八〇亭跡は、JR 新西脇駅から北へ約 700m の県道 347 号沿いにあります。西脇区まちづくり委員会が作成配布している「Y字路巡り散策マップ」及び西脇市が作成配布している「横尾忠則 Y字路・記憶の地 MAP」を見ながらの散策がお勧めです。

**見える景観 <VIEW>**

横尾忠則は、西脇市出身の世界的に有名な美術家です。西脇市に住んでいた幼少時、通学途中にあった同市西脇椿坂の模型店「ホビー」を作品として最初に描いたのが平成 12 年(2000)の「Y字路《暗夜光路N市-I》」です。その後、Y字路(=三差路)を描くことがライフワークとなり、日の出精肉店北のY字路を描いた《暗夜光路N市-II》、旧来住家(きしけ)住宅近くのY字路《暗夜光路N市-III》、蛭田理研株式会社前のY字路《暗夜光路N市-IV》など、次々と作品を発表し、これまで同シリーズの作品数は 150(うち、23 点が西脇市内を描いたもの)点以上にのぼります。その中で、建物形状から Y字路の三角地がよくわかるものとして選ばれたのが旧八〇亭跡の Y字路《暗夜光路N市-V》です。

同氏は JR 加古川線に自ら描いたラッピング電車を走らせるなど、地元愛も強く、平成 25 年(2013)には西脇市初の名誉市民にも選ばれています。

**関連情報 <INFORMATION>**

日本の標準時間を定める東経 135 度のラインと北緯 35 度の交点にあたる「日本のへそ公園」の中に岡之山美術館があります。磯崎新により設計された美術館で、昭和 59 年(1984)に横尾忠則の作品展示を主たる目的として開館しました。建物全体は、ホームに停車している三両連結の列車をイメージしており、左右対称、大理石の床、円柱やアーチなどで構成された玄関部分は、ギリシャの神殿をイメージさせます。

平成 25 年(2013)から本館では、現代美術家及び芸術の幅を広げたジャンルの展覧会を開催するほか、別館アトリエでは近隣作家による展覧会も開催しています。

ビューポイント・見える景観 <VIEW POINT・VIEW>



椿坂 Y字路



<b>外 4</b>	<b>大池総合公園市民広場</b>	<b>所在地</b>	小野市王子町
		<b>位置情報</b>	北緯 34度51分22.3秒 東経 134度56分15.9秒

<b>見える景観</b>	新都市の公共施設群
--------------	-----------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

大池総合公園市民広場は、神戸電鉄小野駅から北側に徒歩約 20 分のところにあります。

周辺には、市役所・警察署・消防本部などの行政機関、図書館・交流館・総合体育館などの文化施設に加え、イオンに代表される商業施設が立地するなど、小野駅周辺の中心市街地と並ぶ、重要なエリアとなっています。

**見える景観 <VIEW>**

小野市都市計画マスタープランによると、小野駅北側の市民広場周辺には、同市の中心核としてのシビックゾーンが形成されています。土地利用方針においては、「(小野駅周辺)中心市街地の北側の市街地において、複合的な都市機能が集積するシビックゾーンとして、都市拠点の充実を図るゾーン」に位置付けられています。

ビューポイントから見える公共施設群は、平成 8 年(1996)オープンの「小野市立図書館」、平成 17 年(2005)オープンの「うるおい交流館エクラ」など、いずれも平成期に入ってから建築された比較的新しい建物ばかりで、周辺の田園風景とは対照的な景観をなしており、田園地域に突如出現した「新都市」の印象を与える洗練されたデザインとなっています。

**関連情報 <INFORMATION>**

小野市の市花は「ひまわり」です。市の中央を南北に走る国道 175 号沿い、市民広場から北東に車で約 5 分のところに「ひまわりの丘公園」があります。国道わきの丘陵地約 8 ha を整備し、平成 14 年(2002)に開園した公園です。四季折々の花壇や多目的広場が整備され、夏には 38 万本のひまわりが、秋には 380 万本のコスモスが花の絨毯(じゅうたん)のように咲き誇り、小野市内外から年間約 70 万人が訪れる人気の観光スポットです。園内には、小野市出身の長谷川雅司がひまわりをイメージしてデザインした高さ 20m の「ひまわりの塔」がそびえ、シンボル塔となっています。

ビューポイント <VIEW POINT>



見える景観 <VIEW>



<b>外5</b>	<b>播磨中央公園の展望台</b>	所在地	加東市光明寺
		位置情報	北緯 34度56分43.2秒 東経 134度57分07.4秒

**見える景観** 六甲山系から淡路島までの大パノラマ

**ビューポイント <VIEW POINT>**

播磨中央公園は、中国自動車道滝野社 IC から西へ3kmのところ昭和53年(1978)に開園された都市公園です。総面積181.7haの都市公園としては県下最大級で、地元では「はりちゅう」という愛称で親しまれています。森林に囲まれた丘や大小の池が散在する自然豊かな園内には、「ふじいでんこう さいくるらんど」を始め、野球場、テニスコートなどの運動施設、野外ステージ、子どもの小川、子どもの森、四季の庭(ばら園)などの施設が整い、文化、スポーツ、レクリエーション等で多くの方々に親しまれています。ビューポイントである展望台は、自然散策ゾーンにあり、園内の第6駐車場に近い場所にあります。

ビューポイント <VIEW POINT>



**見える景観 <VIEW>**

展望台からは、東は甲山(かぶとやま)をはじめとする六甲山系や向山(むかいやま)、南は淡路島や雌岡山(めっこさん)西のパノラマ景観を見ることができます。

**関連情報 <INFORMATION>**

県では、県立施設の安定的な運営・管理の財源確保を図るため、ネーミングライツスポンサー契約を導入しています。契約期間は、原則3年以上です。前述の「ふじいでんこう さいくるらんど」は、地元企業である藤井電工株式会社がスポンサーとなっているため、その名前を冠した施設名称としているものです。

見える景観 <VIEW>



<b>外6</b>	<b>網干なぎさ公園</b>	所在地	姫路市網干区
		位置情報	北緯 34度46分24.2秒 東経 134度35分47.6秒

**見える景観** 姫路臨海部の工場夜景

**ビューポイント <VIEW POINT>**

網干なぎさ公園は、山陽電鉄山陽網干駅から南へ車で約10分、網干南公園の海側にある海岸沿いの公園です。ビューポイントは、公園内の小高い丘の上にあります。県では日本有数の工業地帯として発展してきた尼崎の工場夜景が有名ですが、姫路臨海部の工場夜景も地元では絶好の夜景スポットとして知られています。同公園には、子供が遊べる広い芝生広場があり、海沿いは砂浜になっていて、夏場は水辺遊びをする家族連れで賑わいます。

ビューポイント <VIEW POINT>



**見える景観 <VIEW>**

網干なぎさ公園の小高い丘の上からは株式会社ダイセルの工場群が見えます。株式会社ダイセルの前身である「大日本セルロイド株式会社」は大正8年(1919)にセルロイド製造企業8社の合同により設立されました。その後、数度の商号変更を行い、平成23年(2011)に現在の社名となりました。旧社名に「セルロイド」とあるように、もともとはセルロイドを応用した化学製品が主力でしたが、近年はセルロース化学、有機合成化学、高分子化学、火薬工業分野と取扱商品の裾野を広げています。特にたばこ用フィルターの唯一の国産メーカーであり、世界第2位のシェアを誇ります。昼間は工場が建ち並ぶだけの景色ですが、夜になると工場の光が夜空をほんのりと照らし、煙突から排出される蒸気が白く映し出され、SF的な夜景を楽しむことができます。

見える景観 <VIEW>



**関連情報 <INFORMATION>**

令和元年(2019)は、姫路港開港60周年の節目の年にあたることから、その記念事業として「姫路工場夜景クルーズ&バスツアー」が9月に県主催で開催されました。姫路港の工業港としての魅力を広く県内外に発信する取組として、全国的にも注目されている「工場夜景」が活用されています。

<b>外 7</b>	<b>お お 相生の大谷川に架かる橋</b>	<b>所在地</b>	相生市相生
		<b>位置情報</b>	北緯 34 度 47 分 54.9 秒 東経 134 度 28 分 22.0 秒
<b>見える景観</b>	天満神社周辺の古いまちなみ		
<p><b>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</b> JR 相生駅から相生湾を目指して県道 64 号を南へ進み、相生市役所を通り越して、さらに約 800m 進んだところに、古いまちなみが残る相生(おお)地区があります。ビューポイントの橋は、地区内を流れる相生湾にそそぐ大谷川に架かる小さな橋です。</p> <p><b>見える景観 &lt;VIEW&gt;</b> 相生(おお)地区を流れる大谷川は、その源を相生市の天下台山(てんがだいさん：標高 321m)に発する延長 1,348m の二級河川です。当地区は、古くから風待ち・潮待ちの天然の良港として廻船や商船で賑わい、江戸時代から年貢米の積出港として栄えました。 明治 40 年(1907)に当時の相生村唐端(からはし)村長が、「播磨船渠(せんきょ)株式会社」を設立し、工場を建ててからは町の姿は大きく変わり、特に大正期以降の造船ブームに乗って市街地が拡大しました。その後も、当地区は昭和 17 年(1942)の相生市制施行後、昭和 26 年(1951)まで市役所が置かれるなど、市の中心地でした。 大谷川沿いの細い街路に面して建ち並ぶ町家には、格子戸や出格子などを備えた比較的古いまちなみが残っています。河川沿いの荒(こう)神社や天満神社では、子供角力(すもう)や奉納獅子舞などが伝承され、また、当地区を舞台とした「素足の娘」を書いた佐多稲子をはじめ、水守亀之助、半田鶏肋(はんだけいろうく)らの文学者を輩出するなど、伝統芸能や文化の中心でもありました。</p> <p><b>関連情報 &lt;INFORMATION&gt;</b> 市名は「あいおい」ですが、地区名は「おお」です。相生の海城「大島城」の領主であった海老名家李(えびないえすえ)が、相模国(現在の神奈川県)の生まれであったことから、「相生」の 2 文字を村の名前としたといわれています。</p>		<p><b>見える景観 &lt;VIEW&gt;</b></p>  <p><b>相生地区のまちなみ</b></p> 	

<b>外 8</b>	<b>揖保川右岸の東山公園橋付近</b>	<b>所在地</b>	たつの市新宮町
		<b>位置情報</b>	北緯 34 度 55 分 00.1 秒 東経 134 度 33 分 05.9 秒
<b>見える景観</b>	吊り橋(人道専用)と小嵐山 <small>こあらしやま</small>		
<p><b>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</b> ビューポイントは、JR 播磨新宮駅から約 900m、徒歩約 15 分のところにあります。すぐそばに架かる吊り橋は、清流揖保川を俯瞰できる人道専用道として昭和 42 年(1967)に架けられた「東山公園橋」です。全長 159m、幅員 2.0m で、主塔間距離は 114m あります。</p> <p><b>見える景観 &lt;VIEW&gt;</b> 吊り橋を渡った向こう側、対岸に見えるのは小嵐山です。山裾一帯は、春はコバノミツバツツジと桜、秋はイロハモミジの紅葉で有名な東山公園です。「孤高の哲学者」と呼ばれた寺田弥吉の記念碑や不動の滝があり、観光の見どころになっています。また、紅葉の時期には夜間のライトアップも行われています。 山裾の白い建物は、たつの市最大の客室数を誇る国民宿舎「志んぐ荘」です。開設時期は昭和 38 年(1963)で、鉄筋コンクリート造 11 階建て、客室数 64 室、宿泊定員 333 名、駐車場収容台数 170 台となっています。レストランでのランチバイキングや四季折々の料理だけでなく、「秋のもみじまつり」の幻想的なライトアップも観光客に人気です。</p> <p><b>関連情報 &lt;INFORMATION&gt;</b> 国民宿舎は、国民に低廉な宿泊・休憩施設を提供し、保養・休養の増進を図ることを目的として、昭和 31 年(1956)に制度化された施設です。たつの市には、従来から宿泊、冠婚葬祭等に利用できる施設が少なかったために、自治体経営の国民宿舎がその機能を果たしてきた歴史があり、市内には、「志んぐ荘」のほか、ビューポイントから少し南に、県の国民宿舎第 1 号として昭和 37 年(1962)に開設した「赤とんぼ荘」があります。 同宿舎は、桜や紅葉で有名な龍野公園、つつじの有名な白鷺山公園に囲まれた山の中腹にあり、眼下の揖保川の清流、播磨平野を一望することができます。</p>		<p><b>ビューポイント &lt;VIEW POINT&gt;</b></p>  <p><b>見える景観 &lt;VIEW&gt;</b></p> 	

<b>外 9</b>	<b>宍粟市役所の対岸にある愛宕神社</b> <small>あたご</small>	<b>所在地</b>	宍粟市山崎町
		<b>位置情報</b>	北緯 35度00分19.6秒 東経 134度33分12.2秒

<b>見える景観</b>	<b>揖保川と出石の船着き場跡</b> <small>いだいし</small>
--------------	--

**ビューポイント <VIEW POINT>**

宍粟市役所から東へ徒歩約10分、対岸の揖保川左岸の標高168mの尾根上に明応2年(1493)に築かれたと伝わる山城、聖山(ひじりやま)城址があります。そこから下ったところ、城の「腰曲輪(こしぐるわ)」にあたる場所に愛宕神社があります。聖山城は、天正8年(1580)に羽柴秀吉が、対岸の宇野氏の本拠である篠の丸城や長水城の攻略に際し、この城を奪い本陣を構えたとされています。聖山城は、城郭としての規模は小さいものの、尾根の突端に東西約12m、南北約9mの主郭を置き、北側斜面に「帯曲輪」、西側斜面に「腰曲輪」を配して防備を固めていました。



**見える景観 <VIEW>**

愛宕神社からは、眼下に流れる揖保川と出石の船着き場跡、その向こうに広がる山崎のまちなみを見ることができます。江戸時代から大正期にかけて、揖保川には当時の主要な物流運搬手段であった高瀬舟が運航していました。山崎では、元和元年(1615)に池田輝澄が入封して間もなく、河川が整備されて高瀬舟の運航が可能となりました。これにより、山崎町出石から網干港経由で大阪方面への物流路が一気に広がりました。出石の船着き場周辺には、船荷を取り扱う問屋が建ち並び、往時には両河岸を合わせて15軒ほどの問屋が軒を並べ、高瀬舟の数も南隣の新宮以北で140艘あったといわれます。明治以降、徐々に航路が陸路に移行していったことから、高瀬舟による水運は終焉を迎えることとなります。



**関連情報 <INFORMATION>**

曲輪は、城の内外を土塁、石垣、堀などで区画したエリアの名称です。中心的な役割を果たす曲輪としては「本丸」、それを囲む「二の丸」、その二の丸を囲む「三の丸」がよく知られていますが、他にも前述の「帯曲輪」、「腰曲輪」、「捨曲輪」などがあります。ちなみに、愛宕神社の位置する腰曲輪は、敵を誘い込み、高所から掃射する場としての役割を担っていました。

<b>外 10</b>	<b>上山高原の山頂</b>	<b>所在地</b>	新温泉町岸田
		<b>位置情報</b>	北緯 35度28分16.0秒 東経 134度27分15.2秒

<b>見える景観</b>	<b>ススキと山並み</b>
--------------	----------------

**ビューポイント <VIEW POINT>**

上山高原は、新温泉町南西部の鳥取県境にあり、氷ノ山後山那岐山(ひょうのせんうしろやまなぎさん)国定公園に指定されています。JR 浜坂駅から南へ車で約50分のところにあります。



**見える景観 <VIEW>**

上山高原一帯は、標高1,309mの扇ノ山(おうぎのせん)、標高1,273mの大ズッコを最高峰とする、火山活動により形成された火山地帯です。その周辺には、扇ノ山等の国有林のブナ林に代表される自然性の高い原生的自然とともに、麓の里に住む人々の営みの中で維持されてきたススキ草原など二次的自然があり、これらが一体となって他地域にない貴重で多様な生態系を形成しています。その結果、イヌワシをはじめ貴重な生物も生息しています。秋には銀色に輝くススキの絨毯(じゅうたん)が一面に広がるほか、赤や黄色の紅葉が山々を彩ります。近景のススキと遠景の紅葉、その上空に広がる青い空がとても素晴らしい風景画を見せてくれます。



**関連情報 <INFORMATION>**

上山高原では、その周辺地域をまるごと「生きた博物館=エコミュージアム」としてとらえ、地域資源の活用を図りながら、自然を保全、再生する活動が進められています。エコミュージアムは、上山高原と麓の集落などを舞台に、自然環境の保全や、環境と共生した暮らしを学び実践する場づくりを、地域住民はじめ多様な主体の参画と協働により進めていく内容となっています。

そのエコミュージアムの活動拠点として整備されたのが「上山高原ふるさと館」です。上山高原周辺の地域の自然や文化を紹介する木造2階建ての建物で、1階にはインフォメーション、休憩室があり、2階には展示室、収蔵庫、体験作業室があります。展示室には上山高原の自然や山の生活、生物の紹介、地域の歴史・文化に関する資料などが展示されており、また、自然観察会や地域の案内も行っています。



# テーマ・目的別索引

---

# テーマ・目的別索引

## 国宝

No.	市町名	<ビューポイント> から見る <見える景観>	頁
46	加古川市	鶴林寺仁王門前 から見る 鶴林寺仁王門と三重塔	37
66	姫路市	JR 姫路駅前の展望台キャッスルビュー から見る 大手前通りと姫路城	47
67		姫路市立美術館前 から見る 美術館と姫路城	48

## 重要伝統的建造物群保存地区

No.	市町名	<ビューポイント> から見る <見える景観>	頁
11	神戸市	北野天満神社 から見る 異人館街風見鶏の館とみなとまち神戸	14
77	たつの市	たつの市指定文化財「小林 實 家住宅土蔵」前 から見る 下川原商店街の古いまちなみ	53
101	豊岡市	出石永楽館の裏通り から見る 皿そばで有名な出石城下町のまちなみ	69
102		豊岡市立出石史料館付近 から見る 土壁の酒蔵のあるまちなみ	
104	養父市	大杉地区の農道 から見る 木造三階建ての旧養蚕農家集落	70
124	丹波篠山市	篠山城跡の天守台 から見る 丹波富士と称される高城山	83
125		河原町妻入商家群の通り から見る 妻入商家の古いまちなみ	
126		武家屋敷安間家史料館前 から見る 茅葺門の武家屋敷群	
130		安口東倶楽部(公民館)前 から見る 農村家屋の残る福住のまちなみ	

## 歴史的なまちなみ

No.	市町名	<ビューポイント> から見る <見える景観>	頁
7	神戸市	有馬温泉街 から見る 温泉街のまちなみ	12
17	尼崎市	長 遠寺の山門前 から見る 寺町のまちなみ	17
26	伊丹市	景観重要建造物「長寿蔵」前 から見る 酒蔵通りのまちなみ	21
27		金剛院の山門前 から見る 猪名野神社参道のまちなみ	
35	三田市	三田本町センター街 から見る 城下町の古いまちなみ	26
38		三輪神社参道 から見る 三輪神社と参道沿いのまちなみ	
41	猪名川町	多田銀銅山悠久の館付近 から見る 多田銀銅山のまちなみ	29
49	高砂市	工業松右衛門旧宅前 から見る 海運で栄えた港町のまちなみ	38
50		梅ヶ枝湯前 から見る 昭和を感じるレトロなまちなみ	
55	西脇市	播州織工房館前 から見る のこぎり屋根が特徴的なまちなみ	41
57	三木市	芝町公民館付近 から見る 旧湯の山街道の古いまちなみ	42
58		旧湯の山街道の大塚薬師堂前 から見る 歴史街道芝町・平山地区のまちなみ	
61	加西市	国登録文化財「水田家住宅」付近 から見る 旧丹波街道の古いまちなみ	44
62		西岸寺前 から見る 寺町通りのまちなみ	
68	姫路市	国登録文化財「芥田家住宅」前 から見る 旧野里街道の古いまちなみ	48
69	神河町	中村・栗賀町地区の旧生野街道 から見る 農村集落の佇まいが残るまちなみ	49
77	たつの市	たつの市指定文化財「小林 實 家住宅土蔵」前 から見る 下川原商店街の古いまちなみ	53
78		龍野城しころ坂前 から見る 龍野城の隅 櫓	
80		室津漁港付近の道路わき から見る 潮待ち・風待ちの港室津漁港	



## 歴史的なまちなみ

No.	市町名	<ビューポイント> から見る <見える景観>	頁
81	赤穂市	旧坂越浦会所付近 から見る 北前船寄港地・坂越のまちなみ	55
83		JR 播州赤穂駅前のお城通り から見る 城下町を思わせるまちなみ	56
84	宍粟市	県景観形成重要建造物「本家門前屋」前 から見る 酒蔵通りのまちなみ	
85	太子町	斑鳩寺東門付近 から見る 聖徳太子ゆかりの斑鳩寺と「富の小川」	57
87	佐用町	平福の天神橋 から見る 宿場町平福の川端風景	58
93	豊岡市	田結川河口 から見る 川沿いに建ち並ぶ焼杉板のまちなみ	65
95		城崎温泉街の地蔵湯橋 から見る 大谿川沿いの柳並木と太鼓橋	66
100		竹野川河口 から見る 北前船寄港地・竹野のまちなみ	68
101		出石永楽館の裏通り から見る 皿そばで有名な出石城下町のまちなみ	69
102		豊岡市立出石史料館付近 から見る 土壁の酒蔵のあるまちなみ	
103	養父市	旧グンゼ八鹿工場事務所棟前 から見る 交通の要衝として栄えた歴史的まちなみ	70
104		大杉地区の農道 から見る 木造三階建ての旧養蚕農家集落	
107	朝来市	姫宮神社手前の姫宮橋 から見る 生野銀山のトロッコ道	72
108		奥銀谷の国道 429 号付近の市道わき から見る 旧鉱山町のまちなみ	73
109		JR 竹田駅裏の虎臥城公園付近 から見る 竹田城下町の寺町通り	
112		矢名瀬の旧山陰道わき から見る 旧宿場町のまちなみ	75
122	新温泉町	味原小径 から見る 西光寺と味原川	80
123		諸寄漁港沿いの道路わき から見る 北前船寄港地の面影を残す建物	
125	丹波篠山市	河原町妻入商家群の通り から見る 妻入商家の古いまちなみ	83
126		武家屋敷安間家史料館前 から見る 茅葺門の武家屋敷群	84
128		上立杭地区「最古の登り窯」前 から見る 丹波焼の登り窯と落葉広葉樹の里山	85
130		安口東倶楽部(公民館)前 から見る 農村家屋の残る福住のまちなみ	86
134	丹波市	かいばら観光案内所付近 から見る 大ケヤキがつくる自然の橋「木の根橋」	88
136		やぐら公園付近の道路わき から見る 城下町の面影を残す古いまちなみ	89
150	淡路市	江井郵便局付近 から見る 線香の匂いが香る古いまちなみ	99
外2	伊丹市	みやのまえ文化の郷前 から見る 都心に残る江戸時代のまちなみ	103
外7	相生市	相生の大谷川に架かる橋 から見る 天満神社周辺の古いまちなみ	106

## 北前船寄港地

No.	市町名	<ビューポイント> から見る <見える景観>	頁
3	神戸市	チャンネルプロムナード から見る 新川運河(兵庫運河)の夜景	10
49	高砂市	工業松右衛門旧宅前 から見る 海運で栄えた港町のまちなみ	38
80	たつの市	室津漁港付近の道路わき から見る 潮待ち・風待ちの港室津漁港	54
81	赤穂市	旧坂越浦会所付近 から見る 北前船寄港地・坂越のまちなみ	55
82		茶臼山城跡 から見る 生島と坂越浦	
100	豊岡市	竹野川河口 から見る 北前船寄港地・竹野のまちなみ	68
121	新温泉町	城山園地 から見る 諸寄漁港と夕日の風景	79
123		諸寄漁港沿いの道路わき から見る 北前船寄港地の面影を残す建物	80

城・城跡

No.	市町名	<ビューポイント> から見る <見える景観>	頁
18	尼崎市	庄下川に架かる開明橋 から見る 尼崎城を彷彿させる石垣風の塀や中央図書館	17
42	明石市	JR 明石駅のホーム から見る 明石城	34
45		明石城「櫓の間」にある展望台 から見る 櫓と明石駅南の再開発ビル群	36
56	西脇市	比延山の三角点・大岩壁 から見る 野村・西脇城跡を含む市街地	42
66	姫路市	JR 姫路駅前の展望台キャッスルビュー から見る 大手前通りと姫路城	47
67		姫路市立美術館前 から見る 美術館と姫路城	48
73	福崎町	春日山城跡 から見る 福崎の市街地	51
78	たつの市	龍野城しころ坂前 から見る 龍野城の隅櫓	53
82	赤穂市	茶臼山城跡 から見る 生島と坂越浦	55
89	佐用町	西はりま天文台北館付近 から見る 雲海に浮かぶ利神城跡	59
110	朝来市	立雲 峽 第一展望台 から見る 雲海に浮かぶ「天空の城」竹田城跡	74
111		竹田城跡天守台 から見る 城跡と山と川に挟まれた竹田城下町	
124	丹波篠山市	篠山城跡の天守台 から見る 丹波富士と称される高城山	83
132	丹波市	黒井城本丸跡 から見る 丹波の山々と雲海	87
138	洲本市	洲本城跡の天守台 から見る 洲本の城下町と大浜海岸と先山	93
外9	宍粟市	宍粟市役所の対岸にある愛宕神社 から見る 揖保川と出石の船着き場跡	107

神社仏閣

No.	市町名	<ビューポイント> から見る <見える景観>	頁
11	神戸市	北野天満神社 から見る 異人館街風見鶏の館とみなとまち神戸	14
16		雌岡山神出神社の展望台 から見る 田園風景と明石海峡大橋	16
17	尼崎市	長遠寺の山門前 から見る 寺町のまちなみ	17
23	西宮市	廣田神社参道一の鳥居付近 から見る 石畳参道の松並木と周辺のまちなみ	20
36	三田市	花山院菩提寺の展望所 から見る 有馬富士、播磨平野や明石海峡	26
38		三輪神社参道 から見る 三輪神社と参道沿いのまちなみ	27
46	加古川市	鶴林寺仁王門前 から見る 鶴林寺仁王門と三重塔	37
47		高御位山山頂 から見る 加古川・高砂の両市に跨がる市街地	
54	西脇市	矢筈山山頂 から見る 六甲・西脇・丹波の山並みと雲海	41
58	三木市	旧湯の山街道の大塚薬師堂前 から見る 歴史街道芝町・平山地区のまちなみ	43
60	小野市	八柱神社付近の農道 から見る 水田と鎮守の森がつくる「ジブリの森」	44
62	加西市	西岸寺前 から見る 寺町通りのまちなみ	45
85	太子町	斑鳩寺東門付近 から見る 聖徳太子ゆかりの斑鳩寺と「富の小川」	57
109	朝来市	JR 竹田駅裏の虎臥城公園付近 から見る 竹田城下町の寺町通り	73
122	新温泉町	味原小径 から見る 西光寺と味原川	80
外9	宍粟市	宍粟市役所の対岸にある愛宕神社 から見る 揖保川と出石の船着き場跡	107

## 雲海

No.	市町名	<ビューポイント> から見る <見える景観>	頁
36	三田市	花山院 <small>かざんいん</small> 菩提寺の展望所 から見る 有馬富士、播磨平野や明石海峡	26
54	西脇市	矢筈山 <small>やはずやま</small> 山頂 から見る 六甲・西脇・丹波の山並みと雲海	41
89	佐用町	西はりま天文台北館付近 から見る 雲海に浮かぶ利神城跡 <small>りかん</small>	59
110	朝来市	立雲峡 <small>りつうんきょう</small> 第一展望台 から見る 雲海に浮かぶ「天空の城」竹田城跡	74
111		竹田城跡天守台 から見る 城跡と山と川に挟まれた竹田城下町	
132	丹波市	黒井城本丸跡 から見る 丹波の山々と雲海	87

## 夜景・星空

No.	市町名	<ビューポイント> から見る <見える景観>	頁
1	神戸市	摩耶山・掬星台 <small>まやさん きくせいだい</small> から見る 阪神間・大阪方面の夜景	9
2		六甲ガーデンテラス から見る 見晴らしのテラスと神戸・大阪方面の夜景	
3		キャナルプロムナード から見る 新川運河(兵庫運河)の夜景	10
8		メリケンパーク から見る ポートタワーと神戸海洋博物館の夜景	12
12		ヴィーナステラス から見る 六甲アイランドから須磨にいたる市街地	14
15		ポーアイしおさい公園 から見る 山並みを背景とした都心部や港の風景	16
16		雌岡山 <small>めつぎさん</small> 神社の展望台 から見る 田園風景と明石海峡大橋	
40	猪名川町	大野山山頂 から見る 猪名川天文台「アストロピア」	28
86	上郡町	星の広場 から見る 播磨科学公園都市の建築群	57
88	佐用町	西はりま天文台南館付近 から見る 満天の星空	58
98	豊岡市	竹野海岸沿いの道路わき から見る 夜に見る猫崎半島の寝転ぶキューピーさん	67
118	新温泉町	湯村温泉街の繁栄橋 から見る 春來川 <small>はるきかわ</small> 沿いの柳並木と温泉街の夜景	78
外6	姫路市	網干なぎさ公園 から見る 姫路臨海部の工場夜景	105

## 棚田

No.	市町名	<ビューポイント> から見る <見える景観>	頁
65	多可町	岩座神公会堂付近 から見る 反りが美しい棚田の石積みと集落風景	47
90	佐用町	乙大木谷 <small>おつおおきだに</small> 倶楽部(公民館)前の展望広場 から見る 乙大木谷の棚田	60
91		田和地区の農道 から見る 田和の棚田	
105	養父市	別宮の大カツラ付近 から見る 別宮の棚田	71
117	香美町	小代区 <small>おじろ</small> の道路わき から見る うへ山の棚田	77
148	淡路市	本圓寺 <small>ほんえんじ</small> 付近の農道 から見る 播磨灘の夕焼けとそれを映す石田の棚田	98

## 温泉街

No.	市町名	<ビューポイント> から見る <見える景観>	頁
7	神戸市	有馬温泉街 から見る 温泉街のまちなみ	12
95	豊岡市	城崎温泉街の地蔵湯橋 から見る 大谿川 <small>おおたにがわ</small> 沿いの柳並木と太鼓橋	66
118	新温泉町	湯村温泉街の繁栄橋 から見る 春來川 <small>はるきかわ</small> 沿いの柳並木と温泉街の夜景	78

## 高原

---

No.	市町名	<ビューポイント名> から見る <見える景観>	頁
70	神河町	<small>とのみね</small> 砥峰高原の池付近 から見る 秋空と高原のススキ	49
71		峰山高原リゾートの第2リフト終点付近 から見る <small>ぎょうせいざん</small> 暁晴山とゲレンデ	50
外10	新温泉町	上山高原の山頂 から見る ススキと山並み	107

## 参考文献

---

## 参考文献

参考文献	ビューポイント No.
「大本山 摩耶山天上寺」(大本山 摩耶山天上寺ホームページ)	1
兵庫県健康生活部環境局、「私の好きな兵庫の風景 100 選」選定委員会／『ひょうご風景 100 選』／福岡宏一／<神戸新聞総合出版センター>／2003	1, 20, 30, 34, 76, 80, 82, 87, 92, 95, 96, 99, 100, 110, 111, 113, 137, 外 10
「須磨浦山上遊園」(山陽電気鉄道(株)ホームページ)	4
藤井勇三／『神戸の史跡を歩く おすすめコース 37』／<神戸新聞総合出版センター>／2003	7, 8, 14
神戸学検定公式テキスト編集委員会・神木哲男／『神戸学検定公式テキスト 神戸学〔改訂版〕』／吉見顕太郎／<神戸新聞総合出版センター>／2012	8, 14
鳴海邦碩／『都市の自由空間』／高梨茂／<中央公論社>／1982	10
「神戸旧居留地オフィシャルサイト」(旧居留地連絡協議会ホームページ)	10
金地勉／『14 コース 神戸まち歩き 裏町で発見』／福岡宏一／<神戸新聞総合出版センター>／2004	11
湯原公浩／『日本の町並み I 近畿◎東海◎北陸』／下中美都／<(株)平凡社>／2003	
「風見鶏の館 神戸北野異人館」((株)日比谷花壇ホームページ)	13
「神戸布引ハーブ園／ロープウェイ」(神戸リゾートサービス(株)ホームページ)	
「神戸新交通」(神戸新交通(株)ホームページ)	15
兵庫歴史教育者協議会／『兵庫歴史散歩①』／田辺徹、歴史散歩刊行会／<(株)草土文化>／1982	17, 36
本岡勇一／『ひょうごの城めぐり』／吉村一男／<神戸新聞総合出版センター>／2018	18, 78
神戸新聞社／『ひょうごランドスケープ 100 景』／<神戸新聞総合出版センター>／1997	20, 98
角野幸博／『家とまちなみ No48』／大川陸／<(財)（現：一財）住宅生産振興財団>／2003	22
「廣田神社公式サイト」(廣田神社ホームページ)	23
『ふるさとの文化遺産 郷土資料事典 28 兵庫県』／大迫忍／<(株)人文社>／1997	23, 98, 100, 118, 121
大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 多木秀太郎ほか／『芦屋川河川軸から捉えた山・海への眺望景観に関する研究(第 15 回関西支部研究発表会講演概要集 Vol. 15)』／<日本都市計画学会関西支部研究発表委員会>／2017	24
「芦屋ベイコート倶楽部」(リゾートトラスト(株)ホームページ)	25
「芦屋マリーナ」((株)マリーナジャパンホームページ)	
神戸新聞総合出版センター／『伊丹新書 ～醸しの郷～』／福岡宏一／<神戸新聞総合出版センター>／2007	26, 27
伊丹市市民自治部環境対策室みどり公園課(現：環境政策室公園課)／『公園緑地 Vol. 74』／<(一社)日本公園緑地協会>／2014	28
田辺真人、(公財)宝塚市文化財団／『宝塚まちかど学[新版]』／山下俊一／<神戸新聞総合出版センター>／2015	29, 31
神戸新聞社学芸部兵庫探検・歴史風土編取材班／『兵庫探検・歴史風土編』／<神戸新聞出版センター>／1975	31
「宝塚エコネット」(宝塚エコネットホームページ)	
「能勢電鉄」(能勢電鉄(株)ホームページ)	32
NPO 法人歴史文化財ネットワークさんだ「歴ネットさんだ・冊子編集委員会」／『三田歴史スポット 100 選』／<NPO 法人歴史文化財ネットワークさんだ>／2008	35, 37, 38

参考文献	ビューポイント No.
「花山院菩提寺」(花山院菩提寺ホームページ)	36
「三輪神社」(三輪神社ホームページ)	38
「NPO 法人地域活性化支援センター」(NPO 法人地域活性化支援センターホームページ)	40
「明石海峡大橋・海上ウォーク「歩行誘導係用」ポケットブック」(パンフレット)／本四道路活用イベント実行委員会／2017	43
『写真アルバム 明石市の昭和』／山田恭幹／<樹林舎>／2015	44
兵庫県の歴史散歩編集委員会／『兵庫県の歴史散歩』／野澤伸平／<(株)山川出版社>／2006	44, 64, 78
明石民俗文化財調査団 編／『明石の城下町：城下町と人々の暮らし』／<明石民俗文化財調査団>／2018	45
「工楽松右衛門旧宅公式サイト」((一社)高砂市観光交流ビューローホームページ)	49
「魅力再発見！ 石の宝殿と竜山周辺史跡～浮石の謎～」(パンフレット)／石の宝殿研究会 編集委員者／2019	51
『BanCul 2007 秋号』／<神戸新聞総合出版センター>／2007	55
『BanCul 2004 夏号』／<神戸新聞総合出版センター>／2004	55, 64
横山晴朗／『はりま歴史の山ハイキング』／福岡宏一／<神戸新聞総合出版センター>／2003	56
上田篤／『鎮守の森』／河相全次郎／<鹿島出版会>／1984	
スタジオジブリ・文春文庫／『ジブリの教科書3 となりのトトロ』／羽鳥好之／<(株)文藝春秋>／2013	60
兵庫縣神職會／『兵庫縣神社誌 附録』／片岡英三／<(株)臨川書店>／1940	
神戸新聞東播支社・北播総局／『播磨のため池』／岡部信夫／<神戸新聞総合出版センター>／2009	63
ビジュアルブックス編集委員会／『失われた風景を歩く』／福岡宏一／<神戸新聞総合出版センター>／2002	64
『BanCul 1997 夏号』／<神戸新聞総合出版センター>／1997	
「WHITEPEAK 峰山高原リゾート」(峰山高原リゾートホームページ)	71
角川日本地名大辞典編纂委員会／『角川日本地名大辞典 兵庫県』／<角川書店>／2009	72
平凡社地方資料センター／『兵庫県の地名Ⅱ』／<平凡社>／1999	
(株)議会ジャーナル、朝日新聞神戸支局／『風と歩くーひょうご風景 100 選ー』／<(株)議会ジャーナル、朝日新聞神戸支局>／1987	75, 77~80, 82, 87, 95, 100~102, 110, 111, 115
「アムテック史料館」((株)JMU アムテックホームページ)	76
『龍野の町並み 2009』／<(社)兵庫県建築士会龍野支部・まちづくり委員会>／2009	77
『兵庫の町並み'85 播磨・淡路』／<「兵庫の町並み'85」編集委員会>／1985	81, 150, 外7
片柳勉／『旧城下町赤穂の景観まちづくりにみる地域の記憶』地球環境研究, Vol. 17／2015	83
「商店街まち歩き 山崎歴史街道」(パンフレット)／山崎町連合商店街	84
「ラジオ関西 JOCR 558KHz」((株)ラジオ関西ホームページ)	84, 外7
『ひらふく再発見』／<平福まちづくり会>／2010	87, 89
『BanCul 2000 秋号』／<神戸新聞総合出版センター>／2000	90

参考文献	ビューポイント No.
NPO 法人棚田ネットワーク・中島峰広／『全国棚田ガイド TANADAS』／高杉昇／〈(一社)家の光協会〉／2017	91
「佐用町田和棚田交流人」(佐用町田和棚田交流人ホームページ)	
『美しい日本のむら 潤いのある風景』／〈全国土地改良事業団体連合会〉／2002	92
「佐用町に移住してみんなで創る自給自足の共生の村づくりを始めています」(一社)利他の花咲く村ホームページ)	
「利他の花咲く村」(一社)利他の花咲く村ホームページ)	
「日和山観光(株)」(日和山観光(株)ホームページ)	94
主婦の友社／『見直したい日本の「美」 日本の歴史的風土 100 選』／萩野善之／〈(株)主婦の友社〉／2010	95
『兵庫の町並み'85 但馬・丹波』／〈「兵庫の町並み'85」編集委員会〉／1985	95, 112, 136
「城崎温泉 きのさき温泉観光協会公式サイト」(きのさき温泉観光協会ホームページ)	96
「城崎温泉元湯案内」／〈(有)ティーアンドエムズホームページ)	
「但馬の百科事典」／〈(公財)たんしん地域振興基金ホームページ)	100
東京藝術大学美術学部建築科講師 博士 河村茂／『但馬・出石 土地の持つ価値を掘り起こし観光のまち創生』	101
代表: 西川幸治／保存修景計画研究会／『歴史の町なみ 近畿篇』／藤根井和夫／〈日本放送出版協会〉／1982	102
なんたんまちなみたんてい団／『僕らはまちなみたんてい団』／早川薫／〈(株)北星社〉／2003	102, 103, 111
「国史跡竹田城跡」(パンフレット)／情報館「天空の城」	110
「美しい日本の歴史的風土 100 選(古都保存財団)」(公財)古都飛鳥保存財団ホームページ)	
「日本 100 名城®」(公財)日本城郭協会ホームページ)	
「全但バス(株)」(全但バス(株)ホームページ)	111
神戸新聞社／『兵庫県政 100 年協賛出版「兵庫県観光百選」』／〈神戸新聞社〉／1967	115
NHK 神戸放送局・姫路放送局／『兵庫史を歩く(第三集)』／岡本行雄／〈神戸新聞出版センター〉／1987	121
「但馬情報特急」(公財)但馬ふるさとづくり協会ホームページ)	123
「立杭 陶の郷 丹波焼の郷」(丹波伝統工芸公園立杭陶の郷ホームページ)	128
「集落丸山」(NPO 集落丸山ホームページ)	129
「丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム」(丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム推進協議会ホームページ)	133
「丹波の森公苑」(パンフレット)／(公財)兵庫丹波の森協会	135
「(公財)兵庫丹波の森協会」(公財)兵庫丹波の森協会ホームページ)	
『淡路島今昔写真集』／岩月正直／〈樹林舎〉／2006	139
「国生み神話の島 淡路島 沼島」(パンフレット)／国生みツーリズム実行委員会	140
『丹下健三 伝統と創造 ～瀬戸内から世界へ～』／〈美術出版社〉／2013	142
岡本稔・武田信一／『淡路の神話と海人族』／〈Books 成綿堂〉／1987	143
『新建築 2000 年 7 月号』／〈(株)新建築社〉／2000	147
「野島断層保存北淡震災記念公園」(株)ほくだん 北淡震災記念公園ホームページ)	148



参考文献	ビューポイント No.
『季刊「ランドスケープデザイン」No. 17』／<(株)マルモ出版>/1999	149
『まっぶる淡路島 鳴門』／<昭文社>/2000	
『観光資源調査報告書「江井のまちなみと廻船問屋 住田家」』／(財)観光資源保護財団 日本ナショナルトラスト(現(公財)日本ナショナルトラスト)/1988	150
「梅薫堂」((株)梅薫堂ホームページ)	
「芦屋市六麓荘町 町内会」(六麓荘町 町内会 事務局ホームページ)	外 1
「横尾忠則のY字路を歩く」(パンフレット)／西脇区まちづくり委員会/2018	外 3
「藤井電工(株)」(藤井電工(株)ホームページ)	外 5
「(株)ダイセル」((株)ダイセルホームページ)	外 6
「comolib magazine」((株)センジュホームページ)	
「いつも NAVI」((株)ゼンリンデータコムホームページ)	外 8

- ・上記の他、国、県、市町及びそれらの関連団体が作成したホームページ、リーフレット、小冊子、現地案内看板等を参考にしています。
- ・参考文献の欄は、以下の順で記載しています。
  - 【書籍】著者／『書名』／発行者／<出版社等>/発行年
  - 【パンフレット】「題名」(パンフレット)／発行者／発行年
  - 【ホームページ】「サイト名」(掲載者ホームページ)

ひょうごの景観ビューポイント150選

令和2年3月 発行

編集・発行 兵庫県 国土整備部  
まちづくり局都市政策課景観形成室  
神戸市中央区下山手通5丁目10番1号  
TEL(078)-341-7711

電子書籍でも発行しています。詳細は、兵庫県ホームページ（“ビューポイント150”で検索）をご覧ください。



# 150 selections